

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部の設置									
フリガナ設置者	カクコホクシン キンジョウガクイン 学校法人 金城学院									
フリガナ大学の名称	キンジョウガクインガク 金城学院大学 (Kinjo Gakuin University)									
大学本部の位置	愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地									
大学の目的	<p>本学は、福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的とする。</p>									
新設学部等の目的	<p>国際化、情報化に関する専門的な知識と技能を総合的に学習し、多角的な視点から現代社会の諸制度と構造を深く把握したうえで、高度な専門的・実践的能力を十二分に活かして現実問題に取り組む人材を育成する。具体的課題として、国際社会、地域研究、現代社会、国際ビジネス、国際リーダーシップ、広告ビジネス、マスコミ、情報デザイン、情報技術の9つの分野を中心に、問題解決に実践的に取り組むことのできる能力を養成する。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	国際情報学部 [College of global and media studies] 国際情報学科 [Department of global and media studies] 計	4年	170人	3年次10人	700人	学士 (国際情報学)	平成24年4月第1年次	愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	(設置) 人間科学部コミュニティ福祉学科 (75) 平成23年4月届出 (廃止) 現代文化学部 国際社会学科 (△80) (3年次編入学定員 (△5)) 情報文化学科 (△90) (3年次編入学定員 (△5)) コミュニティ福祉学科 (△75) (3年次編入学定員 (△5)) ※平成24年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成26年4月学生募集停止)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	国際情報学部国際情報学科	講義	演習	実験・実習	計					
	国際情報学部国際情報学科	246科目	130科目	16科目	392科目	124単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設分	国際情報学部 国際情報学科		9人 (9)	8人 (8)	4人 (4)	0人 (0)	21人 (21)	0人 (0)	134人 (81)
		人間科学部 コミュニティ福祉学科		7人 (7)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	140人 (78)
	計		16人 (16)	10人 (10)	4人 (4)	0人 (0)	30人 (30)	0人 (0)	183人 (109)	

教員組織の概要	既設分	文学部 日本語日本文化学科	4 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	147 (147)
		英語英米文化学科	11 (11)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	148 (148)
		外国語コミュニケーション学科	8 (8)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	133 (133)
		生活環境学部 生活マネジメント学科	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	144 (144)
		環境デザイン学科	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	143 (143)
		食環境栄養学科	6 (6)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	117 (117)
		人間科学部 現代子ども学科	10 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	159 (159)
		多元心理学科	4 (4)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	123 (95)
		芸術・芸術療法学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	148 (148)
		薬学部 薬学科	22 (22)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	32 (32)	0 (0)	137 (137)
		言語センター	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		計	86 (86)	33 (33)	15 (15)	1 (1)	135 (135)	0 (0)	510 (510)
		合計	102 (102)	43 (43)	19 (19)	1 (1)	165 (165)	0 (0)	663 (589)
教員以外の職員の概要	職 種	専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員	83 (83)	34 (34)	117 (117)					
	技 術 職 員	6 (6)	7 (7)	13 (13)					
	図 書 館 専 門 職 員	5 (4)	0 (0)	5 (4)					
	そ の 他 の 職 員	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計	94 (93)	41 (41)	135 (134)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	180,593 m ²	0 m ²	0 m ²	180,593 m ²				
	運 動 場 用 地	27,166 m ²	0 m ²	0 m ²	27,166 m ²				
	小 計	207,759 m ²	0 m ²	0 m ²	207,759 m ²				
	そ の 他	57,002 m ²	0 m ²	0 m ²	57,002 m ²				
	合 計	264,761 m ²	0 m ²	0 m ²	264,761 m ²				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	73,818 m ²	0 m ²	0 m ²	73,818 m ²					
	(73,818 m ²)	(m ²)	(m ²)	(73,818 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	66 室	71 室	94 室	13 室 (補助職員6人)	5 室 (補助職員3人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	国際情報学部国際情報学科			21 室					

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	電子ジャーナルは 大学全体での共用 分を含む	
	国際情報学部 国際情報学科	90,000 [16,500] (86,723 [16,303])	1,250 [230] (1,243 [1,051])	1,800 [1,100] (1,645 [1,051])	1450 (1406)	()	0 (0)		
	計	90,000 [16,500] (86,723 [16,303])	1,250 [230] (1,243 [1,051])	1,800 [1,100] (1,645 [1,051])	1450 (1406)	()	0 (0)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
	6,194 m ²	566		500,000					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	5,706 m ²	全天候型テニスコート7面、ゴルフ練習場17打席、 バレーボールコート4面、運動場（グラウンド）2,914m ²							
経費の 見積り 及び 維持 方法 の概 要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次			
	教員1人当り研究費等（実験系）		360千円	360千円	360千円	360千円	大学全体		
	教員1人当り研究費等（非実験系）		312千円	312千円	312千円	312千円	大学全体		
	共同研究費等		25,080千円	25,080千円	25,080千円	25,080千円	大学全体		
	図書購入費	46,400千円	46,400千円	46,400千円	46,400千円	46,400千円	大学全体		
	設備購入費	60,000千円	60,000千円	60,000千円	60,000千円	60,000千円	大学全体		
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,345 千円	1,125 千円	1,125 千円	1,125 千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入 等							
既設 大学 等の 状況	大学の名称	金城学院大学							
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地
	文学部	年	人	年次 人	人		倍		愛知県名古屋 市守山区大森 二丁目172 3番地
	日本語日本文学学科	4	70	—	280	学士(日本語 日本文学)	1.19	昭和29年度	H21年度に文学部 言語文化学科から 文学部外国語コ ミュニケーション 学科に名称変更。
	英語英米文化学科	4	90	—	360	学士(英語英 米文化)	1.15	昭和24年度	
	外国語コミュニケー ション学科	4	80	—	320	学士(外国語 コミュニケー ション学)	1.13	平成9年度	
	生活環境学部						1.13		
	生活マネジメント学科	4	70	—	290	学士(生活環 境学)	1.12	平成4年度	H22年度に生活環 境学部生活環境情 報学科から生活環 境学部生活マネジ メント学科に名称 変更。 H21入学定員変更 80→70
	環境デザイン学科	4	80	—	320	学士(生活環 境学)	1.20	平成14年度	
	食環境栄養学科	4	80	—	320	学士(生活環 境学)	1.07	平成14年度	
	現代文化学部						1.14		H22年度に現代文 化学部福祉社会 学から現代文化 学部コミュニテイ 福祉学科に名称 変更。 H21入学定員変更 85→80 H21入学定員変更 95→90 H21入学定員変更 85→75
	国際社会学科	4	80	5	335	学士(国際社 会学)	1.24	平成9年度	
	情報文化学科	4	90	5	375	学士(情報文 化学)	1.21	平成9年度	
コミュニテイ福祉学科	4	75	5	320	学士(福祉社 会学)	0.96	平成9年度		

既設大学等の状況	人間科学部						1.18			H21年度に人間科学部芸術表現療法学科から人間科学部芸術・芸術療法学科に名称変更。 H21入学定員変更 90→120	
	現代子ども学科	4	120	5	460	学士(人間科学)	1.27	平成14年度			
	多元心理学科	4	110	5	110	学士(人間科学)	1.11	平成23年度			
	心理学科社会心理学専攻	4				学士(人間科学)		平成14年度		平成23年度より学生募集停止	
	心理学科臨床心理学専攻	4				学士(人間科学)		平成14年度		平成23年度より学生募集停止	
	芸術・芸術療法学科	4	50	5	210	学士(人間科学)	0.99	平成14年度			
	薬学部										
	薬学科	6	150	—	900	学士(薬学)	0.95	平成17年度		H18就業年限延長 4→6 H18収容定員変更 600→900	
	文学研究科										
	国文学専攻 (博士課程・後期課程)	3	2	—	6	博士(文学又は学術)	0.16	平成5年度			
	英文学専攻 (博士課程・後期課程)	3	2	—	6	博士(文学又は学術)	0.16	平成5年度			
	社会学専攻 (博士課程・後期課程)	3	2	—	6	博士(社会学又は学術)	0.50	平成5年度			
	国文学専攻 (博士課程・前期課程)	2	5	—	10	修士(文学又は学術)	0.90	昭和43年度			
	英文学専攻 (博士課程・前期課程)	2	5	—	10	修士(文学又は学術)	0.70	昭和42年度			
	社会学専攻 (博士課程・前期課程)	2	5	—	10	修士(社会学又は学術)	0.70	昭和63年度			
	人間生活学研究科										
	人間生活学専攻 (博士課程・後期課程)	3	3	—	9	博士(学術)	1.19	平成11年度			
	消費者科学専攻 (博士課程・前期課程)	2	8	—	16	修士(消費者科学)	0.25	平成8年度			
	人間発達学専攻 (博士課程・前期課程)	2	8	—	16	修士(人間発達学)	1.87	平成8年度			
	附属施設の概要	<p>目的 薬学教育の一環として、学生に薬用植物や生薬についての生きた知識を学ばせることを目的とする。</p> <p>名称 金城学院大学薬草園</p> <p>所在地 愛知県名古屋市守山区大森二丁目1723番地</p> <p>設置年月日 平成17年4月</p> <p>敷地面積 1130㎡ (温室面積) (63㎡)</p> <hr/> <p>目的 大学院臨床心理士養成のための実習及び学部臨床心理学実習の場を提供するとともに、一般来談者を対象とする心理臨床相談を行い、地域社会へ貢献することを目的とする。</p> <p>名称 金城学院大学心理臨床相談室</p> <p>所在地 愛知県名古屋市守山区大森二丁目1723番地</p> <p>設置年月日 平成13年4月</p> <p>建物面積 601.26㎡</p>									

教 育 課 程 等 の 概 要

(国際情報学部国際情報学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目 I 建学の精神を学ぶ科目(金城アイデンティティ科目)	①キリスト教	キリスト教学(1)	1前	2			○								兼1	
		キリスト教学(2)	1後	2			○								兼1	
		芸術とキリスト教	1・2・3・4 前後		2			○							兼4	オムニバス
		現代とキリスト教	1・2・3・4後		2			○		1					兼1	オムニバス
		いのち・福祉とキリスト教	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		キリスト教精神と医療	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		文学とキリスト教	1・2・3・4 前後		2			○							兼4	オムニバス
		人間の尊厳とキリスト教	1・2・3・4後		2			○							兼4	オムニバス
		聖書の中の女性	1・2・3・4 前後		2			○							兼1	
		歴史の中の女性	1・2・3・4 前後		2			○							兼1	
	②女性	世界の女性	1・2・3・4 前後		2			○							兼1	
		いのち・福祉と女性	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		女性と文学	1・2・3・4 前後		2			○							兼1	
		性差の科学	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		男女共同参画社会	1・2・3・4 前後		2			○							兼1	
		小計(22科目)	-	4	40	0	-			1	0	0	0	0	兼26	
	II 現代社会の教養の基礎となる科目	④教養基礎科目	哲学	1・2・3・4 前後		2			○							兼1
			倫理学	1・2・3・4 前後		2			○							兼1
			文化論	1・2・3・4 前後		2			○							兼2
			文学	1・2・3・4 前後		2			○							兼2
			歴史学	1・2・3・4 前後		2			○							兼1
			日本語学	1・2・3・4前		2			○							兼1
心理学			1・2・3・4 前後		2			○							兼2	
文化人類学			1・2・3・4前		2			○							兼1	
地理学			1・2・3・4後		2			○							兼1	
法学			1・2・3・4 前後		2			○							兼2	
日本国憲法			1・2・3・4 前後		2			○			1				兼1	
経済学			1・2・3・4 前後		2			○				1			兼1	
経営学			1・2・3・4 前後		2			○				1				
社会学			1・2・3・4 前後		2			○							兼3	
政治学			1・2・3・4 前後		2			○							兼1	
数学			1・2・3・4前		2			○			1					
統計学			1・2・3・4後		2			○							兼1	
情報学			1・2・3・4 前後		2			○				1				
生物学			1・2・3・4 前後		2			○			1					
薬学			1・2・3・4 前後		2			○							兼2	
環境学			1・2・3・4 前後		2			○							兼1	
健康科学			1・2・3・4前		2			○							兼2	
生命科学	1・2・3・4 前後		2			○							兼2			
芸術論	1・2・3・4 前後		2			○							兼1			
小計(24科目)	-	0	48	0	-			2	3	1	0	0	兼25			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目	⑦ 外国語教育科目	韓国・朝鮮語(2)	1後	1			○								兼3
		韓国・朝鮮語(3)	2前	1			○								兼2	
		韓国・朝鮮語(4)	2後	1			○								兼2	
		韓国・朝鮮語会話(1)	1前	1			○								兼3	
		韓国・朝鮮語会話(2)	1後	1			○								兼3	
		韓国・朝鮮語会話(3)	2前	1			○								兼2	
		韓国・朝鮮語会話(4)	2後	1			○								兼2	
	⑧ 情報教育科目	情報リテラシー	1前	2			○									兼1
		IT活用A	1・2・3・4 前後	2			○			1	1					
		IT活用B	1・2・3・4 前後	2			○									兼1
		IT活用C	1・2・3・4 前後	2			○									兼1
		IT活用D	1・2・3・4 前後	2			○									兼1
		IT活用E	1・2・3・4後	2			○									兼1
		IT活用F	1・2・3・4前	2			○									兼1
	IT活用G	1・2・3・4後	2			○			1							
	⑨ キャリア開発教育科目	キャリア開発 A	1前	2			○									兼1
		キャリア開発 B	1後	1			○									兼1
		キャリア開発 C	2前	2			○									兼1
		キャリア開発 D	2後	2			○									兼1
		キャリア開発 E	3前	2			○									兼1
		キャリア開発 F	3後	2			○									兼1
		キャリア開発 G(1)	2後	2			○									兼1
		キャリア開発 G(2)	3通	2					○							兼1
	小計(68科目)	-	11	72	0	-			2	1	0	0	0		兼57	
	⑩ S&E教育科目	スポーツ・アンド・エクササイズA	1・2 前後	1					○							兼2
		スポーツ・アンド・エクササイズB	1・2 前後	1					○							兼2
		スポーツ・アンド・エクササイズC	1・2 前後	1					○							兼2
スポーツ・アンド・エクササイズD		1・2 前後	1					○							兼2	
スポーツ・アンド・エクササイズE		1・2 前後	1					○							兼3	
スポーツ・アンド・エクササイズF		1・2 前後	1					○							兼2	
スポーツ・アンド・エクササイズG		1・2・3・4 前後	1					○							兼1	
スポーツ・アンド・エクササイズH		3・4 前後	1					○							兼2	
小計(8科目)	-	0	8	0	-			0	0	0	0	0		兼13		
VI アクティブ・ラーニング科目	⑪ プロジェクト科目	海外研修A	2・3・4 前後	2				○							兼1	
	海外研修B	2・3・4 前後	2					○							兼1	
	海外研修C	2・3・4 前後	2					○							兼1	
	海外研修D	2・3・4 前後	2					○							兼1	
	海外研修E	2・3・4 前後	2					○							兼1	
	異文化体験	1・2・3・4 前後	2					○							兼1	
	ボランティア活動	1・2・3・4 前後	2					○							兼1	
	学生プロジェクト	1・2・3・4 前後	2					○							兼1	
小計(8科目)	-	0	16	0	-			0	0	0	0	0		兼6		
⑫ 単位認定科目	外国語検定(英語コミュニケーションA)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(英語コミュニケーションB)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(英語コミュニケーションC)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(英語コミュニケーションD)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(ドイツ語1、2)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(ドイツ語3、4)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(ドイツ語会話1、2)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(ドイツ語会話3、4)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(フランス語1、2)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(フランス語3、4)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(フランス語会話1、2)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(フランス語会話3、4)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
	外国語検定(スペイン語1、2)	1・2・3・4 前後	2					○		1						
外国語検定(スペイン語3、4)	1・2・3・4 前後	2					○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	⑫ 単位認定科目	外国語検定（スペイン語会話 1、2）	1・2・3・4 前後	2			○		1						
		外国語検定（スペイン語会話 3、4）	1・2・3・4 前後	2			○		1						
		外国語検定（中国語 1、2）	1・2・3・4 前後	2			○		1						
		外国語検定（中国語 3、4）	1・2・3・4 前後	2			○		1						
		外国語検定（中国語会話 1、2）	1・2・3・4 前後	2			○		1						
		外国語検定（中国語会話 3、4）	1・2・3・4 前後	2			○		1						
		外国語検定（韓国・朝鮮語 1、2）	1・2・3・4 前後	2			○		1						
		外国語検定（韓国・朝鮮語 3、4）	1・2・3・4 前後	2			○		1						
		外国語検定（韓国・朝鮮語会話 1、2）	1・2・3・4 前後	2			○		1						
		外国語検定（韓国・朝鮮語会話 3、4）	1・2・3・4 前後	2			○		1						
	小計（24科目）		0	48	0		—	1	0	0	0	0			
日本語及び日本事情に関する科目	日本語科目	日本語 201	1・2後	5			○								兼4
		日本語 202	1・2後	5			○								兼4
		日本語 300	1・2前	2			○								兼2
		日本語 301	1・2後	2			○								兼2
		日本語 400	1・2前	2			○								兼2
		日本語 401	1・2後	2			○			1					兼1
	日本事情に関する科目	日本事情A	1・2前	2			○		1						
		日本事情B	1・2後	2			○								兼1
		日本事情C	1・2前	2			○								兼1
		日本事情D	1・2後	2			○								兼1
	現代日本社会A	1・2前	2			○								兼1	
	現代日本社会B	1・2後	2			○								兼1	
	インディペンデント・スタディ	1・2 前後	2				○							兼3	
	小計（13科目）		0	32	0		—	1	1	0	0	0		兼6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	基幹科目	国際情報概論	1前	2			○			1	3					オムニバス	
		グローバルスタディーズ概論	1前	2			○				1	1				オムニバス	
		メディアスタディーズ概論	1前	2			○			1	1					オムニバス	
		W L I A	1前	2				○		8	8	3					
		W L I B	1後	2				○		8	8	3					
		K I T A	1前	2				○		1	1	1				兼2	
		K I T B	1後	2				○		1	1	1				兼4	
		K I T C (1)	2前	2					○	2							
		K I T C (2)	2・3・4前後	2					○	1							
		小計 (9科目)	-	16	2	0		-		9	8	4	0	0		兼4	
展開科目	国際社会	異文化体験ひろば	1前	2			○			1							
		異文化間コミュニケーション	2後	2			○				1						
		国際社会と法	2後	2			○				1						
		国際関係学A	2後	2			○			1							
		国際関係学B	3・4前	2			○			1							
		国際理解教育	3・4後	2			○									兼1	
		民族と宗教	2後	2			○									兼1	
		国際人権法	3・4前	2			○				1						
		国際協力論	3・4後	2			○									兼1	
		グローバルスタディーズ特論A	3・4前	2			○									兼1	
		グローバルスタディーズ特論B	3・4後	2			○									兼1	
		グローバル社会と女性	1後	2			○									兼1	
		グローバル人口移動論	2前	2			○									兼1	
		グローバル都市論	3・4後	2			○									兼1	
		Economy & Society on the Globe	3・4後	2				○								兼1	
		地域研究	地域研究総論	1前	2			○			1						
			地誌	1前	2			○					1				
人文地理学	1後		2			○					1						
経済地理学	3・4後		2			○					1						
現代日本と欧米	2前		2			○									兼1		
現代日本とアジア	2後		2			○					1						
日本社会論	1前		2			○									兼1		
中国社会論	2前		2			○						1					
韓国社会論	1前		2			○									兼1		
アメリカ社会論	2後		2			○					1						
アジアの社会と文化	2前		2			○									兼1		
ヨーロッパの社会思想	3・4後		2			○			1								
観光文化論	2後		2			○									兼1		
Economy & Society in Japan	3・4後		2				○								兼1		
現代社会	社会学基礎論	1前	2			○				1					兼1		
	現代社会論	2前	2			○											
	政治学 (平和と暴力)	1後	2			○			1								
	法律学	2前	2			○				1							
	日本史	1後	2			○									兼1		
	外国史	2前	2			○									兼1		
	アジア現代史	1後	2			○									兼1		
	ヨーロッパ現代史	3・4前	2			○			1								
	自然環境論	2前	2			○									兼1		
	心理学概説	2後	2			○									兼1		
	マイノリティ論	1後	2			○									兼1		
	社会調査入門	1後	2			○									兼1		
	社会調査の技法	2前	2			○									兼1		
	社会調査の実際	2後	2			○									兼1		
	社会調査統計	3・4前	2			○					1				兼1		
	質的調査論	3・4後	2			○					1						
社会調査実習	3・4通	2					○							兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目 展開科目	経済のグローバル化 (経済学)	1後		2		○				1					兼1 オムニバス
	アジア経済論	2前		2		○									
	中国経済論	2後		2		○					1				
	アメリカ経済論	2前		2		○				1					
	国際ビジネス事情	2前		2		○				1					
	国際経済学A	3・4前		2		○					1				
	国際経済学B	3・4後		2		○									
	開発経済学	2前		2		○									
	環境ビジネス論	2後		2		○									
	ソーシャルビジネス論A	2前		2		○					1				
	Business English A	1前		2			○				1				
	Business English B	1後		2			○				1				
Business English C	2前		2			○			1						
Business English D	2後		2			○			1						
女性リーダーシップ	W L I C	2前		2		○				1				兼1 兼1	
	W L I D	2後		2		○				1					
	W L I E	3・4前		2		○									
	W L I F	3・4後		2		○									
	Integrated Skills A	1前		2		○					1				
	Integrated Skills B	1後		2		○					1				
	Integrated Skills C	2前		2		○					1				
	Integrated Skills D	2後		2		○					1				
Integrated Skills E	3・4前		2		○					1					
Integrated Skills F	3・4後		2		○					1					
広告ビジネス	経営学総論	1後		2		○				1				兼1 兼1 兼1 兼1	
	起業論	1後		2		○					1				
	インターネットビジネス論	2前		2		○									
	簿記・会計 (1)	2前		2		○									
	簿記・会計 (2)	2後		2		○				1					
	経営管理論	2後		2		○					1				
	マーケティング論	1後		2		○				1					
	市場調査論	2前		2		○					1				
	広告論	2前		2		○				1					
	流通論	3・4前		2		○					1				
	消費者行動論	3・4後		2		○				1					
広告コピー制作	2前		2		○				1						
CM制作	2後		2		○				1						
マスコミ	マスコミュニケーション論	1前		2		○				1				兼1 兼1 兼1 兼1	
	メディア論	1後		2		○									
	活字メディア論	2前		2		○									
	ジャーナリズム論	2前		2		○				1					
	放送メディア論	2後		2		○				1					
	身体メディア論	2後		2		○									
	ソーシャルメディア論	3・4後		2		○					1				
	アナウンス技術A	2前		2		○									
自己表現技術	2前		2		○										
情報デザイン	情報学総論	1前		2		○								兼1	
	カラーコーディネート論	1後		2		○									
	イラストレーション技術	1前		2		○				1					
	Web制作技術	2前		2		○				1					
	CG論	2前		2		○				1					
	アニメーション技術	2前		2		○				1					
	デジタルコンテンツ制作技術	2前		2		○					1				
	マルチメディア論	2後		2		○					1				
	3D-CG技術	2後		2		○					1				
映像論	3・4前		2		○										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	情報技術	情報社会論	1後	2		○									兼1
		情報システム論	1後	2		○			1						
		情報技術論	2前	2		○			1						
		情報ネットワーク論	2前	2		○			1						
		情報処理論	2後	2		○									兼1
		情報教育論	2後	2		○									兼1
		プログラミング (1)	2後	2		○			1						
		情報職業論	2後	2		○									兼1
		情報倫理論	3・4前	2		○				1					
		モデル化とシミュレーション	2前	2		○									兼1
		小計 (112科目)	—	0	224	0	—			8	8	4	0	0	兼40
実践・応用科目	ソーシャルビジネス論B	2後	2		○					1				兼1	
	旅行業務研究	2通	2		○									兼1	
	観光ビジネス研究	2後	2		○									兼1	
	通関業務研究	2通	2		○									兼1	
	貿易実務研究	2後	2		○									兼1	
	NGO・NPO研究	3・4前	2		○									兼1	
	ファイナンス研究	3・4前	2		○									兼1	
	Global Issues A	3・4前	2				○							兼1	
	Global Issues B	3・4後	2				○	○						兼1	
	Business English E	3・4前	2				○	○		1					
	Business English F	3・4後	2				○	○		1					
	プログラミング (2)	3・4前	2		○			1							
	Webデザイン技術	2後	2		○				1						
	アナウンス技術B	2後	2		○			1							
デジタルミュージック技術	3・4後	2		○									兼1		
DTP技術	3・4前	2		○			1								
小計 (16科目)	—	0	32	0	—			3	2	1	0	0	兼8		
演習科目	国際情報演習 (1)	2前	1				○		8	8	3				
	国際情報演習 (2)	2後	1				○		8	8	3				
	国際情報演習 (3)	3通	2				○		8	8	3				
	国際情報演習 (4)	4通	2				○		8	8	3				
小計 (4科目)	—	6	0	0	—			8	8	3	0	0	0		
論文業	卒業論文・卒業制作	4通	4				○		8	8	3				
	小計 (1科目)	—	4	0	0	—			8	8	3	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職に関する科目	教職入門	1・2・3・4後		2		○				1						
	学校と教育の歴史	1・2・3・4前		2		○										兼1
	教育制度論	1前		2		○										兼2
	障害者教育論	3前		2		○										兼1
	教育課程論	3前		2		○										兼1
	社会科・地理歴史科教育の研究A	2前		2		○										兼1
	社会科・地理歴史科教育の研究B	2・3後		2		○										兼1
	社会科・公民科教育の研究A	2前		2		○										兼1
	社会科・公民科教育の研究B	2・3後		2		○										兼1
	情報科教育の研究	2通		4		○				1						
	道徳教育の理論と方法	3後		2		○										兼2
	特別活動の指導法	3後		2		○										兼2
	教育方法の理論と実践	2後		2		○										兼2
	教育の方法と技術 (情報機器及び教材の活用を含む)	2後		2		○										兼1
	生徒指導の理論と方法	3後		2		○										兼1
	教育相談	1後		2		○										兼1
	教育実習A	3通		3				○		1						兼3
	教育実習B	4通		3					○	1						兼1
	教育実習C	4通		5					○	1						兼1
	教職実践演習 (中高)	4通		2				○		1						兼3
小計 (20科目)		-	0	47	0	-			0	1	0	0	0		兼16	

合計 (392科目)	-	41	691	0	-			9	8	4	0	0	兼213
------------	---	----	-----	---	---	--	--	---	---	---	---	---	------

学位又は称号	学士 (国際情報学)	学位又は学科の分野	文学、社会学・社会福祉学、工学関係
--------	------------	-----------	-------------------

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

領域	科目	単位数			備考	
		必修	選択	合計		
共通教育科目	I 建学の精神を学ぶ科目	4	○		○ 3テーマから2テーマにわたって4単位	
	テーマ①「キリスト教」		○			
	テーマ②「女性」		○			
	II 現代社会の教養の基礎となる科目	4		4	● 5つの科目群から5単位	
	III 幅広く教養を身につける科目	8	●			
	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目	8	●			
IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目	3	●				
V スポーツを通じて健康増進を図る科目	2	●				
VI アクティブ・ラーニング科目	2	●				
専門教育科目	基幹科目	16		16	グローバルスタディーズコースは①～⑤から32単位、⑥～⑨及び実践・応用科目から16単位。メディアスタディーズコースは⑤～⑨から32単位、①～⑤及び実践・応用科目から16単位	
	展開科目	① 国際社会				48
		② 地域研究				
		③ 現代社会				
		④ 国際ビジネス				
		⑤ 女性リーダーシップ				
		⑥ 広告ビジネス				
		⑦ マスコミ				
		⑧ 情報デザイン				
		⑨ 情報技術				
実践・応用科目						
演習科目	6		6			
卒業論文・卒業制作	4		4			
自由履修科目			20	20		
合計		41	83	124		

授 業 科 目 の 概 要

(国際情報学部国際情報学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 I 建学の精神を学ぶ科目 (金城アイデンティティ科目)	①キリスト教 キリスト教学(1)	キリスト教と聖書は、西洋世界の歴史と文化の基層であると同時に、宗教的存在としての人間の本質を明らかにする。それ故、キリスト教と聖書についての研究は、西洋文明と人間に関する深い理解を可能にする。本講義の目的は、聖書に現れているいろいろの主題やキリスト教の主要教理、キリスト教の歴史、現代におけるキリスト教の意義などについて研究することによって、キリスト教の真理を概括的に理解し、国際化されている今日、教養人としての基本的な素養を備えるようにすることである。	
	キリスト教学(2)	キリスト教は、古代から現代に至るまで、人間の多様な思想と文化に出会いながら人類に救いの道を開いてきた。「言は肉体になり、わたしたちのうちに宿った」(ヨハネによる福音書1・14) という告白は、このような事実を意味する。本講義は、前期に続いて、キリスト教の永遠の真理を理解しようとした様々な試みを研究する。すなわち、キリスト教の真理が教会の内外で、あるいは哲学、文学、芸術などの文化現象の中で、どのように具体化されたのかという問いに答えるのが、本講義の目的である。	
	芸術とキリスト教	(前期：美術) 西洋美術を通じてキリスト教を理解しキリスト教に親しみを持つ。同時に、キリスト教を知ることによって美術作品をより深く理解する。(オムニバス方式／全15回) (74 山脇一夫／8回) 前半は、初期キリスト教から中世、ルネサンス、バロックに至るまでのキリスト教美術の歴史を建築、彫刻、絵画によって主に様式の変遷をとおしてたどる。後半は、「絵で読む聖書」と題して、美術作品を通じて聖書の物語を理解する。 (39 柴田道子／3回) ヨーロッパの時代・地域によるマリア像の変遷をたどる。 (42 楚輪松人／4回) ウフィツィ、ロンドン・ナショナルギャラリー、ルーヴル、プラドのヨーロッパを代表する4つの美術館に所蔵されるキリスト教の名画を通じて、聖書の教えを読み解く。 (後期：音楽) 賛美歌を通じて、キリスト教を理解し、キリスト教に親しみを持つ。同時に、キリスト教を知ることによって、西洋音楽をより深く理解する。今日も世界のどこかで歌われている賛美歌のスタンダード・ナンバーのなかから、名曲を厳選し、メロディー、ハーモニー、リズム、歌詞の意味などを理解した上で、実際に歌ってみる。授業は、二人の教員によるコーディネート方式で、賛美歌という音楽ジャンルを多面的に捉えることを目的とする。他に例を見ない非常にオリジナルな金城ならではの授業となる。女性の賛美歌作者の作品にも注目していく。	オムニバス方式
	現代とキリスト教	キリスト教と関わる思想・思考や世界の様々なキリスト教徒の暮らし方などを学び、現代社会をキリスト教の観点から問い直す。(オムニバス方式／全15回) (30 太田正登／5回) 神社への初詣、教会での結婚式、寺院での葬式と1人の日本人がなぜいくつもの宗教と関わる事ができるのか。あるいは無宗教でいられるのか。民族性との関わりから、日本人の宗教観について検討する。 (36 櫻井のり子／5回) 「電気を使わない」「車に乗らない」— 現代アメリカにあって特異な生活スタイルで知られるアーミッシュはキリスト教プロテスタントの一派である。このような例を初めとし、世界各地のキリスト教徒の信仰のアイデンティティとそれに基づく日常の暮らし方を学ぶ。 (30 太田正登／5回) キリスト教と近現代の思想との関係を考える。例として、マックス・ウェーバーの著作『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を紹介し、カルヴァン派、Calling、原始的蓄積など社会科学特有の概念・思考とキリスト教の関わりを考察する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 I 建学の精神を学ぶ科目（金城アイデンティティ科目）	いのち・福祉とキリスト教 ①キリスト教	なぜ「いのち・福祉とキリスト教」について学ぶのか。それは、キリスト教の日本における受容の際に、知識に加えてキリスト教の福祉実践も重要な役割を果たしたからである。この講義では、①「いのちとキリスト教」をどのようにとらえるか(生物学的背景とキリスト教的な生命観、ハンセン病者の支援等)、②クリスチャン・ソーシャルワーカーの足跡、③現代的な課題に応える(ホームレスや派遣切りにあった人、外国人労働者等への支援等)について、現場で実践されている方たちを講師としてお招きし、キリスト教の価値観や視点を学ぶ。	
	キリスト教精神と医療	イエスキリストは、難病や生まれつきの病いを負った人たちに寄り添い、時にはその御手で癒された。現代においても、イエスキリストの憐みの精神を受け次いで、難病患者の救済に生涯を捧げた多くの医療従事者がいる。本授業では、新約聖書時代の病気のとらえ方、治療法、死生観を学ぶ。また、近代において、難病を治療することや難病患者と寄り添うことに捧げた医療従事者たちのキリスト教精神について学ぶ。	
	文学とキリスト教	本授業のねらいは、さまざまな文学者の感性や知性をとおしてキリスト教に触れること、および、言葉による作品すなわち「文学」としての聖書のありかたを知ることによって、教養としてのキリスト教への理解を深めることにある。(オムニバス方式/全15回) (83 北原ルミ/6回) キリスト教文化圏としての長い伝統を持つ欧米の文学において、聖書の登場人物、挿話、言葉を、個々の作家がいかに関心し、作品に取り込んだのかを紹介し、その意味を探る。 (37 柴崎隆/3回) ヨーロッパにおける宗教改革と、聖書の俗語訳の普及とは切り離せない。聖書のドイツ語等の翻訳を紹介し、聖書の言葉の翻訳にからむ文化的問題を考える。 (35 小室尚子/3回) 日本で聖書が読まれるようになった明治期、聖書の言葉はどのような日本語に訳されたのか。新しい概念と日本の文化との葛藤について考える。 (33 金承哲/3回) キリスト教の歴史の浅い日本において、キリスト教の影響を受けた文学者たちが果たした役割は大きい。現代の作家遠藤周作を取り上げ、そのキリスト教観を考察する。	オムニバス方式
	人間の尊厳とキリスト教	キリスト教の人間観は、人間が神によって創造され、また愛される存在であるととめられる。そのような人間理解から、人間は一人ひとりかけがえのない貴重な存在であり、神から天賦の尊厳性を与えられたという「人間の尊厳」(human dignity)という概念が生じる。しかしながら、人間の尊厳性は、決して当たり前のもので守られていないのが現実でもある。現代の社会においては、精神的にも、また物質的にも、数多くの社会的弱者を量産しており、人間の尊厳性が失われてしまう危機にさらされている。本講義は、「人間の尊厳」について様々な分野から研究することによって、尊厳性を保つ人間の本質について考えることを目的とする。(オムニバス方式/全15回) (33 金 承哲/6回) キリスト教からみた人間の尊厳 (81 上村千尋/3回) 子どもの尊厳 (79 大山小夜/4回) 経済的弱者の尊厳	オムニバス方式
聖書の中の女性	『聖書』には、紀元前950年ころから紀元100年にかけて書かれた66の文書が収録されている。言うまでもなく女性観は、旧・新約を通して多様である。それは約千年にわたる聖書執筆の歴史的背景を反映しているからであるが、各時代の社会的影響を受けていながら、それでも聖書全体の根底には一貫した女性観があることに気付かされる。本授業は、旧・新約聖書それぞれの女性観を読み解くとともに、聖書の根底を流れる女性理解を探ることを目的とする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 I 建学の精神を学ぶ科目（金城アイデンティティ科目） ② 女性	歴史の中の女性	女性が政治・経済的な公共領域に出現したのは、20世紀になってからである。権利を持つこと、自由に発言できることといった行為が、認められていなかった現実のなかでどのように女性解放思想が進化したのか。本講義では欧米に端を発したリベラリズム（自由主義）から女性たちの権利がどのように発展したのか、また日本の参政権運動、社会運動の流れを韓国との対比から見てゆく。また、近年第三世界の女性たちやイスラム文化地域の女性たちから考える〈人権〉の在り方が、欧米リベラリズムの議論に対してどのような立場になってくるのか議論し、トランスナショナル（越境的）・フェミニズムの行方を考える。	
	世界の女性	本講義では、戦後設立された国際連合がどのように世界の女性の問題に取り組んできたかをまず概観する。そして今現在、世界の女性たちが、どのような問題に直面しているのかを学び、解決の方法を模索する。女性は、①政治参画できているのか、②経済力をどの程度もっているのか、③市民としてふさわしい生活をおくれているのか、④社会的な身分はどうか、⑤教育を受けているのかといったことに注目していく。これらのカテゴリーのなかで外国人労働者問題、移民の法的権利、女性の健康に影響する伝統的慣行、人身売買などを扱う。	
	いのち・福祉と女性	歴史的にも現在も、女性が男性に対して劣位におかれているということ、それはジェンダー（社会的・文化的な性差）から派生する問題であるというフェミニズムの認識のうえに立って、女性のおかれている現代的状況を考察する。特に、福祉社会において女性が抱える諸問題―労働問題、家族問題、福祉制度、女性の生き方その他―を明らかにし、それらを解決するための制度の整備を検討する。講義をとおして、福祉社会のなかで女性が主体的に生きることについて考える。	
	女性と文学	文学と女性のライフストーリーとの関係をおもに日本の近代文学を材料にして講義する。文学は女性の人生を写すばかりではなく、女性のライフストーリーにたいして、いい意味でも悪い意味でも大きな影響力や規制力をもつ。この講義では、結婚、恋愛、性、家族、金銭などのテーマにそって、明治、大正、昭和にかけて多くの女性読者に読まれた小説を取り上げる。近代文学の母体となった明治30年代家庭小説、夏目漱石の新聞連載小説、女性信奉者が多かった有島武郎の小説などである。必要に応じて、外国文学にも言及して、比較検討をおこなう。	
	性差の科学	近年、男性と女性の間には存在する様々な差異：性差を研究し、医療や教育の現場に応用する試みが始まっている。その一方で、心と体の性別が一致しない性同一性障害等についても、社会の中で広く認知されるようになった。本講義では、性染色体によるヒトの性別決定のメカニズムや男性ホルモン・女性ホルモン等の働きを、生物学・生理学・薬理学を基礎として学ぶと共に、マスメディア等で頻繁に取り上げられる性差や男性脳・女性脳といった表現を様々な視点から吟味・検討し、男女共同参画社会の中で、性差を上手に活用する方法を考えていく。	
	男女共同参画社会	男女共同参画社会基本法は、性別に関係なく社会のあらゆる分野に参画し、責任をもつ社会をつくらうという法律である。そこでは5つの基本的理念（①男女の人権の尊重、②制度または慣行についての配慮、③政策などの立案及び決定への共同参画、④家庭生活における活動と他の活動の両立、⑤国際的協調）を掲げている。本講義では、初回に法律制定までの概要を説明し、その後、各基本的理念の現状と問題点を考える。各講義の最後に、講義内容を踏まえ、男女共同参画社会を実現するためには何が必要なのかを毎回考える。	
	③ 国際理解	国際問題	20世紀国際政治史における「戦争と難民」の視点から「ネーションとは何か」を検討していく。ネーションの境界を画定し「国民国家」の建設と統合を促す最大の要因を戦争に据え、パワー・ポリティクスによる秩序構築と「国民国家」再編のなかで排除されてきた難民を中心に議論を進める。とくに、二つの世界大戦の帰結として生み出され、いまなおその渦中にある「パレスチナ難民」を取り上げる。大国中心の国際秩序の歪み、難民の歴史と現況、ひいては国際社会の関与のあり方についても検討していく。
共通教育科目 アイデンティティを学ぶ科目（金城アイデンティティ科目） ③ 国際理解	国際関係	まず、国際関係論の基本的枠組であるリアリズムとアイデアリズムを軸に「戦争と平和」について考える。主権国家システム、安全保障、勢力均衡など基本概念の概説を踏まえ、総力戦体制の過程と帰結を中心に「世界戦争の時代」を振り返る。つぎに、冷戦後における国際秩序の変転を中心に「戦争と平和」を検討していく。グローバリズムと主権国家システムの変容、安全保障概念の多義化や戦争形態の変質を論じつつ、「対テロ戦争とその後」をテーマに大国と国際秩序の関係を考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		グローバル・スタ ディーズ	21世紀に生きる私たちは、国際社会、とりわけヨーロッパについてどれだけ理解しているのか。その理解は多くの場合、メディアによって切り取られた様々な「イメージ」や日本式に自家薬籠された物の範疇を越えることはない。この講義では、ヨーロッパとは何か、「文化」とは何かという問いを通して、ヨーロッパと日本の表層的な差異を掘り下げ、それぞれの文化の本質的な豊かさとは何かを考える。とりわけフランスをモデルに、人々の生活と社会を通じて、中世から現代までの変遷や今日のEUとその現状を把握し、ヨーロッパとその文化の総合的な理解を目指す。	
		異文化コミュニケ ーション	日本で暮らす外国人も増え、私たちは海外旅行や留学など海外に出た時だけでなく、国内にいても異文化に接し、交流する機会を多く持つようになった。そのような中、異文化をいかに理解できるか、また、自らの文化をいかに相手に理解してもらえるかが重要になっている。本講座では、文化間で起こる接触や交流の場で生じる様々な問題をみていきながら、それらの問題を解決できる能力を培い、多様な文化が共生する社会で生きるために必要な視野を身につける。	
		アジアの中の日本	日・中・韓三ヶ国は漢字文化と儒教文化とを共有しながらも、三国の文化間にはいろいろな違いも見られる。本講義はその三国文化の同質性と異質性とを究明することによって、アジアにおける日本の姿を浮き彫りにすることを目指す。まず宗教（仏教、儒教、道教）と言語（表意文字である漢字）の共有性からくる同質性を探究してみたい。それから、風土、言語、国民性の比較から、三国の文化の異質性、すなわち三国の文化それぞれの特徴を分析していく。テーマごとにアジアの中の日本についてアプローチする。	
		世界の医療事情	先進国各国においては、高齢化社会の進展、国際競争の激化、経済成長の鈍化などという共通の問題を抱えながら、良質で適切な医療を効率的に国民に提供していく方法を模索している。本講義では、医療を提供する上で大変重要な医療保障制度について特徴的な相違を持つ先進国を中心に引き上げ、各国の制度と最近の制度改革の動きや歴史的経緯などを学ぶ。 また、日本における医療保障制度の改革と歴史について学び、加えて今後の課題について最新の情報や世界の医療保障制度との比較により考察を行う。	
		多文化共生社会	経済・情報のグローバル化や冷戦終結後の政治情勢の変化といった状況の下に、国境を越えた地球規模での人間の移動によって、国籍や民族を異にする人びとからなるクロスボーダー社会が出現する一方、一国内部においても、学校や職場、地域などで文化や価値観、生活様式を異にする人びとからなる多様な生活空間が形成されている。こうした現状認識の下に、社会福祉援助技術を用いてこうした多文化共生社会を実現するために何が出来るのかについて具体例をまじえて学ぶ。	
Ⅱ 現代社会の教養の基礎となる科目	④ 教養基礎科目	哲 学	一般的に言えば、個々の私たちの関わる現代日本の生と死の問題について論じる。その問題とは、環境危機と呼ばれている生・死、生物種の絶滅という死、クローンや遺伝子操作といった生命の科学的操作の是非など、多岐にわたるものである。授業では、現代社会がもたらした生死の状況を説明し、生きとし生けるものの生命の尊厳性と死の厳粛性について論ずる。	
		倫理学	「自分と向きあう欲望論」をテーマに、現代の倫理的課題を考察する。「私とは何か」、「社会のなかの私」、「私と環境」、「私といのち」等々を、具体的な事柄を材料にして、受講者自身の問題として考える。	
		文化論	日本は明治維新をさかいに、前近代／近代という文化概念の相克に出会った。日本文化を把握する際にキー概念となる前近代／近代を検証するため、昭和という激動の時代に焦点を定め、昭和流行歌の変遷を分析することによって日本文化の概念装置をとらえ直す講義を行う。	
共通教育科目	④ 教養基礎	文 学	和歌史をおさらいして『百人一首』の位置を確認し、その成立と展開を略述、合わせて藤原定家についても概説する。掛詞や本歌取りなど、和歌を読むための基礎知識についても、時間を割いて説明する。また、江戸期以降の享受の諸相にも目配りして、その文化史的な展開にも配慮する。テキストには影印を使用し、変体仮名にも慣れ親しむことをめざす。なお学期中に1回、実地踏査を実施する予定である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	歴史学	第二次世界大戦期のアメリカ社会、文化を事例として取り上げることで、歴史学的アプローチを学び、歴史に対する多角的な視点を養うことを目標とする。具体的には、アフリカ系アメリカ人（黒人）、日系アメリカ人、女性、性的マイノリティの視点から第二次世界大戦を再考することを通して、人種、エスニシティ、ジェンダー、階級、セクシュアリティなどさまざまな差異が交錯しながら、戦時下においてアメリカ人の国民意識がいかに構築されていったのか、またアメリカの掲げる「自由」の意味とは何だったのかを考える。		
	日本語学	日本語と日本とについての言説内容を検討することを通して、日本語をあらためて見つめなおす。大学生活あるいは社会人としての基礎となる言語事項を再確認する。		
	心理学	認知・社会・発達・臨床などの各心理学領域の主要な理論などをかいつまんで解説する。授業では、心理学の理論体系を概説的に論じるような難しい話をするのではなく、たとえばなぜUFOを見るのか(認知的錯視)、友人とうまくやっていくにはどうすればいいか(対人関係)、恋愛など人を好きになるメカニズムの解説(対人魅力)、血液型性格判断の罫(ステレオタイプ)など、身近なトピックを取り上げて人の心の動きについて解説していく。		
	文化人類学	異なる文化を理解することは自らの文化を理解することでもあり、さらに、異なる文化と関わりを持つことは自らの文化を変容させ、新たな文化を生じさせることにもつながる。本講義では、世界の様々な地域の家族や親族、信仰や世界観、生業形態や経済、政治や権力、法律や秩序、芸術や芸能などについて学ぶことによって、わたしたちが「あたりまえ」とする自らの諸制度や考え方や文化を問い直す。フィールドワークを行い、異文化との対話を通して、文化の多様性と普遍性を追求する文化人類学のアプローチを学ぶ。		
	地理学	「地理が得意か」と尋ねられると、多くの人が「苦手」と答えるのではなからうか。しかしその一方で、旅行はブームにもなっているし、カーナビや災害ハザードマップなどに代表されるように地図は生活の一部となっている。本講義は地理学習の第一歩として、日本の都道府県を取り上げ、地形・気候といった自然的条件、歴史、伝統文化、集落、産業などの人文的条件の双方から、われわれの身近にある日本の諸地域について理解を深めることを目的とする。その過程で地図資料や統計資料にも触れることで、地理学的なものの見方・考え方を習得することを目指す。		
	法 学	現在の社会において、法律を理解することは重要な意味をもっている。例えば、部屋を借りる、アルバイトをする、就職をする、結婚をする、事故に遭うなど、法律は生活で起こる様々な場面で、私たちに影響を及ぼし、ときには、ある行為を強制する場合さえある。この授業は、民法だけでなく、労働法、商法、民事訴訟法、消費者保護法など生活のうえで私たちと強い係わりを持つ諸法律について問題解決のための一つの糸口を学ぶものである。		
	日本国憲法	日本国憲法も民法や刑法のように一つの「法」という形のテキストだが、日常生活で意識することはあまりない。しかしながら、憲法には、さまざまな人権と、政治の基本的枠組みとが定められている。憲法は、わたしたちの暮らしに関わる法律の土台となるものなのである。この授業では、日本国憲法について歴史から説き起こしながら、憲法の理念と内容について見ていく。授業を通して、憲法に書かれている内容の背景について理解できるようにする。		
	経済学	経済学は社会科学の一部門で、人間が営む日常的な経済活動を分析する学問である。その内容は、一国全体の経済活動や国際経済を扱うマクロ経済学と、家計や企業などの個別の経済主体の経済活動を扱うミクロ経済学に大別される。この講義では、一見難解に見える経済学の基礎概念を平易に解説し、それらの理解が、日々の経済活動や経済成長、経済政策、貿易・投資活動などを理解する上でどのように役に立つかを考える。		
共通教育科目	④ 教養基礎	経営学	現代社会において企業活動というものは欠かせない存在になっている。これまで企業は、自ら目的をたて、その目的を効果的に実現するために、数多くの試行錯誤的な行動を繰り返してきた。こうした企業活動の経験を、一定の体系に沿ってまとめあげた学問が「経営学」となっている。本講義は、その体系の内容を簡単に紹介し、経営学という学問の全体像を知ってもらうということを目的とする。また、本講義は、テキストに沿って授業を進め、毎回、テキストの内容を問うミニテストをおこなう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 の基礎となる科目 II 現代社会の教養 ④ 教養基礎科目	社会学	恋愛、受験、起業、ボランティア、地域再生等、学生にとって身近な素材を扱いながら、自我・規範などの行為論から集団論や組織論、さらには社会変動論の領域へと視野を広げ、人と人、集団と集団などの「つながり」や「出会い」のもつダイナミズムを理解し、かつ、現代社会の諸課題とこれらの解決可能性を探る。全体を「総論」「各論」「応用」「実践」の4部におき、社会関係資本論、ネットワーク論等における研究成果を主に検討する。こうした過程を通じて、社会学の基礎的な発想を身につける。	
	政治学	まず、国際政治学の基本的枠組であるリアリズムとアイディアリズムを軸に「戦争と平和」について考える。主権国家システム、安全保障、勢力均衡など基本概念の概説を踏まえ、総力戦体制の過程と帰結を中心に「世界戦争の時代」を振り返る。つぎに、冷戦後における国際秩序の変転を中心に「戦争と平和」を検討していく。グローバリズムと主権国家システムの変容、安全保障概念の多義化や戦争形態の変質を論じつつ、「対テロ戦争とその後」をテーマに大国と国際秩序の関係を考察する。	
	数学	数学的、論理的な見かた、考え方を学ぶ。具体的には、代数を中心として学習を行う。数と式では、展開と因数分解の関係、2次方程式とグラフ、2次方程式の解と判別式の関係の基本問題から応用問題までを用い、その意味が理解できるように学習を進める。数列では、基本的な等差数列、等比数列について学び、級数、極限までを学習する。簡単な微分、積分についても学習する。有理関数を取り上げ、微分が傾きを表し、積分により面積が計算できることを実感できるように指導を行う。	
	統計学	平均や標準偏差、相関係数や回帰計数の求め方に習熟して統計学の基礎を一通りマスターする。何を議論しているかを明確にするために、1授業1テーマに絞って例題を提示し解説する。演習問題では、サンプルサイズ10程度のテストデータの平均・分散などの特性値を計算し、それらの意味を理解して、データから情報を読み取っていく。さらに、統計学の方法を身につけるための例題や演習、社会・経済現象や社会・経済分析に慣れるための例題や演習を適当に混ぜ、応用能力を開発することを目指す。そして、授業内容を定着させるために確認テストを実施する。	
	情報学	高度情報社会といわれる昨今、「情報」が大きな価値を持つようになった。情報をいかに収集し、分析し、編集加工し、配信するか、その力が問われる時代なのである。その範囲は、インフラの整備とともに、飛躍的に拡大し、地域社会、教育、行政など、社会全てに及ぶ。加えて、パソコンや携帯電話、携帯端末等、メディアの発展とともに、情報収集、発信の可能性が高まってきている。例えば、クラウドのような新しい情報の利用形態、CGMのような消費者を巻き込んだ新しい企業戦略がある。事例をもとに、情報社会の全貌を明らかにしたい。	
	生物学	動物の行動がどのように進化したのかを比較研究する「行動生態学」の考え方を紹介するとともに、系統の異なる動物の各グループごとに繁殖システムに注目して、興味深い行動の例を紹介する。具体的な内容としては、血縁選択、性選択、集団の機能、利他性の進化、行動のコストとベネフィット、進化的安定戦略などのキーワードを概説した上で、昆虫類、魚類、鳥類、ほ乳類などの実際の例を示し、特に霊長類の中でヒトの繁殖システムがどのように進化したかを考察する。	
	薬学	女性と薬学との関わりをテーマとして、女性が健やかに活躍するために必要な薬学関連の情報を、薬理学をベースとして、医薬品、栄養補助食品、化粧品、医薬部外品など、幅広いテーマの中から取り上げていく。具体的には、身近な医薬品・サプリメントや化粧品の上質な活用法、様々な肌のトラブルと対処法、頭痛・生理痛・アレルギー疾患等の治療薬とそのメカニズム、便秘薬、女性ホルモンの働き、性感染症、薬としての嗜好品、不眠症、うつ病とその対策などを取り上げる。	
環境学	はじめに、環境倫理について解説し、「持続可能な発展」の重要性を理解させる。続いて、地球環境に影響を及ぼす様々な要因、宇宙線、太陽活動、太陽風、地磁気、大気、大気の成分、オゾン層等について解説する。さらに生命の誕生と進化についても述べる。科学の進歩は大量の物質を生産し、生活を豊かにする一方、様々な資源や生活環境を地球規模で消失・破壊している。例として、地球温暖化と石油資源の枯渇、異常気象、放射能汚染、環境ホルモン、新興感染症等について解説し、環境問題についてより理解を深める。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	健康科学	近年、生活の簡便化により運動不足の時代、さらには飽食の時代といわれ、生活習慣病が老若問わず問題となっている。一方、特に成人女性においてやせ志向が問題視されている。日常生活でのエネルギー消費量やエネルギー摂取量を把握し、自分の生活を見直すとともに、現代社会における健康問題について理解を深める。また、運動刺激によってからだはどのように変化するのか、運動に関わるからだのしくみや運動によって生ずるからだの変化を学び、健康管理のキーポイントを探る。		
	生命科学	女性は新しい生命を育む役割を受け持つ。自分のからだを情緒的にとらえるのではなく、自分という人間を、自然界のなかのヒトとして、生物学的に把握することによって、新しい精神世界を広げる。生命現象には、まだまだ解明されていない不思議な事柄が多く、微生物から動植物まで、この地球上に生きるものすべての存在を見通し、理解し、人間である現在の自分を考えるきっかけを作る。また、この授業では、サイエンス・リテラシー、すなわち科学の言葉で生命現象を理解し、かつ、表現することのできる力を養うことをめざす。授業には、イギリスBBC製作の生命科学のビデオ視聴や科学館見学も取り入れる。		
	芸術論	西洋近代美術の歴史とその思想の発展を主に20世紀前半を中心にたどる。私たちの時代である近代の、多様化した20世紀の美術について、西洋を中心にその主要な動向を学ぶ。分かりにくいといわれる近代美術の作品に秘められた美術家の思想を探り、20世紀の社会とのかかわりの中でどのように美術作品が作られてきたかを理解する。印象主義などの19世紀の美術に始まり、フォーヴィスム、キュビスム、表現主義、抽象美術などを経て、エコール・ド・パリ、シュルレアリスム、メキシコ・ルネサンスに至るまでの美術の流れを学ぶ。		
Ⅲ 幅広く教養を身につける科目	⑤ 教養展開科目	日本文学講義A (1)	連歌俳諧史研究。連歌・俳諧作品の読解を通じて、その起源や特質、史的変遷を追いかけるとともに、広く中世から近世に至る韻文芸の諸相を探索する。適宜概説を交えながら、なるべく多くの作品を精読し、文学としての魅力を考えたい。おおかたは活字本によるが、時には写本や刊本のコピーを使用して変体かなの習熟にも努めることとし、さらに必要に応じて関係古典籍も紹介する。五・七・五にこめられた表現の深奥をたっぷりと味わう。	
		日本文学講義A (2)	連歌俳諧史研究。「日本文学講義A (1)」を承けて、引き続き俳諧・俳句作品を読解する。後期は近世を中心とし、さらに近代へも射程をのばして韻文芸の諸相を探索する。適宜概説を交えながら、なるべく多くの作品を精読し、文学としての魅力を考えたい。おおかたは活字本によるが、時には刊本のコピーを使用して変体かなの習熟にも努めることとし、さらに必要に応じて関係古典籍も紹介する。五・七・五にこめられた表現の深奥をたっぷりと味わう。	
		日本文学講義B (1)	主人公光源氏の波乱に富んだ生涯を描く所から出発した『源氏物語』は、主人公が栄華を極めるあたりから微妙に主題が変化し、光源氏の人生を描くこと以上に彼を取り巻く女性たちの人生のあり方と心情に作者の関心が移っているといえ、宇治十帖では明らかに大君や浮舟らの女主人公が物語の中心をなしている。本講義では、『源氏』の最後を飾る「浮舟の物語」を、岩波文庫『源氏物語』をテキストに読み解いていく。『源氏』の全容も適宜説明し、物語に初めて出会う受講生にとっても理解しやすい講義になるよう配慮する。	
		日本文学講義B (2)	「日本文学講義B (1)」の後を受け、引き続き「浮舟の物語」を原文に即して読み解いていく。特に「手習」「夢の浮橋」の巻における浮舟の姿を深く掘り下げ、物語を通して語ろうとする作者のメッセージはどのようなものであったのかを考える。『源氏物語』は、今から千年以上前の、言語・風俗・制度を大きく異にする世界の物語だが、不思議と現代人の琴線に触れる優れた文学であり、近・現代小説を読むのと同じように、自分を見つめ人生を考えながら物語世界に浸れる文学であることを説く。	
共通教育科目	開科目 ⑤ 教養展開	日本文学講義C (1)	明治期から大正期にかけての文学を、文化史および文学史の観点から講義する。文学史的な知識の形成のみではなく、日本近代社会の成立に近代文学が大きな影響力を持ったことを考察する。具体的には、この時期の小説を6つの項目に分け、1項目につき2コマの講義をおこなう。作品の概要説明、作品からの抜粋の講読により作品を理解し、社会的あるいは歴史的背景との関連について考察したり、海外の作品との比較検討などをおこなう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	日本文学講義C (2)	昭和期の小説を、大きく第二次世界大戦前と戦後にわけて、文化史および文学史の観点から講義する。近現代文学を日本の近現代史の中に置き、文学史的な知識の獲得のみならず、文学の社会的影響力についての理解を目指す。具体的には、戦前3項目、戦後3項目に分け、1項目につき2コマの講義をおこなう。作品の概要説明、作品からの抜粋の講読により作品を理解し、社会的あるいは歴史的背景との関連について考察したり、海外の作品との比較検討などをおこなう。		
	日本文化史 (1)	日本文化万般を学ぶための入門講義。古代(太古～平安時代:12世紀末まで)から中世(鎌倉・室町時代:13～16世紀)の芸能や祭礼を中心に、日本文化について講義する。古代では舞楽、中世では世界無形文化遺産である能楽(能と狂言)を軸に、古代・中世の芸能史をその文化的背景に留意しつつ見渡し、ビデオやDVDを通して舞台を観ることにより、芸能や祭礼を通して、日本文化とその歴史に関心を持ってもらうことを目的とする。		
	日本文化史 (2)	日本文化を学ぶための入門講義。近世(江戸時代:17～19世紀)から近代・現代(明治・大正・昭和・平成:1868年～現在)の芸能・演劇を中心に日本文化について講義する。近世では、世界無形文化遺産である人形浄瑠璃と歌舞伎、近代・現代では、新派、新劇、新国劇、小劇場演劇等を中心に、近世から近代・現代の芸能史を文化的背景に留意しつつ見渡し、ビデオやDVDにより舞台を観ることにより、芸能・演劇を通して、日本文化とその歴史に関心を持ってもらうことを目的とする。		
	日本語学講義A	日本語音声の特徴を解説する。共鳴、フォルマント、サウンドスペクトログラムのよみ方など、音響音声学的にみた音声の実像を解説する。続いて音声器官、調音音声学の原理・方法を解説し、音韻論解釈の原理・方法に言及する。その後、日本語音声の特徴を、多少の外国語音声(英・中・韓)と対照しながら解説する。ひと通りの基礎をマスターした後、日本語音声の実際を観察する実技(少しだけ外国語音声も)を行う。実際の音声を聴いて、その音色を国際音声記号で転写する練習を行う。アクセントも観察記述する。		
	漢文学概論 (1)	中国の詩文を紹介しながら、文学史の流れを概説する。前期は、三国までを対象とする。具体的には、『毛詩』『論語』をはじめ『文選』などに収められている詩文を取り上げ、分析を進めることで、時代、思想、そして修辞に照らした理解を促したい。また、中国詩文の在り方は、日本文学に深く関わることでもあるから、中国文学を通じて日本文学の理解を深めることもまた大切な目的の一つである。併せて、種々の工具書類の使い方も適宜紹介する。		
	漢文学概論 (2)	中国の詩文を紹介しながら、文学史の流れを概説する。後期は、六朝から唐の詩を扱う。具体的には、『文選』『唐詩選』『唐詩三百首』『三体詩』などに収められている詩を取り上げ、時代、思想、そして修辞に照らした理解を促したい。また、中国詩文の在り方は、日本文学に深く関わることでもあるから、中国文学を通じて日本文学の理解を深めることもまた大切な目的の一つである。前期と同様に、種々の工具書類の使い方も必要に応じて紹介する。		
	英語による日本文化A (1)	日本について英語で書かれているテキストを輪読し、英語での表現方法を学ぶ。又、年中行事や日本特有と思われる事柄などからトピックを選び、その研究を簡単な英語を使って口頭発表する。輪読・口頭発表の後ディスカッションの時間を取り、内容を広げ、又掘り下げていく。英語の正確な運用に努めるとともに、その英語(外国語)を通して日本文化万般を捕捉できる視点の獲得にも留意し、なお英語によるプレゼンテーションにも慣れることを目的とする。		
	英語による日本文化A (2)	日本について英語で書かれているテキストを輪読し、英語での表現方法を学ぶ。又、年中行事や日本特有と思われる事柄などからトピックを選び、その研究を簡単な英語を使って口頭発表する。輪読・口頭発表の後ディスカッションの時間を取り、内容を広げ、又掘り下げていく。英語の正確な運用に努めるとともに、その英語(外国語)を通して日本文化万般を捕捉できる視点の獲得にも留意し、なお英語によるプレゼンテーションにも慣れることを目的とする。		
共通教育科目	を身につける科目 ⑤教養展開	英語による日本文化B (1)	日本について英語で書かれているテキストを輪読し、英語での表現方法を学ぶ。又、年中行事・伝統行事や日本特有と思われる事柄などからトピックを選び、その研究を簡単な英語を使って口頭発表する。輪読・口頭発表の後ディスカッションの時間を取り、内容を広げ、又掘り下げていく。学年配当の異なる「英語による日本文化A」とは異なる領域・分野の題材を取り上げるが、英語の正確な運用、英語を通しての日本文化の捕捉、英語によるプレゼンテーションの習熟などの目的は同じである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語による日本文化B (2)	日本について英語で書かれているテキストを輪読し、英語での表現方法を学ぶ。又、年中行事・伝統行事や日本特有と思われる事柄などからトピックを選び、その研究を簡単な英語を使って口頭発表する。輪読・口頭発表の後ディスカッションの時間を取り、内容を広げ、又掘り下げていく。学年配当の異なる「英語による日本文化A」とは異なる領域・分野の題材を取り上げるが、英語の正確な運用、英語を通しての日本文化の捕捉、英語によるプレゼンテーションの習熟などの目的は同じである。	
	海外の日本研究 (1)	グローバル化が進むこの現代においては、もはや国際的な視点は不可欠のものだが、かつて日本はどのように見られてきたのか。外国人による多くの文献を博覧して、日本が失って来たものの意味を正面から問うた渡辺京二の『逝きし世の面影』(平凡社ライブラリー、2005。葦書房原刊、1998)を精読して、その歴史的文化状況をまずは振り返る。その上で、小津安二郎や黒沢明の映画、漫画やアニメなど、近現代における展開にも目配りし、日本観の種々相を炙り出す。	
	海外の日本研究 (2)	「海外の日本研究 (1)」を承けて、後期は主に書物を窓として、その歴史的状况を確認する。具体的には、和田敦彦の『書物の日米関係ーリテラシー史に向けてー』(新曜社、2007)を精読し、文化面における日米関係史をまずは考える。その上で、ハーバード大学やイェール大学、あるいはボストン美術館など、海外の諸機関における蔵書(古典籍から漫画まで)もしくは蔵書形成史の実態にも言及し、現代日本観の種々相の析出にも努める。	
	英米文学研究E	英米の文学作品を研究していくために、さまざまなアプローチについて学ぶ。具体的には、エミリー・ブロンテの小説『嵐が丘』を題材とする。取り上げる研究方法は、本文批評、歴史的・伝記的方法、新批評、精神分析批評、神話・原型批評、フェミニズム批評、その他である。文学作品についての素朴な感想文を書くことから脱皮して、より客観的で説得力のある研究論文を書くための基本について学んでいく。併せて、文学作品を研究することの意義についても考えていく。	
	英米文化研究E	この授業では、文化とは何かという問題から始め、文化を研究する際のさまざまなアプローチについて考察する。同時に、文化の背後には、どのような構造やシステムが潜んでいるかを考えていく。文化を研究するための基本的な考え方として、具体的には、構造主義、記号論、権力論、メディア論、歴史記述について考察する。後半では、近年盛んに行われているカルチュラルスタディーズ(文化研究)とポストコロニアル研究についても考察する。	
	多文化共生A	英語とフランス語を公用語とするカナダが、二言語多文化主義を採用するようになった歴史を概観した後、各州の現在の言語状況について見ていく。特にカナダの中で唯一フランス語系が大多数を占めるケベック州に焦点をあてる。そして、カナダにおいてマルチカルチュラリズムがどのような実を結んでおり、何をめざしているかについて考える。またアメリカ合衆国とカナダを比較して、その違いに関心を向ける。さらに、日本の多文化共生の現状をカナダと比べてみる。	
	多文化共生B	オセアニアはオーストラリアとニュージーランドの先進国と、ポリネシア、メラネシア、ミクロネシアに分類される多数の小さな島嶼国や領土からなる。優れた航海民族であったオセアニア人の人々の先祖たちが西から東へ移住して作り上げた社会は、隣接する島々との関係、16世紀以降は西欧諸国や日本との関係、近年は移民やグローバル化などを通して多文化社会となった。本講義では、写真や映像を多く見ながら、オセアニアの諸国(領土)が多文化の共存する社会となった歴史とその現状について学ぶ。	
共通教育科目 III 幅広く教養を身につける科目 ⑤ 教養展開科目	バイリンガリズム	バイリンガリズムとは何かということを理解する上での問題について論じる。日本では、一般的に、バイリンガルは肯定的なイメージで捉えられる。それは例外的に有能な人物で、英語を流暢に操る日本人を指すことが多い。しかし、目を海外に転じれば、バイリンガルはごく一般的な出来事であり、日本人が気付きにくい多くの興味深い問題を含んでいる。バイリンガルのさまざまな側面を学ぶと同時に、それが内包している種々の問題についても考える。	
	日本語教育法A (1)	様々な外国語教授法について、その概要と背景となる考え方を理解する。その上で、日本語の初級教科書を利用して教授項目の抽出から、練習の組み立て、活動などの授業準備の方法などを学ぶ。最後に自分が今まで学習したことのある外国語を、他の学生に教える模擬授業を行なう。教授法については、講義形式で説明した上で、実際の授業の様子を収録したDVDを見てもらう。日本語の教え方については、やり方を説明した上で、実際に練習を組み立ててもらうなどの実践を適宜組み込んで理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語教育法A (2)	現在日本語教育が行われている世界の地域の言語事情について調べ、その地域の日本語教育についても考察する。日本語の教育は世界の各地で行なわれており、地域によって学習者数や学習者の目的、教育方法などが大きく、異なっている。世界各地の現状を知ること、現在の日本語教育の置かれている状況を広く理解するとともに、さまざまな地域で仕事をしていくためには、どんな知識を身につける必要があるかということも考えてゆく。また、日本語教育の通史を理解することで、現在の日本語教育対象者であるさまざまな学習者の背景を知る。	
	日本語教育法B (1)	現在、日本の小学校や中学校には、「外国につながる子ども」が多数在籍している。彼ら／彼女らへの教育は重要であり急務であるが、日本語支援やアイデンティティの問題など、さまざまな問題がある。本講義では、年少日本語学習者（外国につながる子ども）の問題を取り上げ、それに関する研究を概観する。さらに、第二言語としての年少者日本語習得研究を紹介し、日本語習得の課題について考える。子どもたちの母語と日本語の関係も論ずる。	
	日本語教育法B (2)	日本語の文字教育とその周辺について、理解を深め、学習者に合わせた教材の選択ができるように考えていく。非漢字圏の学習者にとっては、漢字は日本語を習得していく上での大きな障害である。また、ひらがな、カタカナについても、音と形との対応が体系的ではない独自の文字体系であり、漢字圏の学習者にとっても決して簡単ではない。日本語の文字を学習者に効率的に習得させるためには、どのような方法が有効であるかを考えていく。また、文字だけの教育でなく、発音や語彙、語の背景知識までも含めて考えを深める。	
	日本語教育法C	実際に、母語話者や学習者が産出した生の言語資料の分析を通して、談話分析の手法を体験するとともに、母語話者と日本語学習者の談話構造の違いに着目することで、日本語教育への応用も視野に入れていく。母語話者の日本語を分析し日本語の談話の特徴について考える。次に、学習者の産出する日本語を観察し、談話レベルでの問題点について考える。そして、日本語教育(特に会話教育と作文教育)では何を教えるべきかについて理解を深める。	
	商品学	商品学に関する新しいテーマについて基本的な知識や現代的課題を整理するとともに、商品開発や商品化に関する様々な事例を取り上げて具体的に考える。 テーマごとに関連する教材(補助資料や視覚教材)を用いながら、各自が具体的な事例について考えることを重視する。今後のライフタイムや商品選考を考へるときに役に立つような実践的な知識を習得することを目標としている。 授業中に、小レポートやコメントをまとめて提出してもらうことを通して、論理力や論述力を身につける。	
	情報統計学	現代社会では膨大な情報(データ)が溢れているが、日常生活における様々な情報の分析に適用される統計的方法について、コンピュータを利用して分析できる力を身につける。統計学は、実際のデータを分析して、そのデータが生成された元々の集団について推測する方法を学ぶ学問である。データに現れた特徴や各データ間の関係などを整理・要約して記述する方法(記述統計学)と、そのデータが抽出された集団に対する推定や検定の方法(統計的推測)を、表計算ソフトExcelを使って、実際に例題を解きながら学ぶ。	
共通教育科目 Ⅲ 幅広く教養を身につける科目 ⑤ 教養展開科目	電子商取引	電子商取引の実際についてインターネット上でどのようなことが行われているかを確認し、電子商取引の発展の原因や経済効果などを解説する。電子マネーについては、マネーの定義についても詳しく行い、プリペイドカードとマネーの関係について法律の面から解説する。また、電子商取引におけるセキュリティ対策、特に暗号理論、公開鍵、RSA暗号についての数学的な理論も解説する。さらに、電子消費者契約法について、従来の契約法との違いを電子商取引の立場から解説する。	
	生活統計学	統計学を初めて学ぶ人を対象に統計学的見方を身につけ、統計的に処理された結果を正しく判断できる力を養うことを目的としている。授業では、統計学における最低知ってほしい概念を中心に、統計学とはどんなものであるかを修得する。 授業の前半で各単元の説明を行い、例題を解きながら統計学の重要項目を確認する。授業の後半で生活に関連したデータを元にした練習問題を各自が解き、手を動かして練習を積み重ね、統計の基礎知識を習得するとともに統計学からのデータに対する見方を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	生活マネジメント特論F	いわゆる日本型金融ビッグバン以後、金融の自由化が進み、生活者・消費者には、自己責任のもとで金融商品を選ぶことが求められている。本講義では、市場経済と金融市場の仕組みやその動向について基礎からわかりやすく解説する。また、具体的な取引価格や運用率を参照しながら株式や債券、投資信託といった金融商品について解説する。こうした学習を通して、生活者・消費者の視点を持ちながら自らの生涯を通じた資産運用をマネジメントする能力を育成する。		
	衣生活学	健康をキーワードに、人が生まれてから幼児期から成人へ・中年から老年に至るまでの生涯にわたる衣生活、すなわち人の成長や発達を支え、成人してから生活の上で重要な働きをする靴と健康の関係、年齢による身体の変化や障がいと衣服との関係を幅広く紹介する。「ライフサイクルと衣生活」「生涯衣生活設計」をキーワードに、生涯にわたる衣生活をより良く過ごす事のできる基礎知識を修得し、将来の衣生活に生かしていく力を養う。		
	住生活学	日本では高度成長期以降、膨大な住宅需要に対応した供給システムが肥大化してきたが、近年では人口減少やそれに伴う家族形態の多様化などにより、需給関係は大きな変化の時代を迎えている。特に高齢化や家族規模の縮小などこれまで経験しなかった社会状況に対応する「良い住まい」とは単に容れものとしての「住まい」を問題とするのではなく、周囲の「まち」や生活を支えるための「居住サービス」がうまく調和した状態と考えられるので、そのような新しい居住システムについて考える。		
	ファッションの歴史	ファッションは、現代の私たちの心身両面に影響を与えるものであり、ファッション関連産業は、わが国において重要な位置を占める産業である。講義の前半は、衣服の起源から現代までのファッションの歴史を振り返りながら、ファッションの種類や構成、さらにファッションと時代との関連を学ぶ。後半は、ファッションデザインについてアイテム、シルエット、素材、イメージなどの面から理解し、ファッションデザインとファッションビジネスとの関係を把握する。		
	居住福祉論	「居住福祉」(住宅福祉)は、誰もが自分にあった適切な住居や居住地(居住)を得る権利があるという、国際的な認識がベースになっている。日本ではこの考え方が十分に浸透していないが、例えば大震災により、誰もが居住福祉の危機に直面する可能性がある。より多くの人が居住福祉の考え方を学び、社会的な基盤づくりに寄与することが大切である。授業では、幅広い社会政策を展開している北欧などにおける高齢者住宅や施設、街づくりや公共交通機関に関する事例を見ながら、居住福祉の総合的なイメージをつかむとともに、日本において居住福祉の観点からみてどのような問題を抱えているかを把握し、そのあるべき方向について学ぶ。		
	人と物質の科学	現代の生活では、人は様々な物質に囲まれている。環境を守り、安全に生活するためには、これらの物質について理解することが重要である。はじめに、科学全般にわたっての基礎的な原理と知識を修得するために、原子、核化学、分子について学ぶ。つぎに、大気中の分子、ビタミン・ホルモン・脂肪・炭水化物などの体内の化学物質、香りと味の成分、医薬、麻薬・覚せい剤、農薬、石油化学製品(ポリマー)等、生活に関連した物質について解説する。また、放射線の利用(PETなど)や太陽電池など最新の科学についても解説する。		
共通教育科目	Ⅲ 幅広く教養を身につける科目 ⑤ 教養展開科目	テキスタイル材料学(1)	アパレル界でのテキスタイル材料について講義する。具体的には、繊維については、繊維の種類と構造上の特徴を講義する。糸については、糸の分類、番手、撚り、単糸と合糸、縫糸の表示について講義する。紡糸に関しては、綿糸・毛糸の製造方法、生糸の製造方法、フィラメント糸・フィラメント加工糸の製造方法について講義する。布帛については、織物の製造方法、織物の組織と組織図について講義する。更に、繊維、糸および布帛の相違が、外観や着心地に与える影響について講義する。	
		テキスタイル材料学(2)	衣服素材として用いられる様々な布地について理解するために、テキスタイル材料学(1)に続けて行う講義である。授業の前半は、衣服の主(表)素材として用いられる編物、レース、皮革、複合製品などの布地の種類、製造法、布構造、性質について説明し、つづいて、裏地や芯地などの副素材の種類および主素材と副素材に要求される消費性能について講述する。後半は、衣服素材に求められる布地の力学的特性、外観性能、造形性能について述べ、素材に関する既製の苦情事例および防止策等を紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	まちづくり論	<p>私たちの暮らしに身近な「地区レベルのまちづくり」の方法を、次の一連のプロセスを通して学習する。(1) まちの現状と問題点の把握、(2) まちづくり課題の抽出と課題相互の関係の整理、(3) 解決の方向と方法の検討、(4) まちづくりの計画目標とプログラムの設定。</p> <p>授業では学習の素材として、タイプの異なる幾つかのまちづくりの実践例を取り上げる。その中で取り上げられた主要な課題、課題解決のための様々な工夫、住民と行政のパートナーシップのあり方などに注目しながら、今日における住民主体のまちづくりの可能性について考える。</p>	
	西洋建築史	<p>古代から近世までの西洋建築の歴史について見ていく。古代については、後のヨーロッパ建築の古典となるギリシア建築とローマ建築を見ていく。中世については、キリスト教文化を基盤として西ヨーロッパを中心に形成されたロマネスク建築、ゴシック建築を、また東ヨーロッパで形成されたビザンツ建築を見ていく。近世については、中世を否定し、古典様式を再評価するルネサンス建築を、そしてルネサンスの均衡の感覚を破ったバロック建築を見ていく。</p>	
	食品栄養学	<p>ヒトは生命活動を営むために、植物や動物である食品を食物として摂食し、エネルギーや栄養素を補給する。体内に取り込まれた食品成分や体内での栄養素の働きを学び、健康を維持するための食品と栄養素について学ぶ。そのうえで食生活に起因する身体状況、生活習慣、環境などさまざまな問題を理解し、食生活の目的と意義を習得する。本講義の目的は、食品栄養学を礎として受講生自らが自分の食生活をデザインし構築する力を養うことである。</p>	
	観光産業論	<p>「観光」の本来の意味と意義を再確認した上で、それが地域社会（地域経済や地域文化など）にもたらすさまざまな効果や問題点について考察しながら、よりよい地域づくりと観光との良好な関係性について考えていく。観光とは、単なる第3次産業的な営為ではなく、地域丸ごとで取り組む、いわば「第6次産業」的営為であることを理解できるようにする。具体的な内容としては、「観光」へのニーズの変容として、マストゥリズムからオルタナティブトゥリズムへの変容に関する概念を学ぶ。</p>	
	東アジアの社会と福祉	<p>国際比較の視点に立つて、主に中国と日本の社会が抱えている格差、貧困、環境、高齢化、医療といった共通問題を取り上げて分析、検証する。さまざまな具体的な社会問題に対する検証によって、社会政策の理念、仕組み、実施などを理解できるようにする。例えば、経済成長至上主義の代償の結果、「調和のとれた社会」の実現が困難になっている現状をふまえ、特に格差社会の急激な進行によって立ち遅れた農村を豊かにするための福祉施策を学ぶ。</p>	
	コミュニティ福祉論	<p>人口減少社会、格差社会という今日においては、コミュニティは多くの困難な課題を抱えている。そしてそれらの課題を解決するためにコミュニティは大きな期待をもたれている。</p> <p>本講義では、今日のコミュニティに顕在化しつつある孤独死や児童・高齢者虐待、移民の課題などを具体的に取り上げ、コミュニティの希薄化、空洞化が何をもたらしたのかを明らかにする。そのうえでそれらの深刻化・複合化した問題を解決するために求められるコミュニティ福祉について考えていく。</p>	
共通教育科目 III 幅広く教養を身につける科目 ⑤ 教養展開科目	社会調査法	<p>はじめに、社会福祉に関するさまざまな官庁統計、調査報告書を取りあげ、各自でそれらを整理、分析し、報告する。つづいて、そこで用いられている種々の集計、解析手法について学ぶ。以上をふまえて、簡単なデータの収集を行い、これを用いて集計、図表の作成、およびプレゼンテーションを行う。</p>	
	スポーツと福祉	<p>障害者や高齢者などのスポーツ活動を支援・指導するためには、健康や安全管理についての理解が必要である。誰もがスポーツを楽しみ、その喜びを味わうためには、スポーツを取り巻く日本の福祉施策の理解やボランティアなどの支援体制を含めた地域や仲間とのネットワーク作りも重要な課題である。本講義では、アダプテッド・スポーツをキーワードに、ヒトとスポーツの関わりについて考えていく。具体的には、スポーツが、人間の生活や健康をより豊にするツールとして、どのように貢献しているのか、また、どのように発展していくべきなのかについて考える。さらに、個々人の違いを認めた上で、共に生きることの可能性をスポーツを通して考える。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		発達と学習	「おとなになる」ということは、どのようなことを意味するのであろうか。人間は二十歳になれば、はたしておとなになるのか。本講義ではこのような疑問に対して、教育・発達心理学的な観点からとらえ、「子どもからおとなへ」の発達過程を、障害のある子どもたちを含め理解するとともに、その過程における学習や経験の役割を考えていく。青年期まで含む広義の子ども期の身体・運動的、認知的、社会・人格的発達と学習の過程および本科目関連領域の心理学関連用語等の理解を目指していく。	
		現代子ども学概論	子ども、とりわけ乳児期から児童期前期の子どもを教育学、心理学、社会学的な観点だけでなく文化人類学、行動科学などの視点も加味して多角的、総合的に考察し、「子ども」の本質、特性や特徴、発達の社会的課題についての認識を得る。子どもは児童観、教育観、発達観により異なった姿に見えるものであり、子ども観の歴史的变化を視野に入れて検討することにより、一層深い子ども理解を図る。これにより人間発達の初期にある子ども理解と育成のための理論的基盤を形成することを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (80 小田節子/2回) 子どもの第二言語習得の過程やその理論について、「バイリンガル」、「話しことば・書きことば」の視点から学ぶ。 (51 中野修身/2回) 子ども観、教育観について「子どもの発見」、「子どもにとって遊びとはなにか」をテーマに学ぶ。 (145 小島一宏/2回) 子ども相互、子どもと大人のコミュニケーションの意味や形について、講師のアナウンサー経験を通じて考える。 (66 南曜子/2回) 子どもの文化について、「イソップ寓話」、「わらべうた」を取りあげ、子どもの生活のなかで文化がどのような意味を持つものかを学ぶ。 (193 野呂達也/2回) 子どもと自然の関わり、子どもは自然からなにを学ぶのかについて、自然の理解と生物多様性の観点から学ぶ。 (201 日々野直子/2回) 子どもの養育と保育について、子どもの育ちの視点、親としての育ちの視点から、幼稚園教育の意義を踏まえつつ学ぶ。 (63 増田公男/3回) 子どもの発達の心理について学ぶが、「子どものこころ」、「おとなのこころ」、「メディア社会の子どもたち」との3つのテーマを設定して学んでいく。	オムニバス方式
		生命倫理	1997年、ロスリン研究所によって生まれた「クローン羊ドリー」をめぐる全世界的な議論からもわかるように、生命倫理の問題は現代の社会において最も注目を浴びる主題である。とりわけキリスト教は、生命とは神から創造されるものであると告白している。したがって、キリスト教は、墮胎、脳死と臓器移植、安楽死、生命複製などの、いわゆる生命操作が行なわれる分野の問題に対して答えることが求められている。本科目は、生命倫理についての諸分野の考え方と対話しながら、現代社会におけるキリスト教的生命倫理の成立可能性について研究する。	
共通教育科目	Ⅲ 幅広く教養を身につける科目 ⑤ 教養展開科目	美術（絵画）	鉛筆による静物デッサンの基礎。最初に簡単な基礎形態である円柱（石膏）のデッサンを行う。鉛筆で陰影を付け、明度の違いで立体感や質感を表現する基礎を学ぶ。次に、ピン・果物・ブロック・ヤカン・布など色や質感の違う静物を組み合わせたものを描いていく。最初と違い、複数のものの組み合わせであるので、ものともとの関係や空間にも注意して進めていく。主に実技形式で行われるが、学生一人一人の進度や技能に対応した個別指導になる。	
		美術（彫刻）	主に鉛筆で立体の基本となる単純な幾何形体、果物を持った自分の手などのデッサンを行う。次に材質の異なる静物（黒いガラス瓶、ヤシの実、白い石膏）画を描くことで質感の表現力を身につけるとともに、12段階のグラデーションをHBの鉛筆一本で作成することで幅広い表現力の育成を行う。最終段階では水彩画、コラージュなど想像力を必要とする自由制作を学生の実技能力にあわせた個人指導で行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	カウンセリング入門	本講義ではカウンセリングの種々の理論や技法、またその根本となる考え方を紹介する。心とは何か、意識とは何かといったことから、「治る」のか「治す」のかといった問題など「日常的にはあまり考えないが、カウンセリングの根本にある」問題について、深く考えてもらいたい。また、人と人が向かい合うこと、人の話を聴くことの本質について感じ、考えを深めてもらいたい。この半期の授業では、カウンセリング「入門」というほどのレベルまでは到達できないが、基本的な技法や理論について、自らの実感としてとらえ、考えていけるようにする。	
	生理心理学	ヒトの生理及び構造の基礎理解とともに、生理学的視野から心理・行動を説明する知見、及びその理論背景を紹介する。運動系においては、特定の認知パラダイムによって、行動を設定したとき、行動の計画・遂行にいたる一連の脳内情報処理がいかに行なわれているかを探ろうとする。植物系においては、心身相関の視座より、心理（こころ）の生理に及ぼす影響を、ストレス刺激や感情、情動行動にたいする自律神経活動の反応を通して考察する。併せて、意識、認識、記憶等に関する最新の神経科学的所見について概説する。	
	メディア心理学	この授業では、現在、子どもだけでなく大人にも楽しまれることが多く、世帯普及率も高いTVゲーム（オンラインゲームも含む）について取り上げ、これらの使用が心理面や教育面、対人行動などに与える影響やその有効利用について概説していく。授業は、メディアの登場と共に浮上する悪影響論や反対の立場の効果論について説明し、実際の研究動向からそれらを検討していく。	
	西洋美術史A	先史時代から古代エジプト、メソポタミア、ギリシャ、ローマを経て中世のキリスト教美術に至る西洋美術の歴史をスライド、VTR、DVDによって鑑賞し、作品の意味とそれが生まれた歴史的文化的な背景を学習する。	
	西洋美術史B	ルネサンス（15-16世紀）を中心に、マニエリスム（16世紀）、バロック（17世紀）、ロココ（18世紀）に至る西洋の美術の歴史をスライド、VTRによって鑑賞し、個々の作品に秘められた意味を読み解き、その時代の世界観、宇宙観について理解する。	
	現代美術A	美術の自立性を追及してきた近代美術に対して、20世紀後半から今日にいたる美術の中には、社会性を意識したものや、近代美術が締め出してきた自然や民俗的なものとの関わりを追求するもの、象徴性や想像力を美術に回復しようとする動きなどが現れた。ここではそれらの美術を中心に、多様な展開を見せる現代美術の動向を紹介する。第2次世界大戦後の美術、自然と美術、美術と霊性などをテーマとした作品をスライドやVTR、DVDで紹介する。	
	現代美術B	「現代美術A」と同じように、20世紀後半から今日にいたる多様な展開を見せる現代美術の動向を紹介する。「現代美術B」では、芸術と新しいテクノロジー、芸術と社会の関わり、宇宙の中での人間存在、芸術と霊性などをテーマにする美術家を中心にスライドやVTR、DVDで紹介する。	
	デザイン論	ビジュアル・デザイン、インダストリアル・デザイン、建築デザイン、ランドスケープ・デザインなどの分野が、時代とともにどのように変化してきたかをスライド、DVD等の資料を見ながら考察する。また、実習として黄金分割の作図法、デザインの視覚的解析などを行う。	
共通教育科目 Ⅲ 幅広く教養を身につける科目 ⑤ 教養展開科目	音楽療法概論	諸外国（主に米国）および日本の音楽療法の歴史、音楽療法の定義、理論的背景について分析し、言及する。さらに、現在、日本で行われている様々な音楽療法の技法を、受動的音楽療法と能動的音楽療法の二つに大別し紹介する。また、音楽療法の対象領域として、児童領域・精神科領域・高齢者領域・健常者領域を取り上げ概説する。加えて、対象者理解のための様々なアセスメント方法、音楽療法中の変化をとらえるための音楽療法評価表などを紹介する。これらの基礎的知識をふまえて、実践現場で使用されている音楽療法案を提示する。最後に、まとめとしてビデオで実践の様子を紹介する。	
	化粧品概論	本講義では、化粧品配合成分及び処方設計の基本概念を理解し、皮膚との関わりを重視して化粧品に関する基礎知識を身につけることを目的とする。 ①化粧品の意義及び役割、②化粧品を構成する成分と処方設計の概要、③化粧品の品質、有用性・安全性・化粧品と皮膚との関係について概説する。また、化粧品の定義や医薬品、医薬部外品との違い、化粧品の成分表示、皮膚の構造や影響要因、カテゴリー別の化粧品の特長や配合成分等についても概説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目	⑥ 英語教育科目	サプリメント概論	生活習慣病とそれに関連する栄養素および機能性食品素材について理解し、近年健康の自己管理のために利用の高まっているサプリメントについて、素材、用途などを理解することを目的とする。企業で行われているサプリメントの製品開発に不可欠な技術、知識（素材、製造法、用途、関連法規等）を講義する。また海外のサプリメント素材、食品事情も紹介する。	
		英語コミュニケーションA（1）	テキストは、本授業を含めて「英語コミュニケーションD（2）」まで全学共通教材を用いる。また、受講者数を一定限度までとする少人数クラスで授業を実施する。教室では、話す練習をペアやグループで行い、さらにクイズ、インタビュー、ロールプレイなどを通してスピーキングの力を向上させる。学期中、2回のライティングの宿題提出が課せられる。それぞれ1稿目を提出し、教員の添削を受けて最終稿を提出する。受講者は、授業に積極的に参加することに加えて、授業の準備を十分行うことが求められる。本授業は前期科目であり、後期開講の「英語コミュニケーションA（2）」に引き続く。	
		英語コミュニケーションA（2）	授業は「英語コミュニケーションA（1）」に続く1年次後期科目として行う。少人数で授業を実施する。教室では、話す練習をペアやグループで行い、さらにクイズ、インタビュー、ロールプレイなどを通してスピーキングの力を向上させる。学期中、2回のライティングの宿題提出が課せられる。それぞれ1稿目を提出し、教員の添削を受けて最終稿を提出する。受講者は、授業に積極的に参加することに加えて、授業の準備を十分行うことが求められる。Special Projectとしてスクラップブックを作成する。	
		英語コミュニケーションB（1）	英語の音について、日本人と英語話者の発音を比較することで、英語の発音のしくみを学ぶ。この知識に基づいて、単語・短文などの発音練習を行い、英文を口頭で表現する場合に欠かせない「リズムとイントネーション」の使い方を身につけ表現力を一層高める。また、「目標語彙」(Target Vocabulary)を学習する。その後、教科書本文を「意味単位」(sense-unit)ごとに読むことで、日本語訳に頼らないで、英文の内容をよりの確に、しかも速く理解する力を養成する。こうした基礎訓練を通して、「読解力」「語彙力」を高めていく。	
		英語コミュニケーションB（2）	授業は「英語コミュニケーションB（1）」に続く1年次後期科目として行う。英語の発音のしくみを学んだ上で、単語・短文などの発音練習を行い、英文を口頭で表現する場合に欠かせない「リズムとイントネーション」の使い方を身につけ表現力を一層高める。また、「目標語彙」(Target Vocabulary)を学習した上で、教科書本文を「意味単位」(sense-unit)ごとに読むことで、日本語訳に頼らないで、英文の内容をよりの確に、しかも速く理解する力を養成する。こうした基礎訓練を通して、「読解力」「語彙力」を高めていく。	
共通教育科目	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目	⑥ 英語教育科目	英語による会話に参加するために、リスニング、スピーキング、ペアワークなどの活動を通じて、モデル会話を学び練習する。また、英語による簡単なディスカッションができるようにする。さらに、自分自身の考えや意見を発展させ、英語で表現できるようにする。そして、口頭または作文による、英語のプレゼンテーション（個人）を行うために、自分の考えや意見をまとめられるようにする。本授業は前期科目であり、後期開講の「英語コミュニケーションC（2）」に引き続く。	
		英語コミュニケーションC（1）	英語による会話に参加するために、リスニング、スピーキング、ペアワークなどの活動を通じて、モデル会話を学び練習する。また、英語による簡単なディスカッションができるようにする。さらに、自分自身の考えや意見を発展させ、英語で表現できるようにする。そして、口頭または作文による、英語のプレゼンテーション（個人）を行うために、自分の考えや意見をまとめられるようにする。	
		英語コミュニケーションC（2）	英語運用能力を高めるために次のことを行う。（1）リスニングテキストを用いて15分程度、聴解力養成トレーニングをする。（2）CD（またはテープ）によるテキストの朗読を聴く。（3）重要な語句について学習する。（4）本文のポイントを把握することによって、英文の内容を的確に理解する。（5）テキストの内容把握に関する練習問題に取り組む。（6）テキストの英文中、重要な箇所、難解な箇所について正しく理解する。	
		英語コミュニケーションD（1）	英語運用能力を高めるために次のことを行う。（1）リスニングテキストを用いて15分程度、聴解力養成トレーニングをする。（2）CD（またはテープ）によるテキストの朗読を聴く。（3）重要な語句について学習する。（4）本文のポイントを把握することによって、英文の内容を的確に理解する。（5）テキストの内容把握に関する練習問題に取り組む。（6）テキストの英文中、重要な箇所、難解な箇所について正しく理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	英語コミュニケーションD (2)	授業は「英語コミュニケーションD (1)」に続く2年次後期科目として行う。ついては、前期授業に引き続き次のことを行う。(1)リスニングテキストを用いて15分程度、聴解力養成トレーニングをする。(2)CD (またはテープ) によるテキストの朗読を聴く。(3)重要な語句について学習する。(4)本文のポイントを把握することによって、英文の内容を的確に理解する。(5)テキストの内容把握に関する練習問題に取り組む。(6)テキストの英文中、重要な個所、難解な個所について正しく理解する。		
	英語コミュニケーションE (1)	3・4年次生を対象として、「話す」、「聞く」、「書く」、「読む」の4技能を総合的に伸ばす。このことによって、中級レベルの英語運用能力を獲得する。授業では、教科書のユニットごとに、様々なトピックに関して4技能を用いたコミュニケーション活動や練習問題を行う。英語を書く練習には、文法問題と英作文の宿題が含まれる。		
	英語コミュニケーションE (2)	授業は「英語コミュニケーションE (1)」に続く後期科目として展開する。ついては、3・4年次生を対象として、「話す」、「聞く」、「書く」、「読む」の4技能を総合的に伸ばすことによって、中級レベルの英語運用能力を獲得する。教科書のユニットごとに、様々なトピックに関して4技能を用いたコミュニケーション活動や練習問題を行う。英語を書く練習には、文法問題と英作文の宿題が含まれる。		
	英語コミュニケーションF (1)	3・4年次生を対象として、TOEICに出題された様々な問題を解くことによって、さらに英語運用能力を高める。学習の到達度を確認するため、学内で実施されるTOEIC I Pテストを各自が手続きをして受験し、スコアを提出させる。(到達目標としては、本試験で500点以上を獲得するレベルを目安としている。) また、授業の中で、数回の小テストを授業内容に関して実施する。		
	英語コミュニケーションF (2)	授業は「英語コミュニケーションF (1)」に続く後期科目として展開する。すなわち、3・4年次生を対象として、TOEICに出題された様々な問題を解くことによって、さらに英語運用能力を高める。授業の中で、数回の小テストを授業内容に関して実施する。なお、学習の到達度を確認するため、学内で実施されるTOEIC I Pテストを各自が手続きをして受験し、スコアを提出させる。学習到達目標として、本試験で確実に500点以上を獲得できるようにする。		
	⑦外国語教育科目	ドイツ語 (1)	この授業では、ドイツ語の初級レベルの基本的文法理解の手ほどきをする。ドイツ語は、EUヨーロッパ連合で最大の話者数 (9,000万人以上) を誇る言語であるばかりでなく、英語の姉妹語であり、両者の基本的文法構造と重要基礎語彙はかなり似ている。このことから、本授業では、教科書に沿ってドイツ語の初級文法をできるだけ英語と比較対照しながら進めていくとともに、ドイツ語圏諸国の文化紹介をビデオ等の補助教材を用いて行っていく。	
		ドイツ語 (2)	前期に開講している「ドイツ語 (1)」の後期開講の継続授業として展開する。教科書に沿って引き続きドイツ語の初級文法の学習をできるかぎり英語のそれと比較対照しながら進める。あわせて教科書に載っている練習問題を多くこなすことにより、ドイツ語の作文力を身につけ向上させていく。また、前期に引き続き、ドイツ語圏諸国 (ドイツ以外にドイツ語を公用語としているオーストリアやスイス等の中欧の国々を含む) の文化紹介をビデオ等の補助教材を使って行う。	
共通教育科目	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目 ⑦外国語教育科目	ドイツ語 (3)	1年次に学習した「ドイツ語 (1)」・「ドイツ語 (2)」に引き続き、初級ドイツ語 (発音練習、文法、簡単な読解) の学習を進める。長文読解は本授業では取り扱わない。基本的には、教科書に沿って授業を進めるが、各課毎にまず新しく学習する文法事項を説明し、教科書内の関連する練習問題および読解 (ただし会話形式の文章) を行う。場合によってはプリントを用いたり受講者の理解度を確認するための小テストを行う。また、必要に応じて前学年次に学んだ事項の復習も行う。	
		ドイツ語 (4)	これまでに学んだドイツ語をより発展的に学習する。ドイツ語という言語だけでなく、ドイツ語圏の地理、歴史、文化などにも多く触れる機会を設け、ドイツ語圏諸国全般にわたる理解をより深める。また、ドイツ、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインといったドイツ語圏の国々の人々と旅行会話以上のコミュニケーションをとれるよう学習を進める。そのため、折を見てドイツ語圏の国々の文化等についてもさらなる紹介をし、ドイツ語圏諸国の知識を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	ドイツ語会話(1)	ドイツ語会話の入門としての授業である。すなわち、日常会話程度の基礎的なドイツ語コミュニケーション能力を総合的に養成する。例えば、ドイツ語圏の国々に旅行する際、簡単な会話を通して、ドイツ語で意思疎通ができるようなドイツ語の運用能力を身につける。取り扱う会話単位としては、発音練習、人と知り合いになる上での挨拶や自己紹介の仕方、簡単な日常会話、気持ちを伝えるための簡単な意思表示の仕方、など、基本的な会話が中心である。		
	ドイツ語会話(2)	前期開講の「ドイツ語会話(1)」で習得したドイツ語会話力をさらに高めることがこの授業の目的である。すなわち、簡単な会話を通して、ドイツ語で意思疎通ができるようなドイツ語の運用能力を身につける。前期同様、ネイティブスピーカーの教師のもとで学ぶことの有利性を活かし、会話を中心にドイツ語の総合的運用能力のさらなる育成を目指す。取り扱う会話単位としては、「趣味について」、「食事について」、「家族について」、「時刻と日付」などである。		
	ドイツ語会話(3)	1年次に学習した「ドイツ語会話(1)」・「ドイツ語会話(2)」に引き続き、ドイツ語の会話力をネイティブスピーカーの教師のもとでさらに高めていく。また、テキスト「Szenen 1」を使って、会話を中心にドイツ語の総合的運用能力(話す、聞く、書く、読む)のさらなる向上を目指す。会話単位としては、「道案内」、「一日の生活」、「休暇の過ごし方」、「手紙の書き方」、レストランとホテルで、「ショッピング」、「天気」、「病気」などさまざまなテーマを取り上げる。		
	ドイツ語会話(4)	これまでの「ドイツ語会話(1)」～「ドイツ語会話(3)」までで学習したドイツ語コミュニケーション能力をさらに高めるとともに、受講者の自律、自習を促進することを目的とする。受講者の会話力を高めるために、時折り小グループやペアに分かれて授業を進める。また、テキスト「Szenen 2」を使って、街や旅行先のできごとを題材に、これまでに学んだドイツ語会話の総復習を行う。そして最終的には、ドイツ語技能検定試験の4級または3級の合格を視野に入れた語学力の養成を目指す。		
	フランス語(1)	フランス語の発音の仕方を覚えるとともに、簡単な文による意思疎通ができるようになるため、フランス語の骨格となる初級文法を学習する。後期開講の「フランス語(2)」へと続く一年間の授業の前半である。教科書に従ってフランス語の基本的文法を解説し、パターン練習を繰り返す。前期は特に、まずつづり字をフランス語風に読めるようになる(Paris は「パリス」ではなく「パリー」、toilette は「トイレット」ではなく「トワレット」など)よう、発音の仕方の習得にもっとも力を入れる。		
	フランス語(2)	前期開講の「フランス語(1)」からの一年間の授業としての後期開講科目である。引き続きフランス語の発音の仕方を覚えるとともに、簡単な文による意思疎通ができるようになるため、フランス語の骨格をなす初級文法を学習する。ついては、フランス語の基本を体系的に理解するとともに、知識をゆっくり確実に身につけて使いこなせるようにする。学習のため、実用フランス語技能検定5級の過去問等をのぞいてみたり、有名なシャンソンを聴いてみたりと、ヴァリエーションを広げて授業を進める。		
共通教育科目	この科目は、IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目 ⑦ 外国語教育科目	フランス語(3)	1年次の文法の続きを学習し、簡単なフランス語を「読み、書き、話し、聴く」能力の基礎を完全に身につけるようにする。また、つづり字の読み方や既習の文法事項の重要な点(名詞の性数に伴う規則や重要な動詞の活用・複合過去・代名動詞など)については繰り返し復習するようにする。ミニ会話や例文を、つづり字と発音の規則を意識しながら読み、初めて見る文章でも大体正確に音読できるようになることを目指す。なお、CDを繰り返し聴いて、発音の練習をすることを課題とする。	
		フランス語(4)	「フランス語(3)」までの文法理解を基礎にして、さらにフランス語運用能力を高めていく。さまざまな種類の文章の読解を通して、文法事項の確認と有用表現の習得を目指す。そのため、会話やインタビュー、メール、説明文などいろいろなタイプの文を読み、文法事項が確実に理解されているかを確認する。その上で、フランス語文章の読解に必要な語彙や有用表現をできるだけ多く習得するとともに、CDを使った聴き取りや実際に使われているチラシやパンフレットなどから情報を読み取る練習を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フランス語会話 (1)	基礎的なフランス語会話を学習して、フランス語でコミュニケーションする態度を育てるのが本授業のねらいである。テキストとして使用するのは、日本の文化に興味を持ってやってきたパスカルというフランス人の男の子と「くみこ」という日本人の女の子の会話教材『パスカル オ ジャポン』である。このテキストを通じて、日常的なフランス語に触れながら、コミュニケーション能力を身につけていく。そして、基礎的な文法や日常生活に必要な言い回しを覚える。	
	フランス語会話 (2)	「フランス語会話(1)」に続く授業として、引き続きテキストとして『パスカル オ ジャポン』を使用し、日常のかつ基本的なフランス語会話を学習する。挨拶の仕方や自己紹介の仕方を対話形式で練習したりするが、一番の目的としてはフランス語に親しむことに重点を置く。授業の中では、何をしているかを尋ねたり、場所を尋ねたり、あるいは「家族を語る」対話練習などを行う。また、文法として疑問文の作り方、否定文の作り方、否定疑問文の応答などについても学ぶ。	
	フランス語会話 (3)	1年次に『パスカル オ ジャポン』で学習したことをもとに、テキストの後半を使ってフランス語会話の運用能力をさらに高めていく。授業では、教科書のビデオや写真を見ながら、フランス語の基礎的な表現を身近なものとして身につける。授業の中で多くの対話練習を行うが、具体的には「年齢の言い方」、「時刻の言い方」、「人の紹介の仕方」、「日常生活の表現」、「量を表す言い方」などを取り上げる。それらを通じて、フランス語やフランス文化により興味を持てるようにしていく。	
	フランス語会話 (4)	1年次から学習してきた「フランス語会話(1)」～「フランス語会話(3)」までのフランス語会話の学びの総仕上げを行う。授業では、「命令形」や「比較級」の対話文、「過去のことを語る」対話文、「未来のことを語る」対話文などを使って、ペアで練習したり、教師(ネイティブスピーカー)と対話して正しく発音できるように指導していく。そして、フランス語を聞くだけでなく、日常なことなら話題についてフランス語で話すことができるところまで会話力を高める。	
	スペイン語(1)	本授業は、スペイン語入門のためのコースである。スペイン語の発音の仕方を覚え、スペイン語の骨格を成す初級文法をマスターすることが授業の目的である。ついては、教科書にしたがって、スペイン語の基本的な文法を解説するとともに、基本的な言い回しの練習を行う。そうしたことを通じて、スペイン語を運用するための基本となる文法知識を学ぶ。授業では最初に、スペイン語圏諸国の紹介を行い、続いてスペイン語の発音・アクセントから始まって、名詞、形容詞などの品詞の使い方などを説明する。	
	スペイン語(2)	前期開講の「スペイン語(1)」に引き続き、スペイン語の骨格を成す初級文法を学習していく。「スペイン語(1)」で取り扱った品詞以外の品詞の使い方や、人称代名詞直接目的格、現在形不規則変化動詞、所有形容詞などについて説明する。また、比較級や不定語と否定語についても説明する。授業の中では、練習問題や訳読を行い、そうしたことを通じてスペイン語を運用する上での基本となる文法知識や言い回しがしっかりと身につくようにしていく。	
共通教育科目 こつける科目 IV 現代社会に必要なリテラシーを身	⑦ 外国語教育科目 スペイン語(3)	1年次に学習した「スペイン語(1)」・「スペイン語(2)」を基に、引き続き初級スペイン語の学習を進める。まずは、簡単なスペイン語の「読み、書き、話す、聴く」の4能力の基礎を確実なものにしていくことに重点を置く。具体的な授業内容としては、「点過去形規則動詞の活用と用法」、「点過去形不規則動詞の活用と用法」、「線過去形の活用と用法」、「未来形の活用と用法」、「直接法の解説」などである。なお、文法上の解説に合わせ、練習問題を行うとともに、訳読演習も行う。	
	スペイン語(4)	スペイン語(3)の教科書を引き続き使用し、既習の直説法の用法をふまえ、接続法と命令法を学ぶ。前半では接続法現在を名詞節、副詞節、関係詞節にわけて学ぶ。接続法現在の活用を覚えた後、後半では命令文を学習する。スペイン語の命令文は、肯定命令と否定命令で動詞の形や、人称代名詞の位置が異なるので、ドリル形式の問題や口頭練習を繰り返す。また、授業では随時、雑誌や新聞などのスペイン語圏の様々なメディアを使用するが、それらを通じてスペイン語圏の社会や文化についても学んでいく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	スペイン語会話 (1)	スペイン語会話の入門編の授業である。まずは、スペイン語を使って、簡単な挨拶等ができるようにする。授業では、毎回教科書に沿って進め、会話をドリル練習したりして文章を復唱することにより、慣用表現をしゅうとくすることに力を入れる。その意味でも、スペイン語の発音を重視して、しっかりした発音に基づく会話ができるように指導していく。また、会話を通じて、スペイン語の語彙や基礎的な文法も併せて学べるようにする。なお、スペインの日常生活や文化についても授業の中で紹介する。		
	スペイン語会話 (2)	前期開講の「スペイン語会話(1)」に引き続き、スペイン語会話の入門としての授業を、テキストに沿って会話練習を中心にして進める。前期からの授業同様、反復練習に重点を置くので、予習、復習、授業での積極的な参加が必要である。授業の中での会話のテーマとしては、「基本的な挨拶の仕方」、「自己紹介の仕方」、「数字、住所の言い方」、「時間、日にち曜日の言い方」、「家の中の様子の言い方」など、日常生活に直結したものを多く取り上げる。		
	スペイン語会話 (3)	1年次に学習したスペイン語会話に引き続き、ネイティブスピーカーの指導によりスペイン語の会話力をさらに高めていく。授業の中での会話のテーマとしては、「天候について話す」、「先のことや計画について話す」、「ホテルやレストランを予約する」、「料理や飲み物を注文する」、「買い物をする」、「値段を聞く」、「物を説明したり比べたりする」など、日常生活や旅行をしたときなどに役立つ表現を多く取り上げる。		
	スペイン語会話 (4)	2年間のスペイン語会話の総仕上げとしての授業を行う。授業の中で取り上げる会話のテーマも、「意見を言う」、「経験したことを話す」、「謝る、理由を述べる」、「電話で話す」、「体の調子について話す」、「交通のことを話す」、「許可を得る、禁止する」、「助けを求める、頼みごとをする」、「助言する」、「指示をする」など、コミュニケーションの幅を広げるために、日常よくある題材を多く取り上げる。そして、簡単なスペイン語なら聞き取ることができ、また自分の言いたいことを相手にきちんと伝えられるようにする。		
	中国語(1)	中国語の基本文型を学習し、文を正しい順序で作ることができるようにする。また文法に基づきながら、中国語の簡単な会話文を理解できるようにする。特に初級者を対象とするため、まず教科書にしたがって発音練習を行う。その後、中国語の基本文型を学習しながら、単語の入れ替え練習などで文法を習熟させる。また、教科書の会話に基づいて、簡単な自己紹介ができるようにする。そのほか、授業を通して中国語文化についても紹介し、中国語を広い視点から理解できるようにする。		
	中国語(2)	前期に引き続き、教科書本文の反復練習により、単語に習熟し、基礎文法を学習する。また、前期で学習した発音をチェックし、正しい発音で中国語が読めるようになっていない場合は、正しい発音の練習を行う。その上で、基本単語の習熟と基礎文法の学習に努め、教科書本文の会話を使って簡単な日常会話に対応できるように、また、文を正しい順序で作ることができるようにする。前期同様、中国語文化についても授業の中で紹介をし、中国語を広い視点から理解できるようにする。		
共通教育科目	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目 ⑦ 外国語教育科目	中国語(3)	本授業は、中国語による簡単な文の読解を中心とし、文法に留意しつつ、中国語運用能力の創造的な向上を目指すことにある。については、1年次の「中国語(1)」と「中国語(2)」で学んだことを基礎に、引き続き中国文化についての会話を使って、日本人が間違えやすい表現や複文の呼応についてなど、やや高度な文法知識に基づく学習をする。またあわせて、本文を通じて中国文化に対する理解も得られるよう、授業を進めていく。	
		中国語(4)	「中国語(1)」～「中国語(3)」までの総復習をするとともに、中国語の運用能力に磨きをかけることが本授業のねらいである。授業では引き続き、テキスト『中国語実力アップ教本』による中国文化についての会話を使って、さらに高度な文法知識を学習していく。また、あわせて中国文化に対する知識習得に努め、広い視野で中国語を捉えることができるよう理解を深める。	
		中国語会話(1)	中国語会話の入門として、まずはきちんとした中国語が話せるように発音に重点をおいて練習・学習を進める。については、母音、鼻母音、子音、音調、軽声、変調など、発音上の注意事項を説明し、中国語の発音が理解できるようにする。また、自己紹介を中心に、日常生活のさまざまな場面の会話(名前の読み方、物の尋ね方、年齢の読み方、曜日や日にちの読み方、場所の読み方、など)を練習する。そして、学習した文型を利用しながら、自分が話したい内容を中国語で表現できるように指導する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	中国語会話（2）	前期の「中国語会話（1）」に続き、自己紹介を中心に、日常生活のさまざまな場面の会話を練習する。また、学習した文型を利用しながら、自分が話したい内容を中国語で表現できるように指導する。テキストには『一目瞭然中国語入門』を使用し、「あなたは何人家族ですか」「あなたはどんな趣味をお持ちですか」など、日常よくあるものを数多く取り上げ、日常会話に直結した会話の練習を行う。		
	中国語会話（3）	「中国語会話（1）」や「中国語会話（2）」で1年間学習した中国語の会話力（コミュニケーション能力）のさらなる向上を目指す。ついては、文法事項を説明しながら、入替練習を繰り返し行う。また、引き続き日常よくある会話例について、対話練習を重ねて応用力を養うとともに、より流暢に中国語で会話することができるようにする。		
	中国語会話（4）	これまでに学習した文型を運用して、実際に中国人との簡単なコミュニケーションがとれるようにする。そのため、文法事項を説明しながら、引き続き入替練習を繰り返しおこなう。また、授業においては日常生活のさまざまな場面を設定し、教科書の会話文型を利用しながら、自分の言いたいこと・話したいことの内容を表現してみる対話練習を多く行う。そして、応用力を養い、より流暢に中国語で会話することができるようにする。		
	韓国・朝鮮語（1）	韓国は、日本から見て地理的に一番近い国であり、歴史的にももっとも密接な関係を持っている国である。韓国の文字であるハングルの歴史と創製原理を考察し、韓国語の言語的特徴と構造を日本語と比較しながら学習する。 文字の読み方・つづり方及び発音規則等の韓国語学習の基礎を固めるとともに、韓国語を通じて韓国人とその文化に対する理解を深めていくのが本授業の目的である。		
	韓国・朝鮮語（2）	発音の復習、発音規則の確認など、前期の授業（「韓国・朝鮮語（1）」）で学習した内容の復習から始め、さらに韓国語の基礎文法に対する知識を学習する。また、韓国の歴史や文化に関する話題も豊富に取り入れ、言葉の根底にある歴史的伝統や文化的背景に対する理解も深めていく。あわせて、発音規則に沿ったセンテンス読みの練習をしながら、基礎文法に対する正確な知識と基礎語彙を覚えていく。		
	韓国・朝鮮語（3）	文字の読み方、発音規則、助詞など、1年次で学習した内容の復習から始め、センテンスの自然な読み方と基礎文法を身につけていく。また、ドラマなどで見られる現代韓国を通して、韓国の歴史や文化に関する話題も豊富に取り入れ、言葉の根底にある歴史的伝統や文化的背景に対する理解をさらに深めていく。1年次での学びと同様、発音規則に沿った文の読み方をきちんと身につけることはもちろん、叙法と待遇法などの用語活用、疑問詞、数詞、過去形と副詞形語尾、否定文、といった基礎文法がしっかり身につくようにする。		
共通教育科目	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目 ⑦ 外国語教育科目	韓国・朝鮮語（4）	前期の「韓国・朝鮮語（3）」に続き、基礎語彙で構成されている基本文型を通して、連体形、連用形などの用言の語尾活用を徹底的に練習していく。また、韓国語の慣用語句の学習を通して韓国人の生活感覚に接近していく。そして、文法の基礎知識を完全なものとするとともに、読解力と作文力を身につけ、最終的には韓国語能力試験の2級（ハングル検定4級）以上の合格レベルを目指して学習を進め、一人でも韓国旅行ができる必要最低限の知識を身につけていく。	
		韓国・朝鮮語会話（1）	韓国のテレビドラマを見ながら、挨拶・自己紹介・買い物などの日常生活に必要な表現や決まり文句などを、まずは文字から離れて耳と口で覚えていく。大きい声で繰り返して発音することによって、頭の中で言葉を組み立てるのではなく、自然に口から言葉が出てくるように練習する。その過程の中で、文字や文法に対する知識も身につけるとともに、ドラマを通して韓国人の慣習、文化、生活感覚に対する理解を深めていく。	
		韓国・朝鮮語会話（2）	前期の授業（「韓国・朝鮮語会話（1）」）に引き続き、韓国のテレビドラマを見ながら、挨拶などの日常生活に必要な表現や決まり文句などを、文字から離れて耳と口で覚えていく。前期授業と同様、大きい声で繰り返して発音することによって、頭の中で言葉を組み立てるのではなく、自然に口から言葉が出てくるように練習する。授業に中での会話練習では、願望・依頼・勧誘・許可・禁止・好き嫌い・可能・義務・意図・推量・後悔といった各表現の仕方を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		韓国・朝鮮語会話 (3)	ドラマで生きた韓国語に接することによって聞く (listening)、話す (speaking) 能力を高めると同時に、韓国人の習慣、文化、生活感覚及び慣用語や流行語などに馴染んでいく。毎回の授業では、40分間程度、辞書の使い方を具体的に紹介しながらドラマの台詞を読んで解説し、20分間ドラマを見る。そして、残りの時間は会話の練習をする。韓国語会話のさまざまな表現を身につけることと、辞書を使って台本を読解できる能力を養うことが本授業の目的である。	
		韓国・朝鮮語会話 (4)	韓国語会話の総復習と総括をすることを通じて、会話を中心とした韓国語運用能力を韓国語能力試験の2級 (ハングル検定4級) 以上の合格レベルまで引き上げることが本授業の目標となる。前期同様、毎回の授業では、40分間程度、ドラマの台詞を読んで解説し、20分間ドラマを見る。そして、残りの時間を会話の練習に当てるが、授業時に配布するテキスト資料の会話例なども参考に、聞く (listening)、話す (speaking) 能力をさらに高め、一人でも韓国旅行ができる必要最低限の会話力を身につけていく。	
共通教育科目	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目 ⑧ 情報教育科目	情報リテラシー	高度に情報化の進んだ現在、私達はさまざまな情報の中で生活している。情報は、正しく利用すれば生きていくうえでとても役立つ知恵を与えてくれるはずで、そのためには最小限の知識とコンピュータの操作方法を学ばなくてはならない。本授業では、コンピュータの基礎機能や仕組みを知り、パソコンの基本操作、ワープロ機能、画像処理、情報倫理、情報検索・発信、表計算、プレゼンテーションと一通りの学習を行う。	
		I T 活用A	前期「3次元コンピュータ・グラフィックス」(53 西尾吉男) CG(コンピュータ・グラフィックス)ソフトを活用しながら3次元CGの基礎を身につけることを目的とする。Povray独特の記述方法の習得と3次元空間における表現の基礎学習により、操作方法とCGを作るプロセスを習得する。基本図形の制作や位置の調整、テクスチャの貼り付け方や質感の表現、光源の設定などをいくつかのサンプル作品を制作しながら覚えていく。また各自のアイデアによる作品の制作を通じて、CGを作る基本から応用までを学習し自らの表現力を磨く。 後期「クラウド・コンピューティング」(78 後藤 昌人) Googleが企業向けのオンラインスイートGoogle Appsを発表してLotusやMicrosoftやサイボウズの領域に侵入している。本格的なクラウドコンピューティングを背景にして、ついに企業の本丸に殴り込んだのである。金城学院大学では2008年からGoogle Appsを導入している。本授業では多くの人にとって未知の可能性を秘めたクラウドコンピューティングの世界を知り、体験することを目的とする。この授業ではGoogle Appsコミュニケーションツール、コラボレーションツールを実際に使いながらクラウドコンピューティングの利便性の検証をする。	
共通教育科目	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目 ⑧ 情報教育科目	I T 活用B	動画作成編集 動画コンテンツを作成することを目的とする。動画は視聴者に何か訴えるものが必須である。取材交渉の仕方や台本の書き方から始まり、ディレクター、MC (レポーター)、カメラマン、音声 (サウンドエフェクト兼務)、照明係のチームとして動画の素材を一つ一つそろえるプロセスを修得する。そして動画編集ソフトを使って撮影した映像をデジタル編集する技術を学ぶ。また、この授業では地上デジタル放送時代における動画コンテンツを制作する側から実際に体験することを目標にすると同時に、インターネット放送という新しいメディアを見据えた動画コンテンツのあり方を学ぶ。	
		I T 活用C	Webプログラミング入門 クラウド・コンピューティングの時代を迎え、Web上で速やかに動くアプリケーションの開発が注目されている。授業では、このような開発を行うためのWebプログラミングを初歩から学習し、アプリケーションを含むグラフィカルなWebページを作成していく。授業内容には、プログラムの基本構造、データや変数の概念、制御構文、例外処理、グラフィックス・メソッドなどプログラミング言語に不可欠な学習も含まれるが、プログラム開発環境を使用して、わかりやすく解説していく。	
		I T 活用D	Webページデザイン インターネットは、情報収集・検索する手段を与えてくれたばかりでなく、世界に向けて情報を発信する新しいコミュニケーション手段を与えてくれた。授業では、インターネット上で情報を発信するための言語であるHTML (Hypertext Markup Language) とスタイル部分を担当するCSS (Cascading Style Sheet) を学習して行く。HTML・CSSおよびWebページ開発ソフトを用いて、自らデザインしたWebページを作成する。Webサーバに関する知識や取り扱い、データ転送技術も学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	I T活用E	データベース入門 現在では様々な情報の管理・利用がコンピュータによって行われ、それらの情報はデータベースとして蓄積されている。この情報が効率的に整理され、いつでも必要な情報を取り出し、自由に組み合わせて利用することができるデータベースを、自分で設計し、作成できる能力を身につける。リレーショナルデータベースのアプリケーションソフトウェア (Access) を用いて、実際にデータベースを設計・作成し、クエリー・レポートの作成を中心とした演習を実施し、データベースの応用分野を考慮しながら、演習を行う。	
	I T活用F	デスクトップ・パブリッシング入門 現在の印刷物の多くは、DTP (デスクトップ・パブリッシング) と呼ばれる技術で制作されている。この授業では、写真、イラスト、グラフィックスを統合したイメージ・ビジュアル制作の基礎を学びながら、文書と画像で構成されるパンフレットや雑誌等の編集技術を学んでいく。画像処理や文字指定、レイアウトといった要素の入った印刷媒体の作品の制作を通し、将来、出版社や一般企業の広報部門など様々な分野で仕事する上で役立つスキルを習得する。	
	I T活用G	コンピュータ・デザイン コンピュータを活用すると、写真画像からイラストや絵画などを簡単に作成ができる。この授業では画像ソフトを使用し、描画や画像処理などの基礎的な知識・技術とその活用法を実際の制作を通じて紹介する。 コンピュータはMacを使用し、CGソフトはPhotoshopやIllustratorを予定している。毎時間、最初にCGソフトの操作方法を概説し、その後、各自に制作をしてもらうことで知識と操作スキル、そして作品上での表現をトータル的に学習する。	

共通教育科目	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目	⑨ キャリア開発教育科目	キャリア開発A	今日の社会では人生の選択肢が広がり、自分らしい生き方の開拓、すなわち自律的なキャリア開発が強く求められている。本授業の目的は、講義と体験学習の両面からアプローチし、キャリア開発に必要な基礎知識とスキルの修得を目指す。授業では、まずキャリア・デザインの重要性について学ぶ。次に、自分のこれからの大学生活や卒業後の進路について考える。そのために、自己分析のためのキャリア・アセスメントの実施、職業・資格研究、そして自らの今後のキャリアをデザインし、そのプレゼンテーションなどを行う。またそのほか、マナー講習や講演会なども予定する。	
			キャリア開発B	社会生活において円滑な人間関係を築くには、基本的なマナーを身につけ、コミュニケーション能力を高めることが不可欠である。授業では、講義をとおりマナーとコミュニケーションに関する知識を習得し、ロールプレーや実技によりソーシャルスキルを向上させる。また、マナーの背後にある他者への思いやり、相手の考え方や気持ちをきちんと受け止めること、自分の考えや気持ちを適切に相手に伝えることの重要性について理解を促し、共感能力を高め、人間力を養うことを目指す。	
			キャリア開発C	わが国における女性のライフスタイルは、この数十年間で大きな変貌をとげている。女性の生き方の多様化は、職業観、結婚観、家庭観などにも大きく影響し、その結果かえって生き方に悩む女性も見受けられる。社会人になる前段階の大学生活において、時間をかけて将来の生き方を考えることは重要な課題であろう。本授業では、結婚、出産、育児、仕事と家庭の両立、子育て後の家庭生活などのテーマについて具体的な事例やトピックを紹介し、ディスカッションを交えながら、豊かで実り多い人生設計の指針を得ることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		キャリア開発D	キャリア開発A～Cで学んだキャリアに関する基礎知識を、より自分に身近で現実的な課題として理解・考察することが本授業のねらいである。そのため本授業では、「社会でいきいき働く女性たち」をテーマに、社会の諸領域で活躍しているゲストによるミニ講演を中心に授業を進める。ゲストは、航空、マスコミ、ファッション、人材派遣などの業界の企業の一員として、また、税理士、研究者などの専門職としてキャリアを築いている本学の卒業生約10名を予定し、就業のきっかけ、仕事の喜び、やりがい、苦労したことなども語ってもらう。	
		キャリア開発E	授業のサブタイトルを、「大企業のトップに学ぶ“キャリアの本当の意味”」とし、東海地区の大企業11社より、会長あるいは社長レベルの方を客員教授としてお招きして、ご自身のワークキャリアやライフスタイルについての経験やお考えを伺う。それを通じて、「職業」や「働くこと」さらには「人生」についての理解を深める。各回とも、講話の感想については小レポートを求める。さらに、最終授業では総括としてのまとめのレポートを求める。また、講話を参考に、授業の初回および中間の2回では、職種別の業界研究や企業・会社研究を行う。	
		キャリア開発F	本授業では、これまでのキャリア開発の授業を踏まえ、働く女性の現状を復習した後に、社会人生活の初期に直面するキャリア上の課題を考えていく。その上で、上司との関係、メンタルヘルス、仕事と家庭の両立といった社会人生活を送る上で重要なテーマを取り上げる。次に、企業における女性キャリア支援策の実態や人事評価の実際などについて演習を通じて理解を深める。すなわち本授業のねらいは、将来の職業生活に役立つ知識の獲得にある。	
		キャリア開発G(1)	本授業のねらいは、インターンシップの目的やそのメリットを学び、仕事や就職に対する意識を高めることにある。については、インターンシップに向けて、企業で求められるマナーやビジネススキルを、実践を通じて学ぶ。また、企業内で様々な職務を行う際に求められる基本的な問題解決能力や論理的思考についても演習形式で習得を目指す。本授業を通じて、自信を持ってインターンシップ体験が出来る準備を行うと同時に、近い将来社会人となる「社会人予備軍」としての自覚を高める。	
共通教育科目	IV 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目	⑨ キャリア開発G(2)	授業に支障のない夏期休暇期間を中心に、実際に企業・団体で就業体験を行う。研修内容は企業・団体によって異なるが、就業上の実体験をする点で共通である。1年次に必修科目として受講した「キャリア開発A」や2年次でインターンシップ準備として受講した「キャリア開発G(1)」等、キャリア開発教育科目のまとめとしての科目となる。学内(教室)で行う授業は、4月に1回、5～6月に開催するビジネスマナー研修3回、11月下旬に行う事後報告会1回の計5回である。なお、本授業を履修するためには、「キャリア開発G(1)」を先に受講していることが必要である。	
		V スポーツを通して健康増進を図る科目	⑩ S&E教育科目	スポーツ・アンド・エクササイズA 種目はテニス/テニスの基本技術を習得し、生涯スポーツの一種目として実践できるようにする。前半では、基本技術の反復練習に多くの時間を割く。必要に応じてVTR撮影により各自のフォームをチェックする。徐々に応用練習を加え、ミニ・ゲームなどによりゲームにおける基本技術の重要さを認識する。後半では、グラウンド・ストロークのコースの打ち分けとランニング・ショットなど、技術の応用を学ぶ。最終的にはフルコートのゲームを楽しむようにする。
		スポーツ・アンド・エクササイズB 種目はゴルフ/ゴルフの基本技術を習得し、生涯スポーツの一種目として実践できるようにする。そのためはどのように体を動かす事が合理的であるかといった基礎知識を得ることを中心に進める。必要に応じてVTR撮影によるフォームのチェックを行う。技術の向上は打球数に比例するともいわれることから、できるだけボールを多く打つことを心がける。実際にコースに出ることはないが、ゴルフ場でのマナーや競技上のルールについても理解を深める。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	スポーツ・アンド・エクササイズ C	種目はバドミントン／バドミントンの基本技術を習得し、生涯スポーツの一種目として実践できるようにする。ねらった場所にシャトルが打てるようになるための基本技術の反復練習と、ルール等の基礎知識を得ることを中心に進める。できるだけラリーを続けることを心がけるが、比較的早い段階からゲームを取り入れ、実戦的な練習も多く行う。必要に応じてVTR撮影によるフォームのチェックを行い、技術の向上を目指す。		
	スポーツ・アンド・エクササイズ D	種目は卓球／卓球の基本技術を習得し、生涯スポーツの一種目として実践できるようにする。基本技術の反復練習と、ねらった場所にボールを打てるようになるためにはどのように体を動かす事が合理的であるかといった基礎知識を得ることを中心に進める。できるだけラリーを続けることを心がけるが、比較的早い段階からゲームを取り入れ、実戦的な練習も多くおこなう。必要に応じてVTR撮影によるフォームのチェックをおこない、技術の向上を目指す。		
	スポーツ・アンド・エクササイズ E	種目はバレーボール／バレーボールの基本技術を習得し、生涯スポーツの一種目として実践できるようにする。バレーボールは高校までの学校体育の中で、多くの人が最も回数多く経験しているにもかかわらず、基本技術の習得が不十分で、ゲームの理解も非常に未熟な種目である。大学では基本技術とゲームの理解の向上が、直接ゲームを楽しむことに結びつくような形で授業を進める。		
	スポーツ・アンド・エクササイズ F	種目はライトスポーツ／これまであまり体験する機会の少なかったスポーツ種目を複数取り上げ、スポーツを行う楽しさを実感し、運動を嫌う人たちが生涯に渡ってスポーツを実践するきっかけをつくるとともに、運動の持つ様々な意味を生涯スポーツの観点から学ぶ。ソフト・バレーボール、キック・ベースボール、サッカー、アルティメット・frisbee、グラウンド・ゴルフ、インディアカ、エアロビクス・ダンス、ダンベル体操、ウォーキングなどの種目の中から、天候を考慮してその時間に行う種目を決める。この授業はできるだけ楽しく運動に親しむことを目指す。		
共通教育科目	V スポーツを通じて健康増進を図る科目 ⑩ S&E 教育科目	スポーツ・アンド・エクササイズ G	種目は野外スポーツ実習／生涯スポーツの一つとなり得るウェイクボードやカヤックなどの水上スポーツ、トレッキング（夏期）、スキー、スノーボード等の雪上スポーツ（冬期）など、さまざまな野外スポーツにおける基礎的な技術の習得を図るとともに、安全に野外スポーツを行うための知識を身につける。そして、各野外スポーツの持つ特性を理解し、人間と自然との関わりや共同生活を通じた社会性の育成について理解する。また、新しい体験やチャレンジを通して、知性・感性豊かな社会人としての素養を身につける。	
	スポーツ・アンド・エクササイズ H	種目はヘルシーエクササイズ／運動不足を感じている3・4年次生を対象に、生涯スポーツの重要性と健康体力の維持・増進を目的として開講する。したがって、特定スポーツの技術習得よりも、むしろ健康体力メカニズムの理解、健康体の維持・増進の実践的方法の習得に重点を置く。日常的に実践できるストレッチ体操なども紹介する。体力に関しては、より客観的に把握するために体力診断テストも導入して実施する。		
VI アクティブ・ラーニング科目	⑪ プロジェクト科目	海外研修A	海外での語学研修プログラムに参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では学び得ないようなことを学ぶ。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムでも単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。（研修先が北米の場合）	
		海外研修B	海外での語学研修プログラムに参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では学び得ないようなことを学ぶ。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムでも単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。（研修先がイギリスの場合）	
		海外研修C	海外での語学研修プログラムに参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では学び得ないようなことを学ぶ。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムでも単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。（研修先がオーストラリアの場合）	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	海外研修D	海外での語学研修プログラムに参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では学び得ないようなことを学ぶ。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムでも単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。(研修先が中国の場合)		
	海外研修E	海外での語学研修プログラムに参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では学び得ないようなことを学ぶ。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムでも単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。(研修先が北米、イギリス、オーストラリアおよび中国以外の場合)		
	異文化体験	国の内外を問わず、異文化交流を行い、その体験を通して異文化理解を図る。海外でのボランティア活動、定住外国人への日本語教育支援など様々な活動を通しての異文化体験が対象となる。学生自身が興味深いと思うプログラムが単位取得に値すると判断される場合は、それに参加し十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。		
	ボランティア活動	障がい学生支援など、学内にも大学主催のボランティアプロジェクトがいくつ也存在する。それらに参加することによって、学生はボランティアの意義を体験的に学び、社会での様々なボランティア活動に積極的に参加する姿勢を身につける。また、支援活動を通じて、人とどのように関わるかについても学ぶ。学外でのボランティア活動を含め、そのボランティア活動の内容が単位取得に値すると判断される場合は、それに参加し十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。		
	学生プロジェクト	学生自身が何かの問題に関心を持ち、それを解決するための方策を考案し、実施し、成果をあげるという過程を通じて、問題解決型の学習をする。一つの取組をチームで行うこともできる。したがって、どのようなテーマであれ、学生(共同の場合を含む)が取り組む企画を提案してきた場合で、その取組内容が単位取得に値すると判断される場合は、これを「学生プロジェクト」の科目名で単位取得を認める。		
共通教育科目	単位認定科目	外国語検定(英語コミュニケーションA)	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定(英語コミュニケーションA)」は、実用英語技能検定試験(英検)準1級合格、TOEFL510点、TOEIC750点、国際連合公用語・英語検定試験(国連英検)B級合格、ケンブリッジ大学英語能力検定試験CAE(1級)合格までの会話とライティングを中心とする成果に係る学修に相応する科目として設定している。	
		外国語検定(英語コミュニケーションB)	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定(英語コミュニケーションB)」は、実用英語技能検定試験(英検)2級合格まで、TOEFL510点まで、TOEIC650点まで、国際連合公用語・英語検定試験(国連英検)C級合格まで、ケンブリッジ大学英語能力検定試験PET(2級)合格までの成果に係る学修(会話とライティングを除く)に相応する科目として設定している。	
		外国語検定(英語コミュニケーションC)	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定(英語コミュニケーションC)」は、実用英語技能検定試験(英検)1級合格、TOEFL511点以上、TOEIC751点以上、国際連合公用語・英語検定試験(国連英検)A級合格、ケンブリッジ大学英語能力検定試験CPE(特級)合格に対する成果に係る会話とライティングを中心とする学修に相応する科目として設定している。	
		外国語検定(英語コミュニケーションD)	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定(英語コミュニケーションD)」は、実用英語技能検定試験(英検)準1級合格以上、TOEFL511点以上、TOEIC651点以上、国際連合公用語・英語検定試験(国連英検)B級合格以上、ケンブリッジ大学英語能力検定試験CAE(1級)合格以上の成果に係る学修(会話とライティングを除く)に相応する科目として設定している。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	外国語検定（ドイツ語 1、2）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（ドイツ語 1、2）」は、ドイツ語技能検定試験 2 級合格までの成果に係る学修（会話を除く）に相応する科目として設定している。		
	外国語検定（ドイツ語 3、4）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（ドイツ語 3、4）」は、ドイツ語技能検定試験 準 1 級以上の合格に対する成果に係る学修（会話を除く）に相応する科目として設定している。		
	外国語検定（ドイツ語会話 1、2）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（ドイツ語会話 1、2）」は、ドイツ語技能検定試験 2 級合格までの成果に係る会話を中心とする学修に相応する科目として設定している。		
	外国語検定（ドイツ語会話 3、4）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（ドイツ語会話 3、4）」は、ドイツ語技能検定試験 準 1 級以上の合格に対する成果に係る会話を中心とする学修に相応する科目として設定している。		
	外国語検定（フランス語 1、2）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（フランス語 1、2）」は、実用フランス語技能検定試験 2 級合格までの成果に係る学修（会話を除く）に相応する科目として設定している。		
	外国語検定（フランス語 3、4）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（フランス語 3、4）」は、実用フランス語技能検定試験 準 1 級以上の合格に対する成果に係る学修（会話を除く）に相応する科目として設定している。		
共通教育科目	単位認定科目	外国語検定（フランス語会話 1、2）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（フランス語会話 1、2）」は、実用フランス語技能検定試験 準 1 級合格までの成果に係る会話を中心とする学修に相応する科目として設定している。	
		外国語検定（フランス語会話 3、4）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（フランス語会話 3、4）」は、実用フランス語技能検定試験 1 級合格に対する成果に係る会話を中心とする学修に相応する科目として設定している。	
		外国語検定（スペイン語 1、2）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（スペイン語 1、2）」は、スペイン語技能検定試験 3 級合格までの成果に係る学修（会話を除く）に相応する科目として設定している。	
		外国語検定（スペイン語 3、4）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（スペイン語 3、4）」は、スペイン語技能検定試験 2 級以上の合格に対する成果に係る学修（会話を除く）に相応する科目として設定している。	
		外国語検定（スペイン語会話 1、2）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（スペイン語会話 1、2）」は、スペイン語技能検定試験 2 級合格までの成果に係る会話を中心とする学修に相応する科目として設定している。	
		外国語検定（スペイン語会話 3、4）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（スペイン語会話 3、4）」は、スペイン語技能検定試験 1 級合格に対する成果に係る会話を中心とする学修に相応する科目として設定している。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	外国語検定（中国語 1、2）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（中国語 1、2）」は、中国語検定試験 2 級合格までの成果に係る学修（会話を除く）に相応する科目として設定している。	
	外国語検定（中国語 3、4）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（中国語 3、4）」は、中国語検定試験 準 1 級以上の合格に対する成果に係る学修（会話を除く）に相応する科目として設定している。	
	外国語検定（中国語会話 1、2）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（中国語会話 1、2）」は、中国語検定試験 準 1 級合格までの成果に係る会話を中心とする学修に相応する科目として設定している。	
	外国語検定（中国語会話 3、4）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（中国語会話 3、4）」は、中国語検定試験 1 級合格に対する成果に係る会話を中心とする学修に相応する科目として設定している。	
	外国語検定（韓国・朝鮮語 1、2）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（韓国・朝鮮語 1、2）」は、韓国語能力試験 4 級合格またはハングル能力検定試験 2 級合格までの成果に係る学修（会話を除く）に相応する科目として設定している。	
共通教育科目	単位認定科目		
	外国語検定（韓国・朝鮮語 3、4）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（韓国・朝鮮語 3、4）」は、韓国語能力試験 5 級以上またはハングル能力検定試験 準 1 級以上の合格に対する成果に係る学修（会話を除く）に相応する科目として設定している。	
	外国語検定（韓国・朝鮮語会話 1、2）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（韓国・朝鮮語会話 1、2）」は、韓国語能力試験 5 級合格またはハングル能力検定試験 準 1 級合格までの成果に係る会話を中心とする学修に相応する科目として設定している。	
	外国語検定（韓国・朝鮮語会話 3、4）	教育上有益と認められるときは、外国語検定試験等の合格または成果に係る学修を、その内容の程度に応じて、本学において修得したものとみなし、単位認定する。「外国語検定（韓国・朝鮮語会話 3、4）」は、韓国語能力試験 6 級合格またはハングル能力検定試験 1 級合格に対する成果に係る会話を中心とする学修に相応する科目として設定している。	
日本語及び日本事情に関する科目	日本語科目		
	日本語 201	「日本語 202」の前期科目として開講する。日本語検定 3～4 級程度の、主として非漢字圏の留学生を対象とし、日本語運用能力の向上を目指す。読む、書く、聞く、話す、の日本語の 4 技能を個別の科目で学習させるのではなく、それを統合した総合的科目として設定し、複数の担当者が授業目標・教授法・教材等に関するコーディネーションのもとに週 5 回（中級レベル）の授業を行う。	
	日本語 202	「日本語 201」の後期科目として開講する。日本語検定 3～4 級程度の、主として非漢字圏の留学生を対象とし、日本語運用能力の向上を目指す。読む、書く、聞く、話す、の日本語の 4 技能を個別の科目で学習させるのではなく、それを統合した総合的科目として設定し、複数の担当者が授業目標・教授法・教材等に関するコーディネーションのもとに週 5 回（中級レベル）の授業を行う。	
	日本語 300	「日本語 301」の前期科目として開講する。読む、書く、聞く、話す、の日本語の 4 技能を個別の科目で学習させるのではなく、それを統合した総合的科目として設定し、複数の担当者が授業目標・教授法・教材等に関するコーディネーションのもとに週 2 回（中・上級レベル）の授業を行う。	
	日本語 301	「日本語 300」の後期科目として開講する。読む、書く、聞く、話す、の日本語の 4 技能を個別の科目で学習させるのではなく、それを統合した総合的科目として設定し、複数の担当者が授業目標・教授法・教材等に関するコーディネーションのもとに週 2 回（中・上級レベル）の授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語400	<p>上級日本語能力の養成を目的とする。</p> <p>[二杉] ディベートを通じて日本語能力の養成を行う。ディベートは、資料を読み、立論と反駁カードを書き、相手の意見を聞き、的確に反論する(話す)、「ことばによるゲーム」である。現代社会の公共的なテーマについて公衆の前で日本語を話すことに特色があり、ディベートを通して日本語による討論技術、運用能力を総合的に鍛えることをねらいとしている。</p> <p>[秋山] 現代日本社会、国際社会への理解を、日本語を通して深めていく。それに必要な語彙や表現の獲得を目指す。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で4技能の向上を目指す。最終目標は、レポートの作成と発表である。</p>	
	日本語401	<p>上級日本語能力の養成を目的とする。</p> <p>[岩崎] 専門書購読入門としての読解活動を行い、専門書や専門論文の言語的形式や固有の表現を獲得することを目指す。専門論文、解説書の講読を行い、日本語の表現方法を深め、専門教育への橋渡しを行う。</p> <p>[神作] 日本文学作品、新聞記事、評論などさまざまな文献を取り上げて、読解力と表現力の向上をめざす。併せて、手紙やメールなどを書く技術に関しても適宜指導する。日本語の知識を吸収し、日本文化にふれることで、あらためて各自の母国の文化を振りかえる契機ともする。</p>	

日本語及び日本事情に関する科目	日本事情に関する科目	日本事情A	日本の自然環境における四季の重要性を示し、それが日本人の生活や農林漁業と強いかかわりをもつことを示す。また、日本独特の自然現象を概説するとともに、環境問題に対する各国の取り組みや考え方を紹介する。	
		日本事情B	国家、経済、人々が盛んに行き交う時代、いわゆるグローバル化は世界を一つにするのか、あるいは分断してしまうのか。現代世界の行動主体に焦点をあて、グローバル化がもたらす正負の側面を概観する。遠く離れた場所で起きたできごとや自分がまったく知らないできごとが距離・時間の隔たりなく人々の生活、健康などに影響をあたえるようになった。さらに貿易、資本、情報の流れにおける国境だけでなく、考え方や規範、価値観といった面でも国境の存在が薄らいできた。このような空間の縮小、時間の短縮、国境の消滅といった背景の中での日本の事情を概説する。	
		日本事情C	日本人の日常生活の体験から生み出され、俳句のような伝統的文芸においてだけでなく、今日も季節の言葉として広く使われている代表的な「季語」をとりあげ、それらが日本の風土や季節の変化をどのように表現しているかを説明する。あわせてこれらの「季語」と日本人の生活体験とのかかわりを解説する。	
		日本事情D	江戸時代末期の開国から明治時代の日本社会の主要な歴史事象を学び、日本近代社会の特色を理解する。あわせて、それが現代日本社会とどのように関係しているのかを考察する。	
		現代日本社会A	現代日本社会の諸側面、諸制度、継承されている伝統文化等について理解を深める。コーディネーションのもと、日本の民話、日本の歴史と文化、日本の文芸、日本のわらべうた・童話、日本の住まい、伝統的な日本の物語、日本人の宗教観、日本のシャーマニズムとスピリチュアリティ、現代日本映画、などのテーマについて、15回の授業を通じて10~12名程度の講師を招いて解説を行う。学生は授業後にレポートを提出する。	
		現代日本社会B	現代日本社会の諸側面、諸制度、継承されている伝統文化等について理解を深める。コーディネーションのもと、日本の社会問題、現代に残る江戸文化、日本の作家、日本の童謡、日本の近代化と経済発展、日本の観光名所、浮世絵、日本のサブカルチャー、日本演劇にみられる異性配役、日本の家族、などのテーマについて、15回の授業を通じて10~12名程度の講師を招いて解説を行う。学生は授業後にレポートを提出する。	
		インディペンデント・スタディ	2学期間履修の留学生のうち希望する者は、日本社会、日本文化に関する特定のテーマを決め、そのテーマと関連する分野のアドバイザー(専任教員ボランティア)の指導のもとに、自主的に調査・研究を行い、日本語または英語による研究レポートを提出する。アドバイザーと定期的に面談し、アドバイスを受け、レポートを作成する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際情報学部国際情報学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	基幹 科目	<p>国際情報概論</p> <p>本授業では、「現代社会と女性」というテーマを設定する。そして、国際社会、地域研究、現代社会、国際ビジネス、女性リーダーシップ、広告ビジネス、情報デザイン、情報技術の9分野から複眼的、多角的に「現代社会と女性」というテーマに切り込み、諸問題にアプローチする。本授業の目的は、学生が現代社会の諸相に対する多角的視野を獲得するとともに、広範囲の分野に及ぶ分野への関心を高め、特定分野を深く学ぶ探求心を涵養することにある。</p> <p>(オムニバス/全15回)</p> <p>(10 岩崎公弥子/3回)</p> <p>人と物を結ぶ「広告」。効果的な広告を作成するには「ターゲット」となる人についての詳細な分析が必要である。近年のデータでは、全消費の8割に女性が関係していると言われている。そこで女性をターゲットとした広告のあり方、デザイン等について考える。</p> <p>(4 太田正登/3回)</p> <p>国際政治学の観点から「シンガポールの行方と女性」というテーマを扱う。ここでは、建国の父であるリー・クアンユーと、彼が結成した政党である人民行動党の政策を中心に検討し、異なる人種間の相克や結婚大論争に見られる女性の立場について言及する。</p> <p>(11 大橋陽/3回)</p> <p>アメリカ社会経済史の観点から「現代社会と女性」というテーマを扱う。具体的には、日米比較を行いながら、女性の社会参加と社会関係、フェミニズム、女性と経済、という切り口から問題接近をはかる。</p> <p>(16 時岡新/3回)</p> <p>社会学の観点から「現代社会と女性」というテーマを扱う。具体的には、女性のライフコースを構造化/差異化する社会的諸制度や文化について、また女性の「生」につよく関わる「家族」をめぐる諸問題について、国際比較もまじえながら紹介する。</p> <p>(10 岩崎公弥子、4 太田正登、11 大橋陽、16 時岡新/3回)</p> <p>3回の授業は4名の授業担当者が合同で行う。合同授業は、授業初回のイントロダクション、外部講師による講演会、授業最終回のまとめと振り返りである。</p>	オムニバス
	グローバルスタ ディーズ概論	<p>この授業は、グローバリゼーションの拡大・深化がもたらす多様なレベルの関係性を扱う「グローバルスタディーズ」を包括的に取り上げ、現代社会が直面する諸問題を理解する上で必要な知識と能力を涵養することを目的とする。講義では、政治学、経済学、社会学、地理学、法学、英語教育論などの各領域を概観するとともに、複眼的な視角から現代社会が抱える課題について分かりやすく解説する。これによって、学生が社会科学を中心とした各学問分野の素養を磨くと同時に、様々な社会現象を学際的視点から読み解く力を養うことを目指す。</p> <p>(オムニバス/全15回)</p> <p>(19 齊藤由香/7回)</p> <p>世界・日本の諸地域にみられる現代的な諸問題について、①グローバリゼーション、②地域間格差、③環境問題、④地域再編の4つのテーマを掲げ、これらをグローバル、ナショナル、ローカルといった異なる地域スケールからとらえ、比較・検討することで、各問題が生起する背景や現状について考察する。</p> <p>(12 工藤多恵/7回)</p> <p>多文化共生社会において、異なる文化をもつ人々たちのコミュニケーションが円滑にはかれるように、様々な事例を通じて、自国を含めた多様な文化に対する理解を深めることを目的とする。また、海外では日本がどのように理解されているのかを知り、その要因を探ることで、グローバルな視点を養うことを目指す。</p> <p>(12 工藤多恵・19 齊藤由香/1回)</p> <p>ディスカッションとまとめ</p>	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	基幹科目	メディアスタディーズ概論	コンピュータやソフトウェアの基本、コンピュータやネットワークで扱われているデジタルデータの基礎や原理を学ぶことで、その特徴を確実に捉える。さらに勉強や仕事、日常生活から社会的な応用まで、マルチメディアを取り囲む様々な環境から考え、実際の操作や作業を通じて総合的な理解を追究する。		
		WL I A	本授業は、大学での学習に不可欠な学習スキルを身につけ、学習意欲を向上させることにより、高校での学習から大学での学習への移行を円滑にするために設けられた少人数の演習である。具体的には、(1)「読む、書く、話す」という日本語運用能力を高めること、(2)さまざまな情報収集・調査の方法を体験し、他の授業での課題に対応できるようにすること、(3)思考法などのツールを紹介、体験することを主目的とする。これらの目的を達成する上で、国際情報概論と同様に「現代社会と女性」というトピック志向の教材を用意する。		
		WL I B	本授業は、大学での学習に不可欠な学習スキルを身につけ、学習意欲を向上させることにより、高校での学習から大学での学習への移行を円滑にするために設けられた少人数の演習である。具体的には、(1)「読む、書く、話す」という日本語運用能力を高めること、(2)さまざまな情報収集・調査の方法を体験し、他の授業での課題に対応できるようにすること、(3)思考法などのツールを紹介、体験することを主目的とする。これらの目的を達成する上で、グローバルスタディーズ、メディアスタディーズの重要なトピックに応じた教材を用意する。		
		K I T A	この授業は、K I T C (1)として行われる海外実地研修の事前準備を目的とした演習クラスである。具体的には、(1)自国を比較対象としながら、研修先の国々についての情報を収集し、理解を深めること、(2)その上で、研修先で体験したいことや調査したい内容を明らかにし、研修中に達成したい目標をたてること、(3)コミュニケーションツールに必要な英語を学習することを主な目的としている。また、滞在先での諸注意等についても確認し、スムーズに研修が実施できることを目指す。		
		K I T B	この授業は、K I T C (1)として行われる海外実地研修の事前準備を目的とした演習クラスである。具体的には、(1)自国を比較対象としながら、研修先の国々についての情報を収集し、理解を深めること、(2)その上で、研修先で体験したいことや調査したい内容を明らかにし、研修中に達成したい目標をたてること、(3)コミュニケーションツールに必要な英語を学習することを主な目的としている。また、滞在先での諸注意等についても確認し、スムーズに研修が実施できることを目指す。		
		K I T C (1)	本授業は休暇期間を利用した海外実地研修である。渡航先は学生によって異なるが、研修時期は、原則初年次で、研修期間は1週間から10日程度を予定している。研修先によって内容はやや違ってくるが、具体的な活動としては、ボランティア体験、関連企業の見学やインターンシップ、現地の人々との交流、ヒアリング調査などが挙げられる。「グローバルスタディーズ」「メディアスタディーズ」の分野に関連する実地体験を通し、新たな視点で自分と社会を見つめ、学生自身の幅広い可能性に気づいてもらうことを目指す。		
		K I T C (2)	本授業は休暇期間を利用した海外実地研修である。渡航先、研修時期、研修期間などは学生によって異なる。K I T C (1)の単位の取得が条件である。研修の種類には、(1) K I T C (1)プログラム、(2)個人申請プログラムの2つがある。個人申請プログラムの場合は、NPO等が主催する国際ボランティア活動や、海外インターンシップへの参加などがあり得る。国際交流を体験し、異文化理解を深めることをねらいとしている。		
専門教育科目	展開科目	国際社会	異文化体験ひろば	世界各国から来日している在住外国人をゲスト講師として招き、彼らの国の歴史や地理、文化、習慣などについて紹介してもらうと同時に、母国文化と日本文化とのちがいを、日本で生活する中での驚きや発見、苦労話など、彼ら自身の日本での「異文化体験」についても語ってもらうことで、日本とは異なる国や地域の文化に触れることを目的とする。受講者は単に聞き手として参加するのみでなく、講師の先生方に対して挨拶をしたり、質問を投げかけたり、話しかけたりと、積極的にコミュニケーションをとることが求められる。	
		国際社会	異文化間コミュニケーション	この授業では、「認知過程」「価値観」「対人関係」などの異文化間コミュニケーションの諸理論について、グループワークやケーススタディを通して理解を深めた上で、文化の異なる人々と友好的かつ建設的な関係を築くために必要な態度やコミュニケーション・スキルを学ぶことを目的とする。また、自文化について考察し、新しい自分を発見し、自文化を異文化と比較することにより、多文化共生社会のための異文化コミュニケーション能力の習得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
		国際社会と法	わたしたちの身の回りの生活に、法がどのように関わっているのか、とりわけ国境を超える法過程が日々いかに働いているか、日常生活から始め、世界経済、環境、人権など様々な分野における様々な関わり方を学ぶ。国際社会における私たちの生活と法との関わりを示す資料を共通テキストとして読み進める講読スタイルの授業である。毎回の予習を前提に、専門用語は重点的に解説しながら、資料の内容解説と法学上の関連事項を補足する。		
		国際関係学A	国家間の国際システムとグローバルな市場は、近代ヨーロッパにおいてほぼ同時に形成されてきたものである。そこで、まず国民国家システムとグローバル市場の特徴を理解し、この両者が近代ヨーロッパにおいてどのように形成され絡み合いながら、地球的規模にまで展開してきたのかを検討する。さらに、20世紀後半においてグローバリゼーションが復活してきたことに着目し、アメリカのヘゲモニー（パックス・アメリカナ）の諸相を検討する。		
		国際関係学B	20世紀とはどのような世紀であったかを考え、その特徴である、(1)世界戦争の世紀、(2)民族自決の世紀、(3)国際協調の世紀をそれぞれ検討する。つぎに、こうした20世紀の特徴は、第一次世界大戦を契機として現れてきたことを理解し、パックス・ブリタニカの衰退の過程を把握する。さらに、第二次世界大戦後の歴史を、「冷戦」体制の形成・展開・崩壊の過程においてとらえ、あわせて大英帝国からヨーロッパ統合に向かうイギリスを検討する。		
		国際理解教育	わが国における国際理解教育の歴史、現状、課題について概説するとともに、世界におけるグローバル化や南北問題（貧困、人口、識字、紛争、児童労働、ジェンダー等）、わが国の国際教育協力の現状、持続可能発展教育（ESD）等についても触れる。また、文科省の国際化に関する諸施策（留学生の受け入れ・送り出し、海外子女教育、帰国子女教育、小学校における外国語活動）についても紹介する。さらに、比較・国際教育学の観点から、世界の教育の類型、日本と世界の教育の比較、外国の教育についても併せて取り上げる。		
		民族と宗教	本講義では、ヨーロッパ、アフリカのほか、学習する機会がそれほど多くなく、必ずしも十分に理解されていない中東地域（諸国）の民族・宗教を取りあげる。それらがそれぞれの社会・文化とどのように結びつき、あるいは国際社会との間で何が問題になっているのかを明らかにする。受講生諸君には、できるだけ幅広い知識と理解が得られるようになってもらいた。その一助として、講義者が撮影した写真・スライドあるいはビデオを活用しながら進めていく。		
		国際人権法	現代の人権の国際的保障の意義と問題点について学ぶ。講義の大半は主要人権条約がどのように作られ、何を規定し、それがどのように実施されているか、各条約に関する解説が占めることになる。その際、特に日本国内の人権状況と各種条約との関係に留意し、国内裁判など具体的な事例を通して現状を理解することをめざす。あわせて、先住民族の権利など条約のない分野や国際社会における人権の相対性をめぐる諸問題など、応用的ではあるが国際人権法を学ぶうえで重要な論点についても、適宜触れる。		
		国際協力論	本講義では、発展途上国を対象とした国際協力に焦点を当て、国際協力とは何か、その歴史と枠組みの変遷、開発援助の手法や評価などを学修し、これをもとに地球規模で課題となっている貧困、人口、食糧、環境、災害などを取り上げて、それらの背景、現状、国際協力の状況などを考察する。なお、毎回授業テーマに関連した課題を出題し、次の授業で、課題の講評・補足説明を行い、理解を深める。		
専門教育科目	展開科目	国際社会	グローバルスタディーズ特論A	本授業は、グローバリゼーションの拡大・深化がもたらす多様なレベルの関係性を扱う「グローバルスタディーズ」において、現代社会が直面する諸問題とその解決策について考察する。「グローバルスタディーズ」のなかでも主要な課題について、既存のアプローチの射程と限界を明らかにするとともに、それらを扱うために必要な視角を養う。具体的なケーススタディの事例としては、国家を超えた安全保障、地域統合、後発開発途上国の開発援助・人間開発、地球環境、異宗教・文明の相互理解、国際人口移動などが挙げられる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
		グローバルスタディーズ特論B	本授業は、グローバリゼーションの拡大・深化がもたらす多様なレベルの関係性を扱う「グローバルスタディーズ」において、現代社会が直面する諸問題とその解決策について考察する。「グローバルスタディーズ」のなかでも主要な課題について、既存のアプローチの射程と限界を明らかにするとともに、それらを扱うために必要な視角を養う。具体的なケーススタディの事例としては、国家を超えた安全保障、地域統合、後発開発途上国の開発援助・人間開発、地球環境、異宗教・文明の相互理解、国際人口移動などが挙げられる。		
		グローバル社会と女性	本授業は、国民国家の枠を越えて広がりを見せる女性解放の運動や思想、さらには世界各国において女性がおかれている立場について、さまざまな例示しながら考察する。そのために、第三世界をめぐる国際協力や、植民地の歴史から起こる女性の問題について、また女性が活躍している場でもあり、新しい創生活動とも言えるフェアトレードや環境への配慮等にも触れていく。こうした流れがどのように現在の社会において位置づけられるのかについても検討する。		
		グローバル人口移動論	インバウンドツーリズム脚光を浴びている旅行や商用の出張といった短期の出入国だけでなく、国際的な人口移動の範囲と規模も広がりを見せている。本授業では、グローバルスタディーズの主要課題の一つであるグローバルな人口移動とそれがもたらす諸問題について考察する。ヨーロッパなどの移民政策、移民制限、社会統合、送金、移民の送り出し国と受入国への影響、難民認定といったトピックや各国の事例を学び、合わせて今後の日本の移民受け入れ政策についても課題を検討する。		
		グローバル都市論	都市社会を対象とした先駆的研究、シカゴ学派の都市社会学、新都市社会学、世界都市論などにも目配りした上で、本授業では、情報通信革命を含むグローバリゼーションと都市（グローバル都市）の関係、諸問題について考察する。ここでいうグローバル都市には、グローバル経済の指令機能を支援する専門サービスが集積し、一方で富裕層、他方で低賃金層という近接する社会と空間の二極化を生じさせる。こうしたグローバル都市の実態を学ぶとともに、グローバリゼーションに対して主体的に再編成を試みている他の都市の実践についても学ぶ。		
		Economy & Society on the Globe	対外・対内直接投資の常態化は、一方でコスト削減のための海外生産と新市場の発展をもたらす、他方で外資系企業の文化を日本にもたらすことになった。こうした経済領域の超国家的な広がりによって、ビジネスシーンにおける異文化コミュニケーションの必要性は増している。本授業では、英字新聞やジャーナルなどの輪読、討論、ロールプレイを通じ、英語のリーディング能力だけでなく、文化、社会を異にする人々との国際ビジネスコミュニケーション能力の向上をはかる。		
		地域研究	地域研究総論	地域研究の意義を比較社会の視点から総体的に確認し、具体的な事例としてヨーロッパとくにドイツを中心に、それぞれの地域の特性と共通性、社会問題を学び、日本との相違を含めグローバルな動きへの関心と理解を深める。ヨーロッパ社会の地域区分と共通の基本的特徴、第二次世界大戦以後の歴史的展開、ドイツ社会の現状と諸問題、さらに現代的課題となっているヨーロッパ統合について欧州連合（EU）の成立過程と制度および機能、地域社会の再編成と移民問題など既存の国家の枠組みを越える問題を検討する。	
地誌	地誌とは、地域を構成するさまざまな事象を体系的にとらえることで、地域の姿にアプローチする学問である。この授業では、ヨーロッパを題材に自然環境、人種・民族、人口、政治、産業などについて総合的に学ぶことで、その土地と人々にみられる地理的多様性について理解することを目的とする。ここでは、国別・地域別の地誌を解説するのではなく、系統的（テーマ別）にヨーロッパ全体の地理的特徴を把握するという手法をとることで、ヨーロッパの国や地域の間にもみられる共通性・差異性、ならびにそれらが生起する背景について考察する。				
専門教育科目	展開科目	地域研究	人文地理学	この授業では、人口地理学、都市地理学、経済地理学における古典的視角から、社会地理学、文化地理学、応用地理学などにみられる新しい議論まで、多彩な研究分野を取り上げることで、人文地理学における主要な概念や方法論を学ぶことを目的とする。その際に、できるだけ世界や日本の具体的地域の事例と照らし合わせながら考えることで、地域を分析する際に、地域の何に注目し、どのようにアプローチすべきなのかという、地理学的なものの方・考え方を養うことを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
		経済地理学	グローバル化の進展によって空間の均質化が進む一方で、これに対抗すべくローカル性を重視した生産・消費のあり方が重要な意味を持つようになってきている。この授業では、自然条件や歴史・文化といった地域とのかかわりの深い「食」を題材として、その生産と消費がグローバル化の流れの中でどのような変化を遂げたのかを学ぶ。とくに、グローバル化への対抗戦略として地域ブランドの問題に焦点を当て、地域ブランドがいかにか形成され、活用されているのかを、日本と海外（主にヨーロッパ）の事例に即して考えていく。		
		現代日本と欧米	欧米列強に迫られて開国して以来、日本は、それらの国をモデルにして「近代化」の道を歩んできた。その過程においてはまた、近代日本と欧米の間に政治的、軍事的、経済的対立が生じたのも事実である。本授業では、そうした歴史過程を踏まえたうえで、地球大の統合の推進力であるアメリカ、グローバル化とヨーロッパ統合というせめぎ合いのなかで新たな社会モデル及び国民国家を形成しつつあるヨーロッパ諸国、これらと日本の関係を考察する。		
		現代日本とアジア	一口にアジアと言っても地理的領域は広大であり、アジアの各地域・各国の基層にある社会組織や文化も異なる。本授業では、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの開発・発展プロセスの特徴を踏まえて、とりわけ東南アジアの権威主義的開発国家が、冷戦体制下において国民国家及び国民経済をいかにして形成してきたかと、それに付随した社会のひずみについて学ぶ。そして、日本を含む地域統合の展望と課題を社会・文化の側面を踏まえて考察していく。		
		日本社会論	幕末・明治期に日本人は初めて西欧の存在を知り、それといかに向き合うか選択を迫られた。日本はアジア諸国と手を結び西欧に対抗することを断念し（興亜論）、西欧をモデルとした近代化を進めた（脱亜論）。近代化の成功は皮肉にも後発帝国主義国としてアジアを侵略するという結果になり、敗戦を迎えた。第二次大戦後、日本はアメリカをモデルとして大きな成功を収めた一方、その自画像はアメリカというフィルターを通じて描かれることとなった。そこで本授業では、他者の視線から改めて日本と日本人のアイデンティティについて考える。		
		中国社会論	本授業では、中国の全体像および地域文化のディテールに触れ、それらを通じて中国の社会制度や人々の持つ価値観について考える。具体的には、「中華」「華僑」「華人」「戸籍」といった中国社会の基礎概念や、それぞれ30年余りの社会主義建設と改革開放の歴史を学ぶ。そして、中華人民共和国はもちろん、台湾・香港を加えた「兩岸三地」、さらには日本をはじめ世界各地の華僑・華人社会をも視野に入れ、中華社会の諸相について幅広く理解する。		
		韓国社会論	本授業では、近現代における資本主義への移行過程のなかで急激な変化を遂げた韓国社会を対象とする。なかでも伝統社会の解体、戦前の植民地経験、その後の南北分断や朝鮮戦争などが、今日の韓国社会の構造に及ぼした影響や相互作用を検討していく。さらに韓国の歴史が、他地域とくに東アジアの地域の歴史といかにか関連しあいながら展開してきたについて考察する。それからグローバル時代の変動に対応してきた韓国政府の政策を、外国人受け入れ政策と世界各国とのFTA交渉を通して分析していく。		
		アメリカ社会論	本授業では、建国以来のアメリカ史を振り返りながら、現代アメリカの社会的特質を顕著に示す諸問題を取り上げる。そして、アメリカの全体像及び地域文化を踏まえた上で、アメリカの社会制度や人々がもつ価値観について理解を深める。具体的には、独立革命、現代アメリカ政治思想、連邦制、銃規制、人工妊娠中絶、医療などの貧弱な社会保障、大量生産・大量消費、黒人問題、移民、多文化主義など多様なトピックを扱い、それらを理解する枠組みをもてるようにする。		
専門教育科目	展開科目	地域研究	アジアの社会と文化	一口にアジアと言っても地理的領域は広大であり、アジアの各地域・各国の基層にある社会組織や文化も異なる。本授業では、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの開発・発展プロセスの特徴を理解する。そして、たとえば東南アジアの権威主義的開発国家を取り上げて、それらが冷戦体制下において国民国家及び国民経済をいかにして形成してきたかと、それに付随した社会のひずみについて学ぶ。そして、日本を含む地域統合の展望と課題を社会・文化の側面を踏まえて考察していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
現代社会		ヨーロッパの社会思想	ヨーロッパの社会思想の展開を題材にして、近現代の思想家が直面する問題にいかに取り組んだのかを跡づけることにより、今日の諸課題にわれわれがどう対処したらいいのかを考える。イギリスとドイツの思想を中心に取上げて、時代を追って対比的に論じ、豊かさと経済格差、社会政策と福祉、経済発展と環境問題など生活に密接に関わる具体的問題を軸に検討を進める。自由競争と市民社会の原理、保護主義と福祉の思想、経済発展にともなう問題等の考察を通じて、われわれが安心して暮らせる社会制度について考える。		
		観光文化論	本授業は、世界遺産などを主として海外の観光地事情、観光事業、観光政策など事例研究を通じ、観光を文化的にアプローチするものである。すなわち、(1) 一定の地域における場所や人々の暮らしがなぜ観光の対象となるのか、(2) 人々が観光という行為を通じて「非日常」「異日常」を経験する意味はなるのかなどを学ぶ。合わせて海外旅行業務に関する出入国の関連法令および実務などの知識を学ぶことを通じて現実の観光との関連を強く意識させる。		
		Economy & Society in Japan	本講義では、英語で書かれた日本に関する記事などを読み、外国人が日本のどのような文化や社会の側面に興味があるのかを学び、異文化背景を持つ人々に日本について発信することの意義を考える。授業ごとにテーマに沿った記事や文献を利用し、発表者は英文記事を日本語に要約したものを参加者に発表し、筆者の伝えたいことや日本の社会や文化のどこに関心があるのかについて話し合う。また、外国人に魅力ある日本の文化とは何かについて考え、英語で日本を紹介することの意義は何かについて考察する。		
	現代社会	社会学基礎論	社会とは、自己と他者の無数の「関係」から構成される共生のシステムである。それらを徹視的、巨視的に理解するための社会学の理論と方法について、入門的に総説する。授業形態は講義である。概念の理解と社会分析の試行を学習の目標とし、「1. 行為と共同性」「2. 時間・空間・近代」「3. 差異と構造化」の各テーマに沿って講義の上、簡単な課題演習をおこなう。また一年次前期開設の科目として、社会科学的な思考態度の醸成を副次的な学習目標とする。		
		現代社会論	現代と概括しうる 20 世紀(狭義には中葉)以降の世界社会、日本社会は、表層的には異質ともみえる諸現象の重層的共在を特徴とする。たとえば南北問題と略称される地球規模での富裕と貧困の共在、先進国内および途上国内でそれぞれ確認される地域内的な経済格差、公害問題と総称される集中的な成長とそこから外部化された自然環境の徹底的な破壊、など。これら現代社会の時代的特質をとらえたさまざまな議論を要約的に紹介する。授業形態は講義である。受講者に多様な社会理論の存在を知らせ、今後の学習の手がかりを与えることを授業の目標とする。		
		政治学(平和と暴力)	冷戦後の世界では平和が訪れると予想されたのに、世界各地で民族紛争、地域紛争、宗教紛争などが多発している。それゆえここでは、まず、(1) 国民(民族)国家、ナショナリズム、帝国主義、国際主義、非政府組織(NGO)、グローバリズムなどといった、現代世界の政治状況を理解する上で必要な概念を解説し、次に、(2) 国際社会の政治構造に暴力がどのように組み込まれているのかを検討する。具体的には、第二次世界大戦後のアメリカが唯一の覇権国となっていく過程と、それに対抗する勢力を分析することによって検討していく。		
		法律学	現代社会においては、社会生活のあらゆる場面に法律が密接に関係している。この講義では、現代社会において法律の果たしている役割を把握するための理論的基礎を学んだうえで、民法・刑法などの実体法や民事訴訟・刑事訴訟といった裁判手続など、社会生活において基本となる法律に関する知識を身につけることをめざす。また、情報法や消費者法など、応用的ではあるが現代社会生活において重要視されている法分野についても、適宜触れる。		
専門教育科目	展開科目	現代社会	日本史	本授業では、原始・古代から近現代にいたる日本の歴史を概観する。その際、日本史全体の流れと特色を理解することを目標とし、各時代における重要な歴史的イベント・事象を中心に解説を加えてゆく。教職科目という特性上、高校で日本史を選択しなかった学生も日本史の基礎知識を一通り習得できるような内容とし、教壇に立ったときに役立つような授業とするため資料にもできるだけ触れたい。また、近年の研究成果も織り込み、いくつかのトピックについては通説について批判的検討を加え日本史の事実発見と解釈を経験できるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		外国史	本授業では、原始・古代から近現代にいたる外国の歴史を概観する。その際、広範な世界史全体の流れと特色を理解することを目標とし、各時代における重要な歴史的イベント・事象を中心に解説を加えてゆく。教職科目という特性上、高校で世界史を選択しなかった学生も外国史の基礎知識を一通り習得できるような内容とし、教壇に立ったときに役立つような授業とするため資料にもできるだけ触れたい。また、近年の研究成果も織り込み、いくつかのトピックについては通説について批判的検討を加え外国史の事実発見と解釈を経験できるようにする。	
		アジア現代史	アジア現代史は、欧米諸国の植民地支配からの脱却・独立のプロセスであったといえる。また、第二次世界大戦に至る過程で日本の植民地下に置かれた地域も少なくなくない。本授業では、アジアの多様な地域において、共生を目指した人々、あるいは、支配に抵抗した人々の成果と課題を、激動の歴史過程を通じて考察する。また、アジアの多様な地域とその結びつきを検討することで、歴史的認識を深め、これからの進路について展望する。	
		ヨーロッパ現代史	現代のヨーロッパは、EUを中心として統合が進む一方で、旧ユーゴスラヴィアに見られるように、民族/エスニック紛争や地域紛争が依然として生じていた。そこでこの講義では、(1) ヨーロッパ統合の歴史を、イギリスの外交政策を中心に大陸諸国との相違点を分析し、(2) 統合の現段階を、経済通貨同盟(ユーロの発行)や共通外交安全保障政策の展開などを概観し、合わせて、(3) 世界の中でのヨーロッパの役割を検討する。	
		自然環境論	この授業では、我々の日常生活と密接な関わりをもつ、地球環境と自然災害の問題について、自然地理学的な視点からアプローチすることを目的とする。まずは、地球の自然環境とそのとらえ方を概観した後、自然地理学を構成する地形学、気候学、水文学、生物地理学などの主要テーマについて、各々を理解する上で重要な基礎的概念や枠組みについて学ぶ。さらに、自然災害と地球規模の環境問題を取り上げることで、自然と人間・社会との相互関係という視点から自然環境をとらえ直すことを目指す。	
		心理学概説	心理学の研究領域は非常に幅広いが、本講義では特に「人と人とのかかわり」を中心テーマとして、数々の重要な実験や調査を紹介する。人間関係はどのように成立するのか、いじめや偏見はなぜ生じるのか、オカルトを信じてしまうのはなぜか、性格と人間関係にはどのような関係があるのか、カウンセリングや心理療法とは何かなど、身近な疑問に答える形で講義を進めていく。他者とのコミュニケーションのあり方は、相手の印象やその人との関係性によって決定される。この授業では、対人コミュニケーション過程でみられる現象について、社会心理学的な立場から概観し、理解することを目的とする。	
		マイノリティ論	在日コリアンはなぜ日本に暮らしているか。どのような法制度を適用されているか。社会環境はどうか。文学を通して在日コリアンを学ぶ。差別の意識と構造を考える。差別を克服するにはどうすればよいか。戦後責任と補償とは何か。日本人の歴史認識と意識態様を考える一などについて学び、マジョリティ(多数者)とマイノリティ(少数者)が共に生きる、思想と方法を探る。共生社会への道を考えるキーワードとして、(異質なものの尊重)、(他者意識)の形成、アイデンティティ(自己正体性)の確立などを考える	
		社会調査入門	社会調査士資格取得のための標準カリキュラム((社)社会調査協会認定)「A 社会調査の基本的事項に関する科目」に準拠し、授業形態は講義とする。社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説し、社会調査史、調査方法論、調査の倫理、調査の種類・実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、調査票調査とフィールドワーク、資料やデータの収集から分析までの諸過程などの理解をめざす。	
専門教育科目	展開科目	現代社会	社会調査士資格取得のための標準カリキュラム((社)社会調査協会認定)「B 調査設計と実施方法に関する科目」に準拠し、授業形態は講義とする。社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説し、調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理などの理解をめざす。	
		社会調査の実際	社会調査士資格取得のための標準カリキュラム((社)社会調査協会認定)「C 基本的な資料とデータの分析に関する科目」に準拠し、授業形態は講義とする。官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識に関して解説し、記述統計データの読み方、グラフの読み方と計算・作成の方法、質的データの読み方と基本的まとめ方、基礎的統計概念などの理解をめざす。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目		社会調査統計	社会調査士資格取得のための標準カリキュラム（(社)社会調査協会認定）「D 社会調査に必要な統計学に関する科目」に準拠し、授業形態は講義（PCルームを使用）とする。統計的データをまとめ、分析するために必要となる基礎的な統計学的知識を解説し、パソコンを使って実習する。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用、抽出法の理論、属性相関係数、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などの理解をめざす。	
		質的調査論	社会調査士資格取得のための標準カリキュラム（(社)社会調査協会認定）「F 質的な分析の方法に関する科目」に準拠し、授業形態は講義（個別の方法を知るための簡単な演習や実習の展開をふくむ）とする。さまざまな質的データの収集や分析方法について解説し、必要に応じて体験的に学習する。聞き取り調査、参与観察法、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析などの理解をめざす。なお社会調査士資格取得は社会調査協会の認定するE科目（量的データ解析の方法に関する科目）またはF科目いずれかの履修を要件とし、本学科ではF科目のみを開設する。	
		社会調査実習	社会調査士資格取得のための標準カリキュラム（(社)社会調査協会認定）「G 社会調査の実習を中心とする科目」に準拠し、授業形態は実験・実習とする。調査の企画から報告書の作成にいたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習する。量的データの統計的分析、質的データの分析のいずれかを主とするが、時々の受講者の関心にもとづくテーマ設定によってその比率は変わる。調査の企画、仮説構成、質問文・調査票の作成、調査の実施（調査票の配布・回収、面接）、フィールドワーク、集計、分析、仮説検証、報告書の作成などをグループワークによって行う。	
	国際ビジネス	経済のグローバル化（経済学）	経済活動の領域は一国内にしばられることなく、国境を超えて地球規模で統合されている。本授業では、過去四半世紀に加速化し常態化した経済のグローバル化を、ヒト、モノ、カネ、カイシャの4つの側面から講述する。授業の目的は、ただ経済事情を知るだけではない。国際貿易論における比較生産費説及びヘクシャー＝オリーン・モデル、国際金融論における貯蓄・投資バランス式などを学び、さらには経済学の基礎概念をツールとして用いることによって、経済のグローバル化を正しく見通す力をつけることを目的とする。	
		アジア経済論	第二次世界大戦後相次いで独立したアジア諸国の経済について、主要国の経済発展の歴史を概観し、その発展過程の共通性と特殊性を明らかにする。また、域内各国の経済関係について、東西冷戦時代の体制選択や、冷戦後の市場経済の展開過程を、援助、貿易、投資の諸側面から考察する。日本、N I E S、A S E A N、中国、インドなどアジア各国および地域の発展の継起と、そのような躍進を可能にした、E U、北米など、域外主要地域との経済関係の変化も検討する。	
		中国経済論	1978年から始まった計画経済から市場経済への転換は、急速な経済成長をもたらしただけではない。それは、中国全体の経済構造と経済制度、職業構成、教育水準、生活様式に至るまで広範囲に及ぶ根底的な変化をもたらした。本授業では、改革開放政策により目覚ましい成長を遂げた中国経済の軌跡とその要因について、経済制度の変遷を踏まえながら検討する。そして、戸籍制度、都市と農村、格差、労働力移動など、中国経済の特質について理解できるようにする。	
	国際ビジネス	アメリカ経済論	第二次世界大戦期から、アメリカ経済は一貫して世界をリードし、アメリカ型経済システムは、軋轢を生みつつも世界に波及している。本授業は、1970年代以降とりわけ顕著となった、工業中心の経済からサービス中心の「ニューエコノミー」への経済構造の転換を踏まえつつ、その転換によってもたらされた諸問題について明らかにする。なかでも中間層の崩壊、所得格差、社会保障、財政赤字など日本と比較しながらその特質について理解できるようにする。	
		国際ビジネス事情	本授業では、実際に広い意味で国際ビジネスに従事している人々をゲストスピーカーとして招き、外向きの国際化（海外旅行、先端技術、輸出や企業の海外進出）と内向きの国際化（観光客の受入、輸入、外国企業の誘致）などについて、実体験を学ぶ。また、多様なゲストスピーカーの講話の見取り図を示すために、国際分業、通商政策、海外援助といったマクロ面での講義を行う。これらを通じて、日本経済と国際経済の相互依存関係の広がりや深まりを理解できるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	展開 科目	国際経済学A	本授業は、ヒト、モノ、カネの流れに注目した国際経済学の基本を学ぶとともに、援助、技術移転、直接投資、多国籍企業といったトピックについても取り扱う。主として国際経済学のなかでも財やサービスの実物取引を扱う国際貿易理論に重点を置く。ミクロ経済学の一般均衡分析について学習した上で、貿易がなぜ起こるのか、その利益は何かということに理論的裏付けを与える。また、余剰分析を応用して、貿易政策がもたらす効果を分析し、望ましい政策について判断できるようにする。	
		国際経済学B	本授業は、ヒト、モノ、カネの流れに注目した国際経済学の基本を学ぶとともに、援助、技術移転、直接投資、多国籍企業といったトピックについても取り扱う。主として国際経済学のなかでも資本取引を含む対外マクロ経済を扱う国際金融論に重点を置く。まず、国際金融論において前提となる国際収支表の読み方、為替レート及び為替制度、貯蓄・投資バランスについて学習する。その上で、中央銀行による金融政策の効果や、為替介入や為替制度についての政策の影響について判断できるようにする。	
		開発経済学	開発途上国の経済発展について、次の8つの側面を理論的・実証的に検討する。 1. 人口と開発：マルサスの罠からの脱却と、人口転換および少子高齢化 2. 農業の発展：「緑の革命」の成果と問題点 3. 工業化：工業化の開始と工業化政策 4. 貿易と海外直接投資：アジアにおける重層的展開過程 5. 社会主義経済から市場経済へ：中国の体制転換 6. 政府開発援助：日本型援助とアジアの開発 7. グローバリゼーションのなかのアジア：経済危機の克服 8. アジア経済の新動態：アジア化するアジア	
		環境ビジネス論	環境＝持続可能性、ビジネス＝社会サービス（社会づくり）ととらえ、人類が直面してしまった「持続不可能性」という大きな壁に対し、企業、行政、NPO という組織による社会の課題解決策を探る。また、NPO、行政、企業それぞれの第一線で活躍している者が現場の体験を元にオムニバス形式で授業を行なう。そして社会（地域づくり）、組織（働き方）、個人（暮らし）の各各側面に分けて環境に対する当事者意識の形成を目指す。 （オムニバス方式／全15回） （195 萩原嘉之／8回） NPOという組織の立場から、環境問題の取り組みを探る。とくにフィールドワークを通じたグリーンマップ作成を行う。 （217 村田元夫／2回） 企業という組織の立場から、新たな動きであるコミュニティビジネスや、企業の社会的責任について論じる。 （230 米倉彰一／2回） 行政という組織の立場から、「環境首都なごや」を目指す取り組み、「なごや環境大学」について論じる。 （195 萩原嘉之・217 村田元夫・230 米倉彰一／3回） 3名が一堂に会し、ディスカッションをしたり、ワークショップ形式で学生との対話を促進する機会を設ける。	オムニバス
		ソーシャルビジネス論A	ソーシャルビジネスとは、町おこし・村おこし、少子高齢化、環境・貧困問題といった社会的課題をビジネスとして事業性を確保しながら自ら解決しようとする活動のことである。本講義では、ソーシャルビジネスについての理論とケースを学ぶことで、ソーシャルビジネスのあり方についての理解を深める。特に、ソーシャルビジネスの類型、ソーシャルビジネスが求められる社会的背景、ソーシャルビジネス特有のマネジメント上の課題などについて学ぶ。	
		Business English A	この授業では、旅行・観光業また国際取引や貿易に必要なビジネス英語を中心とした総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目的とし、異文化間でのビジネスに必要なマナーを理解し、適切な英語を身につけることを目的とする。具体的な内容としては、訪日外国人の観光ガイドや、ビジネスに必要な電話での会話表現やメールの書き方、英文履歴書やカバーレター、問い合わせなどのビジネス文書の書き方などの実践的な内容を主に4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の習得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目		Business English B	この授業では、旅行・観光業また国際取引や貿易に必要なビジネス英語を中心とした総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目的とし、異文化間でのビジネスに必要なマナーを理解し、適切な英語を身につけることを目的とする。具体的な内容としては、訪日外国人の観光ガイドや、ビジネスに必要な電話での会話表現やメールの書き方、英文履歴書やカバーレター、問い合わせなどのビジネス文書の書き方などの実践的な内容を主に4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の習得を目指す。	
		Business English C	この授業では、旅行・観光業また国際取引や貿易に必要なビジネス英語を中心とした総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目的とし、異文化間でのビジネスに必要なマナーを理解し、適切な英語を身につけることを目的とする。具体的な内容としては、訪日外国人の観光ガイドや、ビジネスに必要な電話での会話表現やメールの書き方、英文履歴書やカバーレター、問い合わせなどのビジネス文書の書き方などの実践的な内容を主に4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の習得を目指す。	
		Business English D	この授業では、旅行・観光業また国際取引や貿易に必要なビジネス英語を中心とした総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目的とし、異文化間でのビジネスに必要なマナーを理解し、適切な英語を身につけることを目的とする。具体的な内容としては、訪日外国人の観光ガイドや、ビジネスに必要な電話での会話表現やメールの書き方、英文履歴書やカバーレター、問い合わせなどのビジネス文書の書き方などの実践的な内容を主に4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の習得を目指す。	
	女性リーダーシップ	WL I C	女性リーダーシップ育成のための総合的、実践的プログラムを段階的に構成し、論理的思考力の向上、自発的で協働的な討議態度の醸成などをめざす。本授業はWL I AおよびBで獲得された汎用的な「学ぶ力」を前提とし、個別に学んだ専門知識を「活かす力」の開発の場と位置づけられる。授業形態は少人数の演習である。プログラムの全体を通して、大学卒業後の実務場面において自律的、説得的、貢献的に活躍できる人材の育成を目標とする。WL I Cではとくに、情報を論理的に読み解き摂取するためのトレーニングを重ねる。	
		WL I D	女性リーダーシップ育成のための総合的、実践的プログラムを段階的に構成し、論理的思考力の向上、自発的で協働的な討議態度の醸成などをめざす。本授業はWL I AおよびBで獲得された汎用的な「学ぶ力」を前提とし、個別に学んだ専門知識を「活かす力」の開発の場と位置づけられる。授業形態は少人数の演習である。プログラムの全体を通して、大学卒業後の実務場面において自律的、説得的、貢献的に活躍できる人材の育成を目標とする。WL I Dではとくに、自らの思考を論理的に整理し表現するためのトレーニングを重ねる。	
		WL I E	女性リーダーシップ育成のための総合的、実践的プログラムを段階的に構成し、論理的思考力の向上、自発的で協働的な討議態度の醸成などをめざす。本授業はWL I AおよびBで獲得された汎用的な「学ぶ力」を前提とし、個別に学んだ専門知識を「活かす力」の開発の場と位置づけられる。授業形態は少人数の演習である。プログラムの全体を通して、大学卒業後の実務場面において自律的、説得的、貢献的に活躍できる人材の育成を目標とする。WL I Eではとくに、グループ・ディスカッションを展開するための基礎的トレーニングを重ねる。	
	展開科目	WL I F	女性リーダーシップ育成のための総合的、実践的プログラムを段階的に構成し、論理的思考力の向上、自発的で協働的な討議態度の醸成などをめざす。本授業はWL I AおよびBで獲得された汎用的な「学ぶ力」を前提とし、個別に学んだ専門知識を「活かす力」の開発の場と位置づけられる。授業形態は少人数の演習である。プログラムの全体を通して、大学卒業後の実務場面において自律的、説得的、貢献的に活躍できる人材の育成を目標とする。WL I Fではとくに、ケース・メソッドを用いた発展的なトレーニングを重ねる。	
		Integrated Skills A	この授業では、英語の4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を総合的にバランスよく伸ばすことを目的とする。社会問題から娯楽などの身近な問題をリーディング・リスニングの題材とし、自分の意見を発信することで、ライティング・スピーキング能力の向上をはかる。ビジネスシーンを想定し、様々な状況に応じた適切な英語の習得を目指す。また、マルチメディアを活用した英語学習を促し、自律的に学習するためのストラテジーを身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	Integrated Skills B	この授業では、英語の4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を総合的にバランスよく伸ばすことを目的とする。社会問題から娯楽などの身近な問題をリーディング・リスニングの題材とし、自分の意見を発信することで、ライティング・スピーキング能力の向上をはかる。ビジネスシーンを想定し、様々な状況に応じた適切な英語の習得を目指す。また、マルチメディアを活用した英語学習を促し、自律的に学習するためのストラテジーを身につける。		
	Integrated Skills C	この授業では、英語の4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を総合的にバランスよく伸ばすことを目的とする。社会問題から娯楽などの身近な問題をリーディング・リスニングの題材とし、自分の意見を発信することで、ライティング・スピーキング能力の向上をはかる。ビジネスシーンを想定し、様々な状況に応じた適切な英語の習得を目指す。また、マルチメディアを活用した英語学習を促し、自律的に学習するためのストラテジーを身につける。		
	Integrated Skills D	この授業では、英語の4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を総合的にバランスよく伸ばすことを目的とする。社会問題から娯楽などの身近な問題をリーディング・リスニングの題材とし、自分の意見を発信することで、ライティング・スピーキング能力の向上をはかる。ビジネスシーンを想定し、様々な状況に応じた適切な英語の習得を目指す。また、マルチメディアを活用した英語学習を促し、自律的に学習するためのストラテジーを身につける。		
	Integrated Skills E	この授業では、英語の4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を総合的にバランスよく伸ばすことを目的とする。社会問題から娯楽などの身近な問題をリーディング・リスニングの題材とし、自分の意見を発信することで、ライティング・スピーキング能力の向上をはかる。ビジネスシーンを想定し、様々な状況に応じた適切な英語の習得を目指す。また、マルチメディアを活用した英語学習を促し、自律的に学習するためのストラテジーを身につける。		
	Integrated Skills F	この授業では、英語の4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を総合的にバランスよく伸ばすことを目的とする。社会問題から娯楽などの身近な問題をリーディング・リスニングの題材とし、自分の意見を発信することで、ライティング・スピーキング能力の向上をはかる。ビジネスシーンを想定し、様々な状況に応じた適切な英語の習得を目指す。また、マルチメディアを活用した英語学習を促し、自律的に学習するためのストラテジーを身につける。		
専門教育科目	展開科目 広告ビジネス	経営学総論	現代社会において企業活動というものは欠かせない存在になっている。これまで企業は、自ら目的をたて、その目的を効果的に実現するために、数多くの試行錯誤的な行動を繰り返してきた。こうした企業活動の経験を、一定の体系に沿ってまとめあげた学問が「経営学」となっている。本講義は、その体系の内容を簡単に紹介し、経営学という学問の全体像を知ってもらうということを目的とする。また、本講義は、テキストに沿って授業を進め、毎回、テキストの内容を問うミニテストをおこなう。	
		起業論	「起業」とは、会社などに雇われることなく自分で仕事を起こすことであり、自らがビジネスを立ち上げ、経済活動を行うことである。また、起業一般の基礎となるビジネスプランの作成手法についても学ぶ。具体的には、以下のことを学ぶ。①各種起業に関する資料の紹介、②起業のメリット・デメリット、③起業の仕方、④各種ビジネスモデルの紹介、⑤事業計画書の作成方法、⑥事業アイデアの発案、発表。	
		インターネットビジネス論	インターネットの普及は、ビジネスのあり方に大きな変革を与えつつある。本科目では、①インターネット市場の可能性、②インターネットビジネスの種類、③上手な利用の仕方、④IT関連の会社紹介、⑤関連法規などを中心に、近年のインターネットビジネスのあり方、を学ぶ。	
		簿記・会計（1）	簿記の初歩を学習する。企業の経営活動の中でおこなわれる複式簿記の基本的な考え方には、日常の生活に役に立つことも多く含まれている。本講義では、複式簿記の基本的な内容を学ぶとともに、企業の経営活動における会計の考え方にも触れてもらう。また、日商簿記検定を受検する人向けに、一番つまづきやすいところを重点的に解説する。	
		簿記・会計（2）	簿記の初歩は理解しているという前提で、具体的な個々の取引について、記帳の仕方を学習する。また、簿記の内容を学ぶことを通じて、企業の経営活動における会計の考え方についての理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	経営管理論	本科目では、経営管理論の変遷とその各々の理論の内容および意義・位置づけを解説する。また、これらの理論を生み出した当時の経営環境だけでなく、現代の経営管理の現実にいかなる影響を及ぼし、またいかなる理論を生み出しつつあるかといった展望を解説し、経営管理論についての理解を深めるだけでなく、現実への応用についても考える。		
	マーケティング論	今日のビジネス活動を考える上で、マーケティングは欠くことの出来ないものとなっている。マーケティングとは何か。生産や販売とどのように異なるのか。どのような課題を担っているのか。本科目では、こういった疑問に答えることで、マーケティングの本質について解説する。特に、マーケティング・ミックスの考え方を紹介し、マーケティングの基本である4Pについて学ぶ。		
	市場調査論	現代の企業活動において、市場調査（マーケティングリサーチ）の役割は格段に必要性が増している。企業はその市場データをどのように収集、分析し、企業活動に生かしているのかを具体的に学ぶ。それと同時に自ら市場を分析し（診断）、どのような対策（治療方法）を講じていけば企業の業績が向上するのか、具体的に学ぶ。		
	広告論	広告および広告ビジネスについての基礎知識について学ぶと同時に、現代広告についてのより実践的なスキルの習得を目指す。ケーススタディ、映像等を用い、より分かりやすく具体的な理論と実務を概括する。授業は講義形式のとどまらず、対話型、討論型も取り入れる。発言などパーティシペーションも重視、課題を考える、プレゼンテーションの実施など参加型、行動的な内容である。広告についての授業であるが、もっと広くマスコミや編集、企画系を考えている人にとってもスキルアップにつながる授業をめざす。		
	流通論	流通とは、生産と消費を橋渡しするための多様な経済的・社会的な活動であるといえる。社会における流通の役割は重要だと考えられ、本講義では、そうした流通の概念と機能について学ぶことを第一の目的とする。本講義は、テキストに沿って授業をおこなう。		
	消費者行動論	消費者心理学をもとにした消費者行動論を学び、これに立脚したマーケティング戦略やソリューションの立案を考える。事例やケーススタディを取り入れ、分かりやすく実践的な授業を目指す。この「消費者に対する洞察力」の知識と方法論で具体的な課題解決を考えていくことを習得し、プレゼンテーションを行うことでより実践的なスキルを身につける。マーケティングプランナー、コンサルタント、企画部員を目指す学生に必要な内容である。		
専門教育科目	展開科目	広告コピー制作	広告は企業、商品、サービスと生活者をつなぐ現代における主要なコミュニケーションの一つである。そのための広告表現には科学的、理論的な側面と、人の心に届く芸術性、創造性も必要とされる。この授業は広告表現、コピーライティングを中心に、事例紹介、映像資料等を使いながら基本的な知識の習得と、広告のアイデアや発想法、表現手法について学び、具体的な制作実習を行う。広告だけでなく多面的なアイデア、発想、創造性を伸ばしたい学生にも必要な内容である。	
		CM制作	現代の広告計画立案を実践的に学ぶ。消費者理解と分析、マーケティングの基礎、企画力、クリエイティブなど具体的に課題解決する能力を身につける内容になっている。事例分析も多く入れながら、知識の学習のみならず、自分自身で考え、創造していくスキルの獲得を図る。広告界だけでなく、企業のマーケティング職、営業職、総合職などを目指す学生に必要な内容である。広告についての授業であるが、もっと広くマスコミや編集、企画系を考えている学生にとってもスキルアップにつながる。	
	マスコミ	マスコミュニケーション論	マスコミュニケーションについての理論体系など基本的な知識の習得と、マスコミ産業についての理解を深める。また知識の領域にとどまらず、コミュニケーションを発信していく表現力、マスコミを読み込む力（メディアリテラシー）、などより実践的なスキル獲得も図る。そのために講義形式にとどまらず、課題についてのディスカッションや発表なども随時授業に取り入れていく。マスコミを通じてコミュニケーションを発信すること、マスコミ界を目指す学生、マスコミに興味がある学生に向けた内容である。	
		メディア論	コミュニケーション・メディア・インフォメーションの違いから次第にメディア論の中心的概念を説明していく。文字の出現が人類に与えたインパクト、活字というメディアが近代文明に及ぼした影響、とりわけコンピュータが出現して以来のメディアの変化を多面的な角度から解説する。テレビとかインターネットというメディアについて、その役割を本質から読み解くことは、内容的に難しいが、理解できたときの面白さは格別のものがあると感じている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	活字メディア論	「メディア」とは、コミュニケーションの過程で送り手と受け手を結び、情報を載せて運ぶ媒体や方法を指す。「リテラシー」とは、識字能力、読み・書く力である。授業前半は、多様なメディアの歴史や特性を学び、具体的事例を比較検討しながら「受信能力」を高める。後半は、情報誌制作を通して、情報収集・企画立案・制作などを体験しながら「発信能力」を養う。いずれも、学生一人一人が自ら考える・やってみる・発見する・・・といった、体験型・参加型のワークショップで進めてゆく。なお、内容に関してはその時々トピックを採用するので変更する場合もある。		
	ジャーナリズム論	かわら版から現在までの新聞の歴史から言論統制史をたどる。また、新聞編集の仕方を学ぶことにより、重要なニュースとそうでないニュースの違いを見分ける目を養う。記事・文章の書き方では平易で的確な文章を書くためのポイントを解説する。見出し付け、記事作成など実習を重視する。随時ニュース解説をはさみ、社会の流れをとらえる力をつける。		
	放送メディア論	放送メディアは、我々の生活に欠くことのできない情報を提供している。現在のIT革命の進展や、高度な情報化社会が構築されつつある中で、デジタル化やビジネスモデルの変化、広告費の削減、制度的変化等により劇的な変容をしている。このような放送メディアの実相を、①現代放送メディアの実相と課題 ②社会における放送メディアの役割 ③個人と放送メディアの関係といった3つの視座から、最先端の放送事情を開示しながら講義する。		
	身体メディア論	4日間の集中講義（実技を含む）で、「狂言」の歴史や演目を学習し、小舞（こまい）小謡（こうたい）の実技を行う。実際に発声法を学び、動きやすい服装（体育用のジャージなど）で足袋をはいて、身体パフォーマンスを行う。また、おさらい会ではゆかたか着物を着用して実技を行う。		
専門教育科目	展開科目	マスコミ	電子掲示板、ブログ、YouTube、SNS、Twitterなどのソーシャルメディアは加速度的に進化をしている。社会に与える影響も非常に大きなものであり、政治やビジネスまで幅広い活用が注目されている。また、本格的なクラウドコンピューティングを背景にして、金城学院大学では2008年からGoogle Appsを導入している。本授業では多くの人にとって未知の可能性を秘めたソーシャルメディアについて、クラウドコンピューティングを活用しながら、学習することを目的とする。この授業では様々なソーシャルメディアを用いながらGoogle Appsコミュニケーションツール、コラボレーションツールを実際に使いながら利便性や危険性などについて考える。	
		アナウンス技術A	アナウンス技術について、元テレビ局アナウンサーの経験と立場から学生の質の向上を目指す。わかりやすい、聞き取りやすい話し方、美しい発音、豊かな表現力などを身に付け、場面に応じた表現技術を使えるようにする。仕事としてアナウンサーという職業につきたいという目標のためだけでなく、きちんと話すこと・自分の意見がきちんと言えること・正しい日本語を使うことなど、社会から求められていることは多い。話すということを通じて、会話や表現以外の目には見えない部分での人間関係の構築やスタンスの取り方、女性としてのマナーなども併せて学んでいく。	
	情報デザイン	自己表現技術	名古屋を中心に展開するモデルエージェンシー「セントラルジャパン」と提携して、プロのモデルをレクチャーしている専属講師からマナー講座・ウォーキングレッスン・フォトグラフィー・メイクレッスン・表情筋トレーニング・演技レッスンの7項目を学び、モデルの目標「綺麗になる」を実践形式で行い、女性の自己表現の技術を身につける。	
		情報学総論	社会と情報との関わりや相互作用について多面的に学ぶことで、情報社会、メディア、コミュニケーション、情報デザインに関する基本的な知識や考え方、情報への関わり方を総合的に習得する。さらには、具体例を示しながら、情報政策、情報と経済、情報と教育、情報とマスコミなど、情報技術の社会へのインパクトや社会との関わりについて講述するとともに、それを支える情報技術や今後の展望について、解説する。	
	カラーコーディネート論	カラーの応用を論じるには、「人がカラーを見て感じ、それを心に落としとして様々に思う」という心理を理論化するプロセスを踏む必要がある。なかなか応用に至れなかった過去のカラー理論を越えた新しいカラー理論によって、自由にカラーを操作応用できることを学ぶ。雑誌等の切り抜き写真のファイリングと分析を通して、カラーの応用プロセスを学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	展開科目	イラストレーション技術	授業の前半で、使用するソフトの画像処理操作の解説をする。その後、各自にその処理法を応用した作業を行い、課題に基づく作品制作をしてもらう。使用するソフトはPhotoshop と Illustrator である。Photoshop は、ラスタ・グラフィックを扱うソフトであり、Illustrator は、ベクタ・グラフィックを扱うソフトである。両者の特徴を比較しながら、イラスト画像処理操作方法を学ぶ。	
		Web制作技術	デジタル技術とインターネットの普及にともない Web は重要な情報伝達手段になった。本授業では、Web を作る技術 (HTML と CSS) について学ぶ。授業後半では、実際に課題にとり組み、使いやすいWeb、ユーザビリティを考慮した Web の作り方を実践的に学ぶ。	
		CG論	CG に関する基礎的な理論や技術について学ぶ。検定試験対応のため、知識の理解が中心となり試験では暗記力を要するが、授業では適宜CG画像ソフトのデモンストレーションを行い、映像撮影や編集、画像処理ソフトなどの活用方法も紹介する。毎回プリント配布しその解説をパワーポイントで進める講義形式。講義内容に関する検定試験過去問題を適時解説する。	
		アニメーション技術	イラストや写真の動的な表現、自由度の高いボタン生成やユーザビリティの高い入力フォームといったインタラクティブな Web コンテンツの制作を行う。本授業では、Flash (Adobe 社) の使い方を学び、より実践的な Web アニメーションコンテンツの制作方法を習得する。様々なサンプル素材を用意し、実践的に色々な作品を制作しながら進めていく。	
		デジタルコンテンツ制作技術	名古屋 (あるいは近郊) の情報スポットを実際に取材してインターネットのストリーミング放送と iTunes 用 podcast のコンテンツを作成する。作品は「金城ポットウオーク」として配信する。過去の授業で作ったコンテンツは http://podwalk.kinjo-u.tv/ で見るができる。また、Youtube のビデオとして podwalkkinjo のユーザ名で検索するとストリーミング映像をみることができる。	
	情報技術	マルチメディア論	デジタルデータの基本やコンピュータやネットワークの基礎や原理を学ぶことでその性質や特徴を確実に捉える。さらに社会的な応用に至るまで、マルチメディアを取り囲む様々な視点からアプローチすることで総合的な理解を追究する。授業ではマルチメディア検定ベーシック、エキスパートにも対応した解説を加え、簡単な小問題を解くことで確実に力をつける。	
		3D-CG技術	3次元画像の作成のための基本操作とモデリングを学ぶ。本授業では、3D制作が可能なフリーソフトを使い授業を行う。具体的には、ソフトの画面構成、3次元座標系の説明、旋回・押し出し、素材の画像処理、テキストチャーマッピング、シーンレイアウト、カメラの設置、レンダリングなどについて学ぶ。あくまでも制作をすることができる技術を身につけることを目標とし、その上で3DCGのネット上での活用などについても学ぶ。	
		映像論	美術や工芸、芸能、そして、映像・アニメーションや音楽、漫画、雑誌などサブカルチャー領域の歴史と作品事例や同時代の社会問題を起点として、歴史とメディアの関わりを軸とした現代における日本の形を考察する。映像やグラフィック資料や音楽など視聴覚の資料を事例として使用した講義を中心とし、一部の内容に関してはディスカッションを行う。	
		情報社会論	インターネットをはじめとする劇的な技術革新や手軽で安価に利用できるようになったブロードバンドの浸透によって、高度な情報化社会の到来を迎えた。しかし、私たちを取り巻く社会環境において情報は氾濫しており、本当に有用な情報は何か、日々の確な判断が求められている。本講義では、情報化社会の基盤となる技術やしぐみの解説を行い、社会、企業、教育、行政などにおける情報技術の活用に関する具体的な事例を通じて、社会の変化を理解する。	
		情報システム論	情報システムの開発にはコンピュータのハードウェア、ソフトウェア、データベース、ネットワーク、関連法規などの知識が必要となる。これら知識は情報技術者に加えて、システム管理者が習得しておくべき知識でもある。授業ではこれら情報技術者およびシステム管理者に問われる知識について学習する。国家試験である「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」の受験対策として、小テストを毎回実施する。	
情報技術論	OS (オペレーティングシステム) とは何か、という基本的な部分から始め、OS の機能の概要を学ぶ。OS をコンピュータの発達の歴史のなかでとらえ、そこに活躍した企業や人物にもスポットを当てることで、OS の技術に加えて目的や思想も理解する。MacOS、UNIX など身近に使えるパソコン用 OS を通して、基本的な設定、操作を理解する。OS を理解する上でポイントとなる、CPU、メモリ、バス、ディスクなどの役割や機能を説明する。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目		情報ネットワーク論	インターネットを中心にコンピュータ・ネットワークの現状と仕組み及びそれらを支える要素技術について学ぶ。加えて近年、問題意識が高まってきている情報セキュリティに対する理解を深める。		
		情報処理論	統計学の基本的な考え方と最低限必要な計算について、表計算ソフトの使い方の説明もまじえて講義する。宝くじ、テストの点数、トランプなど、身近なトピックスを扱ってデータ処理の基礎を学ぶ。現実のデータに触れて自分なりに推測、判断してみることが大切なので、宿題やレポートを通じて慣れながら技術を身につけていくことを重視する。		
		情報教育論	教育の情報化に対応した授業を実践するための資質・能力を討論や指導案作成等を通じて身につける。また個人やグループで課題に取り組む際にインターネットに接続されたコンピュータ（ICT（Information & Communication Technology））を1人1台使用し実際にインターネットでさまざまな情報収集を行い、その検討を行うことで情報批判力を養う。同時にICTを有効に活用するためのスキルも身につける。		
		プログラミング（1）	C言語の基本的なプログラミングをまず学習し、簡単なアルゴリズムを理解し、自分でプログラミングが出来るようにする。具体的には、①コンパイルとリンケージ、実行の方法、②出力文 printf によるプログラム、③入力文 scanf によるプログラム、④制御文（if、for、while 等）、⑤フラグと break、である。		
	展開科目	情報技術	情報職業論	この授業では、情報技術が実社会でどのように利用されているか、また社会全般にどのような影響を与えているかという技術的・文化的考察からはじめ、それら情報産業と職業とのかかわりについて学んでいく。また、教科「情報」の免許取得のための科目でもあるので「職業観・進路観」の指導法や情報にかかわる職業人としての資質や能力、職業倫理の内容も学習することとなる。また、教科「情報」で指導内容の基本事項にもあわせてふれる。	
			情報倫理論	情報化社会における倫理について学ぶとともに、社会におきている様々な問題事例を題材に、その問題の原因や対策について学ぶ。また、著作権法や個人情報保護法等の情報に関する法令に関する知識の習得、初等中等教育における情報モラル教育の指導内容等についても学ぶことを目的とする。	
			モデル化とシミュレーション	最初に一般的な問題解決の手法としてモデル化やシミュレーションの概要と手順について解説をし、次にモデル化における基礎数理やシミュレーションの具体的な方法について学ぶ。そして身近な事例や現象を実際にひとつひとつモデル化し、シミュレーションを行うことにより問題解決のためのさまざまな方法を習得する。また、本授業ではコンピュータ上で主に EXCEL を用いて学習するため、その操作や利用法についても復習をする。	
	実践・応用科目		ソーシャルビジネス論B	本講義では、ソーシャルビジネスについての事例研究（ケーススタディ）を行ってもらおう。理論と実践の両面から分析をし、ケースとしてまとめていくことで、ソーシャルビジネスが実践される上で必要なさまざまな要素について体系的な見識を身につけることを目的とする。	
			旅行業務研究	旅行業法第1条（目的）に定められている「旅行業務に関する取引公正の維持」「旅行の安全の確保」「旅行者の利便の増進」を営業所単位で管理・監督させるために、最低1人以上、旅行業務取扱管理者試験に合格した者を当該営業所の旅行業務取扱管理者として選任しなくてはならない。本授業は、当該業界で唯一の国家資格である国内旅行業務取扱管理者及び総合旅行業務取扱管理者の資格取得のため、旅行業法及びこれに基づく命令、旅行業約款、運送約款及び宿泊約款、国内旅行実務、海外旅行実務について学習する。	
			観光ビジネス研究	現在の旅行業界を取り巻く市場環境や市場ニーズに関し、現場の生きた状況を専門的に学んだ上で、今後の「旅行」について考察する。そして旅行業の代表的な仕事内容、業界最大手であるJT Bグループが目指す新たな事業領域について踏み込み、新しい「旅」の定義について考える。本授業は、これら急激な変化を遂げつつある旅行業界や旅行のあり方を前提知識として習得した上で、学生自身がツアー企画を立て、実施する実践型授業である。	
			通関業務研究	通関業務には、監督官庁となる税関に対する申告業務をはじめ、輸出入に関するさまざまな手続が含まれており、その遂行にあたっては、通関業法や関税法等、関連法規の幅広い専門的知識が要求されている。本授業は、通関業務において主要な国家資格とされる通関士資格の取得に備え、理論及び実務両面の講義を行うものである。具体的には、通関業法、関税法、関税定率法、関税暫定措置法等の関連法規のほか、通関書類の作成要領、その他通関手続きの実務について学習をすすめる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	貿易実務研究	貿易実務研究では、国際貿易の体制や輸出入に関する一連の手続の流れに始まり、各種の貿易用語、契約や保険、代金決済やクレーム処理等の実務について、現代の貿易実務をふまえた総合的な学習を行う。この授業では、商社や航空・船舶業界等、将来的に貿易に関連する仕事に就いた場合に必要となる知識の習得をめざすとともに、最終的な学習成果として、重要な関連資格である「貿易実務検定C級、B級」を取得することを視野に入れている。		
	NGO・NPO研究	現在、世界の政治や社会におけるNGO・NPOの影響力は無視できないほど大きくなっており、その多種多様な活動は国境を越えてグローバルに行われている。この授業では、このようなNGO・NPOの歴史と現状とを把握したうえ、とくに日本の国際協力NGOを素材として取り上げて、その歴史や活動実態、課題等について詳しく研究する。グループ学習と発表形式で実践的な授業をめざす。必要に応じてビデオやDVDなど視聴覚教材を使う。		
専門教育科目	実践・応用科目	ファイナンス研究	本授業は、銀行を中心とした金融仲介メカニズムの解明に重点を置いた従来の金融論の枠に留まらず、証券市場中心にした金融システムへの転換を踏まえた金融環境に焦点を当てるものである。より具体的には、(1)銀行、証券、保険など金融業界が必要とされる法令・諸規則、商品業務の知識を身につけること、(2)経済、金融、財政における基礎知識や財務分析を学ぶこと、(3)激変する金融環境に関するニュースを理解すること、この3点を主な目的とする。	
		Global Issues A	この授業では、英語で書かれた論文を読むことで、英文読解力をつけ、内容把握のための語彙を習得する。単に翻訳するのではなく、論文の内容を明確に理解することを目的とする。様々なテーマに関する英語論文を読んでいくが、毎回担当者が要約を発表し、質疑応答する形で内容に対する理解を深めていく。さらに各テーマに関連する英語論文を読み、最終的にはその内容についてディスカッションできるようになることを目指す。	
		Global Issues B	この授業では、英語で書かれた論文を読むことで、英文読解力をつけ、内容把握のための語彙を習得する。単に翻訳するのではなく、論文の内容を明確に理解することを目的とする。様々なテーマに関する英語論文を読んでいくが、毎回担当者が要約を発表し、質疑応答する形で内容に対する理解を深めていく。さらに各テーマに関連する英語論文を読み、最終的にはその内容についてディスカッションできるようになることを目指す。	
		Business English E	この授業では、旅行・観光業また国際取引や貿易に必要なビジネス英語を中心とした総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目的とし、異文化間でのビジネスに必要なマナーを理解し、適切な英語を身につけることを目的とする。具体的な内容としては、訪日外国人の観光ガイドや、ビジネスに必要な電話での会話表現やメールの書き方、英文履歴書やカバーレター、問い合わせなどのビジネス文書の書き方などの実践的な内容を主に4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)の習得を目指す。	
		Business English F	この授業では、旅行・観光業また国際取引や貿易に必要なビジネス英語を中心とした総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目的とし、異文化間でのビジネスに必要なマナーを理解し、適切な英語を身につけることを目的とする。具体的な内容としては、訪日外国人の観光ガイドや、ビジネスに必要な電話での会話表現やメールの書き方、英文履歴書やカバーレター、問い合わせなどのビジネス文書の書き方などの実践的な内容を主に4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)の習得を目指す。	
		プログラミング(2)	C言語の基本的なプログラミングをまず学習し、簡単なアルゴリズムを理解し、自分でプログラミングが出来るようにし、応用ができるようにする。具体的には、①変数の型と変換、②ポインタ、③アルゴリズムと配列の応用、④関数、⑤ライブラリの応用、である。	
		Webデザイン技術	Webページが情報伝達手段として重要になった昨今、「わかりやすい」「使いやすい」「印象に残る」「興味をもつ」Webページ作りは必須である。本授業では、Webデザイン会社が一般的に使っているDreamweaverというソフトを用いて、ユーザビリティ、アクセシビリティの高いWeb制作技術を習得する。	
		アナウンス技術B	アナウンス技術Aで学んだ基本技術を発展させるとともに、言語表現の重要性を学び、パブリックスピーカーとして生活場面で実践できる力を習得する。また、言葉を用いたコミュニケーション能力向上のため、総合的な学習に取り組む。実習・作業・相互評価等、授業へのアクティブな参加が条件となる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	デジタルミュージック技術	コンピュータの発達により専門的な分野であった音楽も容易に取り入れられるようになった。しかし、容易といっても基礎的な知識（作曲技法、編曲技法）はある程度必要である。そこで、基礎的な知識（コンピュータ、MIDI、キーボードの操作を含む）を教え、作曲、編曲、楽譜の作成といった創作の楽しさを学ぶ。最終的には、2～3分程度の作品（作曲または編曲）を創作する。	
	DTP技術	DTPとは、印刷所に持ち込む出版物のデザインやレイアウトなどのデジタルデータをパソコンで制作することである。この授業では、企業内で使用する簡単な印刷物と本格的な印刷用のDTPの技術の基本を習得する。使用するソフトは、Photoshop、Illustratorである。	
専門教育科目	演習科目 国際情報演習 (1)	<p>(4 太田正登)</p> <p>まず、与えられた英語文献の全訳をすることによって、内容を正しく理解する。つぎに、それと同じ内容の日本語文献や新聞記事を検索し、類似の英語文献を読むことによって、英語表現の特徴や著者自身の考え方を検討する。こうした作業を通じて、国際政治上の問題を扱った政治家、研究者などの論文や新聞記事を英語文献で読むことによって、日本語文献だけでは理解できない時代背景、国内要因、国際要因、著者自身の立場などを考察し「国際政治を見る眼」を養う。</p> <p>(11 大橋陽)</p> <p>日本との比較を念頭に置きながら、現代アメリカの諸問題について学ぶ。その際、英文で書かれた論文、書籍、雑誌記事、新聞、オンライン上の文章を検索、輪読、発表、討論する。同時に、「外」から見た日本や日本人の姿について改めて見直すことで、異文化理解や外国研究の姿勢の基本を学ぶ。この演習の到達目標は、必要な語彙、文法、イディオムを増やすことによりリーディングを中心とした英語力を高め、各種英語文献を読解し、まとめ、発表する力を養うことである。</p> <p>(6 河野裕康)</p> <p>ヨーロッパを中心とした現代世界の動きについて、英語による論文や雑誌、新聞など基本的な文献を取り上げ、発表や討論を通じて、その内容を正しく理解し、重要な論点や問題点を議論できるようにする。その際、英語の文章を正確に読めるようにし、語学力を同時に向上させる。さらにテキストに関連するテーマについて、各人の興味関心に応じて文献資料を調べて一層深く学び、自分なりにレポートとしてまとめ、発表できるようにする。レポートの内容は、授業でも題材にして全体で議論する。</p> <p>(12 工藤多恵)</p> <p>アメリカやオーストラリアなどの英語圏の文化に関する英語教材を用い、毎回担当者がハンドアウトを作成し発表する。全員でディスカッションすることで、内容をより正確に理解し、適切に文章が解釈されているか確認することで、語学力の向上をめざす。また、テキスト中の指定されたトピックについて図書館やインターネットを利用してより詳しい情報や資料を集め、グループでディベートを行う。論理的思考を養い、自分の意見を表現することを目指す。</p> <p>(15 斎藤民徒)</p> <p>新聞記事やインターネットのニュースなどの時事問題を対象として、国際社会の現状を知ることのできる実用的な英語テキストを取り上げて、その内容を正しく読み解くとともに、発表や討論を通じて、重要な論点や問題点を議論できるようにすることをめざす。機会をみて、理解確認のためにテキストの全訳作業を課す場合もある。また、理解を深めるために主題を同じくする関連文献を調査し、レポートにまとめることを課題とすることもある。</p> <p>(19 齊藤由香)</p> <p>「地域資源を活かした観光まちづくり」をテーマに、フィールドワークを交えた調査研究を進める。まずはテーマに関する文献演習を行い、地域の魅力や特性を活かした観光まちづくりの事例を通じて、その考え方や手法について学ぶと同時に、身近な地域（主に名古屋市内）で簡単な巡検を複数回行うことで、フィールドワークの感覚をつかむ。その後、具体的な対象地域を選定し、本巡検を行う。巡検の際には、受講者はグループに分かれ、各々設定したテーマについて、事前および現地での調査を実施する。そこで得たデータを整理・分析した上で各受講者はレポートを作成し、ゼミでその成果を報告し合う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(16 時岡新)</p> <p>名古屋市周辺をおもな対象領域として、「戦争の記憶と語り継ぎ」をテーマに、インタビューと資料収集、関連施設等でのフィールドワークによる情報収集と分析をすすめる。課題設定から調査対象の選定、連絡とインタビュー、トランスクリプト作成と分析、訪問調査、これらを総合した報告書の制作にいたるまでをチームと個人で作業する。</p> <p>戦争の記憶を受講者の学習と関心にもとづき収集・分析・記述することで、受講者自身も語り継ぐ作業の一端を経験することになるが、一連の作業が持つ広義の参与観察の側面をも重視し、社会調査の持つ多面的性格を熟考する機会とする。</p>	
専門教育科目	演習科目	<p>(20 中村岳穂)</p> <p>「海外市場における日本製品のブランド力」と「訪日外国人旅行ビジネス」に関する文献を精査することにより、海外からの視点で日本企業の製品・サービスの現状を整理する。また、「外国人の視点」を意識して成功を収めている事例に関して、受講生が実際にフィールドワーク（参与観察、踏査、聴き取り）を行う。その成果について、学生間で討議を重ねながら、学期末までに報告書を完成させる。一連の実習を通して、各種メディアからの「情報収集」、「仮説の提示」、それを検証するための「質的・量的調査の実施」、「分析の整理」等の能力を養うことを目標とする。</p> <p>(17 長谷川元洋)</p> <p>教育用オブジェクト指向言語を使ったプログラミングである。C++やJavaと同じオブジェクト指向言語でありながら、初学者に理解しやすいドリトルを使用する。ゲームソフトやシミュレーションソフト等、自分で構想し、プログラム作品を完成させることを目指す。</p> <p>(5 小野知洋)</p> <p>身の回りの自然環境、里山環境の保全などを対象にして、自分で課題をみつけて、図書館やインターネットを利用した情報検索を体験し、さらに、それらをもとにした簡単な調査も加えて、プレゼンテーションを作成し、発表を行う。</p> <p>(2 牛田博英)</p> <p>Squeak（スクイーク）を使用したプログラミングを行う。プログラミングといっても、Squeak は絵に描いた部品をブロックのように組み合わせてプログラムを作ることができる。よって、初心者でも比較的容易にプログラミングを学ぶことができ、実際にスクイークは小学校の授業でも使用されている。この授業ではスクイークを用いてスクリプトの基本を学び、最終的にはゲーム、アニメーションなどの作品に仕上げる。</p> <p>(8 出町克人)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、DTP制作：カメラ撮影と画像処理技術を学ぶ。グループ毎にミニコミ雑誌の企画をし、テーマに基づく取材・撮影をし、DTP作業の全般を行う。 2、アニメーション制作：アニメーションソフト（Flash）で文字やキャラクターのアニメーション作品を制作し、Webや電子書籍での活用に役立つアニメーション知識と技術の習得をめざす。 <p>(7 庫元正博)</p> <p>このゼミでは企業の課題解決のために広告やマーケティングをどう用いるかを体験的に学ぶ。自分の関心のあるブランドを一つ選んで消費者分析、マーケティング分析を踏まえて商品企画や広告戦略を作る。最終的にはプレゼンテーションを行う。授業の中で関連文献の購読や、ディスカッションなども取り入れていく。また作文力、アイデア力養成の課題などもある。分析力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の高い人材を育てることを目的とする。</p> <p>(9 西尾吉男)</p> <p>3Dマイホームデザイナーによる3D-CADの操作を行う。さらに、ゲームの作成を通したプログラミングの実習。簡易に使用できるVB言語を使用するが、プログラミングの手法は共通であり、他の言語による開発の場合にも、その手法は役立つ。プログラミングのデバッグの方法、構造など、きわめて実践的な手法を学ぶ。ゲームをプログラミングし作成することにより、デバッグなどのプログラミング手法をマスターすることを目的としている。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(13 後藤昌人) 様々な技術やノウハウを生かして、情報文化学科オリジナルの情報配信チャンネルとしてインターネットでのストリーミングを想定したラジオ番組制作に取り組む。また、番組の内容も、10分前後の短い放送時間にあわせて、多彩にラインアップする。基本的には、ラジオのパーソナリティ、台本制作、ミキサー、ディレクターのチーム編成で番組を作り、やる気のある学生には大手のチャンネルによる放送も計画する。また制作したコンテンツは各グループで制作したWebを通じて配信する。</p> <p>(10 岩崎公美子) アニメーションソフト（Flashなど）を使い、オリジナルの絵本を制作する。絵本を制作する過程でストーリー展開の工夫をディスカッションする等、アニメーション技術の習得とともに、作品の意図をどのように人に伝えるか伝達手法についても学ぶ。</p>	
専門教育科目	演習科目	<p>(14 小室達章) 現代企業の経営に関わる問題について議論する。特に、1) 企業経営に関する基礎的な知識について（経営学のテキストの輪読）、2) 経営学を含む社会科学一般の方法論について（ものの見方考え方）、3) 企業経営に関するトピックについて（自分の興味ある企業経営テーマの分析）を議論のテーマとしたい。</p> <p>(1 磯野正典) メディアにより伝えられた、現代社会の事象を取り上げ、伝えられた内容の検証と伝え手の意図を究明する。つまり、新聞記事やテレビのニュースの後追い調査を自ら取材・調査を行うアクティブな授業である。また、課題追求における事実性、論理性、表現の的確性などについて意見交換をするとともに、プレゼンテーション力育成トレーニングによりパブリックスピーキングを習得する。</p> <p>(21 畠山正人) 本演習では、社会問題解決のアプローチとして近年注目を浴びるソーシャルビジネスをテーマに取り上げ、(1) ソーシャルビジネス成立の背景となる社会問題への理解を深めること、(2) ソーシャルビジネスの経営課題、経営手法の固有性に触れること、の2点を演習課題に設定する。本演習では、まず本演習テーマに関心が持てるよう、特定の社会問題やソーシャルビジネスについて具体的な事例、記述がなされている書籍の輪読を行う。また、そこで得た論点をふまえ、各自の感想を交えたプレゼンテーション、ワークショップを定期実施する。本演習の中で各自が、身近な社会事象に対する好奇心と探究心を養っていくとともに、プレゼンテーション能力を磨いていくことを目標に掲げる。</p>	
	国際情報演習(2)	<p>(4 太田正登) まず、与えられた英語文献の全訳をすることによって、内容を正しく理解する。つぎに、それと同じ内容の日本語文献や新聞記事を検索し、類似の英語文献を読むことによって、英語表現の特徴や著者自身の考え方を検討する。こうした作業を通じて、国際政治上の問題を扱った政治家、研究者などの論文や新聞記事を英語文献で読むことによって、日本語文献だけでは理解できない時代背景、国内要因、国際要因、著者自身の立場などを考察し「国際政治を見る眼」を養う。</p> <p>(11 大橋陽) 日本との比較を念頭に置きながら、現代アメリカの諸問題について学ぶ。その際、英文で書かれた論文、書籍、雑誌記事、新聞、オンライン上の文章を検索、輪読、発表、討論する。同時に、「外」から見た日本や日本人の姿について改めて見直すことで、異文化理解や外国研究の姿勢の基本を学ぶ。この演習の到達目標は、必要な語彙、文法、イディオムを増やすことによりリーディングを中心とした英語力を高め、各種英語文献を読解し、まとめ、発表する力を養うことである。</p> <p>(6 河野裕康) ヨーロッパを中心とした現代世界の動きについて、英語による論文や雑誌、新聞など基本的な文献を取り上げ、発表や討論を通じて、その内容を正しく理解し、重要な論点や問題点を議論できるようにする。その際、英語の文章を正確に読めるようにし、語学力を同時に向上させる。さらにテキストに関連するテーマについて、各人の興味関心に応じて文献資料を調べて一層深く学び、自分なりにレポートとしてまとめ、発表できるようにする。レポートの内容は、授業でも題材にして全体で議論する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(12 工藤多恵)</p> <p>アメリカやオーストラリアなどの英語圏の文化に関する英語教材を用い、毎回担当者がハンドアウトを作成し発表する。全員でディスカッションすることで、内容をより正確に理解し、適切に文章が解釈されているか確認することで、語学力の向上をめざす。また、テキスト中の指定されたトピックについて図書館やインターネットを利用してより詳しい情報や資料を集め、グループでディベートを行う。論理的思考を養い、自分の意見を表現することを目指す。</p>	
専門教育科目	演習科目	<p>(15 斎藤民徒)</p> <p>新聞記事やインターネットのニュースなどの時事問題を対象として、国際社会の現状を知ることのできる実用的な英語テキストを取り上げて、その内容を正しく読み解くとともに、発表や討論を通じて、重要な論点や問題点を議論できるようにすることをめざす。機会をみて、理解確認のためにテキストの全訳作業を課す場合もある。また、理解を深めるために主題を同じくする関連文献を調査し、レポートにまとめることを課題とすることもある。</p> <p>(19 齊藤由香)</p> <p>「地域資源を活かした観光まちづくり」をテーマに、フィールドワークを交えた調査研究を進める。まずはテーマに関する文献演習を行い、地域の魅力や特性を活かした観光まちづくりの事例を通じて、その考え方や手法について学ぶと同時に、身近な地域（主に名古屋市内）で簡単な巡検を複数回行うことで、フィールドワークの感覚をつかむ。その後、具体的な対象地域を選定し、本巡検を行う。巡検の際には、受講者はグループに分かれ、各々設定したテーマについて、事前および現地での調査を実施する。そこで得たデータを整理・分析した上で各受講者はレポートを作成し、ゼミでその成果を報告し合う。</p> <p>(16 時岡新)</p> <p>名古屋市周辺をおもな対象領域として、「戦争の記憶と語り継ぎ」をテーマに、インタビューと資料収集、関連施設等でのフィールドワークによる情報収集と分析をすすめる。課題設定から調査対象の選定、連絡とインタビュー、トランスクリプト作成と分析、訪問調査、これらを総合した報告書の制作にいたるまでをチームと個人で作業する。</p> <p>戦争の記憶を受講者の学習と関心にもとづき収集・分析・記述することで、受講者自身も語り継ぐ作業の一端を経験することになるが、一連の作業が持つ広義の参与観察の側面をも重視し、社会調査の持つ多面的性格を熟考する機会とする。</p> <p>(20 中村岳穂)</p> <p>「海外市場における日本製品のブランド力」と「訪日外国人旅行ビジネス」に関する文献を精査することにより、海外からの視点で日本企業の製品・サービスの現状を整理する。また、「外国人の視点」を意識して成功を収めている事例に関して、受講生が実際にフィールドワーク（参与観察、踏査、聴き取り）を行う。その成果について、学生間で討議を重ねながら、学期末までに報告書を完成させる。一連の実習を通して、各種メディアからの「情報収集」、「仮説の提示」、それを検証するための「質的・量的調査の実施」、「分析の整理」等の能力を養うことを目標とする。</p> <p>(17 長谷川元洋)</p> <p>教育用オブジェクト指向言語を使ったプログラミングである。C++やJavaと同じオブジェクト指向言語でありながら、初学者に理解しやすいドリトルを使用する。ゲームソフトやシミュレーションソフト等、自分で構想し、プログラム作品を完成させることを目指す。</p> <p>(5 小野知洋)</p> <p>身の回りの自然環境、里山環境の保全などを対象にして、自分で課題をみつけて、図書館やインターネットを利用した情報検索を体験し、さらに、それらをもとにした簡単な調査も加えて、プレゼンテーションを作成し、発表を行う。</p> <p>(2 牛田博英)</p> <p>Squeak（スクイーク）を使用したプログラミングを行う。プログラミングといっても、Squeak は絵に描いた部品をブロックのように組み合わせてプログラムを作ることができる。よって、初心者でも比較的容易にプログラミングを学ぶことができ、実際にスクイークは小学校の授業でも使用されている。この授業ではスクイークを用いてスクリプトの基本を学び、最終的にはゲーム、アニメーションなどの作品に仕上げる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(8 出町克人)</p> <p>1、DTP制作：カメラ撮影と画像処理技術を学ぶ。グループ毎にミニコミ雑誌の企画をし、テーマに基づく取材・撮影をし、DTP作業の全般を行う。</p> <p>2、アニメーション制作：アニメーションソフト（Flash）で文字やキャラクターのアニメーション作品を制作し、Webや電子書籍での活用役立つアニメーション知識と技術の習得をめざす。</p>	
専門教育科目	演習科目	<p>(7 庫元正博)</p> <p>このゼミでは企業の課題解決のために広告やマーケティングをどう用いるかを体験的に学ぶ。自分の関心のあるブランドを一つ選んで消費者分析、マーケティング分析を踏まえて商品企画や広告戦略を作る。最終的にはプレゼンテーションを行う。授業の中で関連文献の購読や、ディスカッションなども取り入れていく。また作文力、アイデア力養成の課題などもある。分析力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の高い人材を育てることを目的とする。</p> <p>(9 西尾吉男)</p> <p>3Dマイホームデザイナーによる3D-CADの操作を行う。さらに、ゲームの作成を通じたプログラミングの実習。簡易に使用できるVB言語を使用するが、プログラミングの手法は共通であり、他の言語による開発の場合にも、その手法は役立つ。プログラミングのデバッグの方法、構造など、きわめて実践的な手法を学ぶ。ゲームをプログラミングし作成することにより、デバッグなどのプログラミング手法をマスターすることを目的としている。</p> <p>(13 後藤昌人)</p> <p>様々な技術やノウハウを生かして、情報文化学科オリジナルの情報配信チャンネルとしてインターネットでのストリーミングを想定したラジオ番組制作に取り組む。また、番組の内容も、10分前後の短い放送時間にあわせて、多彩にラインアップする。基本的には、ラジオのパーソナリティ、台本制作、ミキサー、ディレクターのチーム編成で番組を作り、やる気のある学生には大手のチャンネルによる放送も計画する。また制作したコンテンツは各グループで制作したWebを通じて配信する。</p> <p>(10 岩崎公美子)</p> <p>様々な技術やノウハウを生かして、情報文化学科オリジナルの情報配信チャンネルとしてインターネットでのストリーミングを想定したラジオ番組制作に取り組む。また、番組の内容も、10分前後の短い放送時間にあわせて、多彩にラインアップする。基本的には、ラジオのパーソナリティ、台本制作、ミキサー、ディレクターのチーム編成で番組を作り、やる気のある学生には大手のチャンネルによる放送も計画する。また制作したコンテンツは各グループで制作したWebを通じて配信する。</p> <p>(14 小室達章)</p> <p>現代企業の経営に関わる問題について議論する。特に、1) 企業経営に関する基礎的な知識について（経営学のテキストの輪読）、2) 経営学を含む社会科学一般の方法論について（ものの見方考え方）、3) 企業経営に関するトピックについて（自分の興味ある企業経営テーマの分析）を議論のテーマとしたい。</p> <p>(1 磯野正典)</p> <p>メディアにより伝えられた、現代社会の事象を取り上げ、伝えられた内容の検証と伝え手の意図を究明する。つまり、新聞記事やテレビのニュースの後追い調査を自ら取材・調査を行うアクティブな授業である。また、課題追求における事実性、論理性、表現的的確性などについて意見交換をするとともに、プレゼンテーション力育成トレーニングにより、パブリックスピーキングを習得する。</p> <p>(21 畠山正人)</p> <p>本演習では、社会問題解決のアプローチとして近年注目を浴びるソーシャルビジネスをテーマに取り上げ、(1) ソーシャルビジネス成立の背景となる社会問題への理解を深めること、(2) ソーシャルビジネスの経営課題、経営手法の固有性に触れること、の2点を演習課題に設定する。本演習では、まず本演習テーマに関心が持てるよう、特定の社会問題やソーシャルビジネスについて具体的な事例、記述がなされている書籍の輪読を行う。また、そこで得た論点をふまえ、各自の感想を交えたプレゼンテーション、ワークショップを定期実施する。本演習の中で各自が、身近な社会事象に対する好奇心と探究心を養っていくとともに、プレゼンテーション能力を磨いていくことを目標に掲げる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	演習科目	<p>国際情報演習 (3)</p> <p>(4 太田正登) このゼミの最大の目標は、合同ゼミ（名古屋国際関係合同ゼミナール）に参加することである。合同ゼミとは、名古屋地区をはじめとする国際関係論や国際政治学を学ぶいくつかの大学のゼミナールが集まって開催されるもので、この準備のために、テーマの設定や役割分担などを皆で話し合いながら決定し、1つの発表論文を完成していく。こうした作業と当日の発表や討論を通じて、他人との協力の在り方を学ぶとともに、論文の書き方を習得していく。</p> <p>(11 大橋陽) アメリカの社会、歴史、経済、政治、生活様式について学ぶ。アメリカは先進国としては異例な人口の伸びを経験しており、それはパワーの源泉といえるが、他方で、国内の中に「世界の紛争」を抱えていることにもなる。こうした現代アメリカの諸問題について、重要な文献や各種統計等を用い学ぶ。この演習の到達目標は、アメリカ社会の諸問題を多角的視点からとらえ、それについて自分の考えを得られるように各種情報を検索・処理し、それを文章や口頭発表の形でプレゼンテーションできるようにする力を養うことである。</p> <p>(6 河野裕康) ヨーロッパと日本のさまざまな問題を比較検討し、身近な暮らしから社会全体の大きな問題へと視野を広げ、それらに対する理解と関心を深め、自分自身の見方を確立してゆく。基本的な文献を取り上げ、個人報告や討論などにより、その内容を正しく理解し、要点を適切にまとめ、問題点を議論できるようにする。テーマに関する文献検索の方法を学び、レポートを作成し、授業で題材として全体で議論する。そしてそれらが同時に、テーマの設定や論文の書き方としても、4年次の卒業論文の準備作業となるようにする。</p> <p>(12 工藤多恵) アメリカ、オーストラリアなど英語圏の文化や社会に関する英文テキストや映像、また海外の人々から見た日本文化や日本語を紹介する記事を使用し、語学力を高める演習を行うと同時に、「異文化」に対する理解をより深め、「自文化」を客観的にみる視点を持つことをめざす。また、「異文化コミュニケーション」の領域から受講者はそれぞれテーマを選び、英語でプレゼンテーションを行う。全員でディスカッションし、他者のフィードバックや意見を参考にレポートを作成する。</p> <p>(15 斎藤民徒) 演習形式で国際社会が抱える諸問題を考察する。関連文献や映像、参加者の報告を手がかりに、討論し、理解を深める。素材の内容を正確に理解し、要点を把握し、論点を提起できるようにする。さらに関連するテーマについて、自分なりにレポートとしてまとめられるようにする。演習の早い段階で、文献検索のために、図書館データベースの利用法を学び、実際に文献検索を行う。これらの演習を通して、国際社会が抱える諸問題に関する理解を深めながら、個々人の卒業論文（卒業研究）の主題と構成の決定に至る。</p> <p>(19 齊藤由香) このゼミでは、地域をとらえる一つの切り口として「景観」に注目し、近年のグローバル化やそれに伴う社会経済的な変化を背景に、世界・日本の諸地域がどのような変容を辿っているのかを考察することを目的とする。ここでは、将来的に実地調査（フィールドワーク）に基づいて卒論研究を行うことを目指し、身近な地域を対象とした野外実習を行う予定である。受講者は、文献演習、野外実習の事前勉強会、野外実習、データの整理・分析、実習後の報告会を経て、最終的には卒論の半分くらいの分量のゼミレポートを作成し、学期末に提出する。</p> <p>(16 時岡新) 私たちの「生」（生命、生活、人生）をつよく規定する「社会」のありようについて、おもにミクロレベル、メゾレベルの社会的諸現象を対象に研究する。家族やサークルなど小集団、コミュニティや地方自治体など日常生活の範域に照準し、それらの構成と機能、さまざまな相互作用の実相をさぐる。「現代社会」分野の科目群をまなび、日本の社会と文化に関心を持つ受講者の研究意欲に応えたい。また、全体社会理解のために、エリア・スタディとしての「地域研究」分野との接合も必須の課題とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	演習科目	<p>(20 中村岳穂) 現代の国際経済問題に関する基本的文献を精読しながら、全員で討論を重ね、「経済学的思考法」の習得を目指す。政治・経済・社会に関する諸問題は複雑であり、単純明快な「答」は用意されていない。ゼミ参加者は、自ら積極的に「良い問題」を発見し、それに対する説得力のある分析方法を考え出さなければならない。ゼミ参加者には、(1) 議論の土台となる基本知識を調査・学習し、(2) それから自らの視点・考えを練り上げ、(3) 最後に他のゼミ生に文章と口頭で伝達・表現する、という一連の作業を繰り返して行ってもらい、卒業論文執筆のための頑健な「礎」を築いてもらう。</p> <p>(17 長谷川元洋) 情報モラルに関するゼミである。インターネット上の様々な問題事例を取り上げ、その原因の分析と対策について学ぶ。なお、自習室の PC の組立実習も行う。</p> <p>(5 小野知洋) 4年次の卒業研究を行うのに必要な過去の研究を理解し、自分の調査や実験実施のために必要な情報を集める。対象とする課題は、自然環境の保全や自然と人の関わりに関するものを中心とし、調査や実験の準備を行うとともに、それらに関する討論をおこなって、卒業研究の方針を議論する。</p> <p>(2 牛田博英) プログラミング技術の修得を目指した演習が中心となる。対象テーマは主として以下の選択肢から各自の希望に応じて選択する。 (1) ロボット：AIBO やヒト型ロボットにゲームやダンスなどの演技をさせるためのプログラミング技術を修得する。 (2) Java：アニメーションやゲームなどを制作する技術の修得する。 (3) スマートフォンアプリ：iPhone, iPad, iPod touch, Androidなどの端末で動くアプリを開発する技術を修得する。 (4) 人工知能：文献を通して人工知能の基礎を学習し、応用例を考案する。</p> <p>(8 出町克人) ・電子書籍の作成：全体の大まかな編集方針を決定後、3・4班編成で取材・編集活動をする。 ・Illustrator、Photoshop、InDesignなどでのDTP作業 ・大型印刷のオープンキャンパス用ポスター制作(6月) ・2Dアニメーション 後期は、卒業制作に繋がる作品づくりを行う。 ・年間を通じて使用するソフトは、Photoshop、Illustrator、InDesign、Flashを予定している。</p> <p>(7 庫元正博) このゼミは前期にスキル研修、後期にスキルを活かした実際の企業へのプロジェクト参加、プレゼンテーションを予定している。マーケティング戦略、商品企画、広告戦略、表現戦略などを、事例研究を通じてディスカッションしながら学ぶ。また後期は、学んだスキルを活かして企業の課題解決を図り、プロジェクト参加、またプレゼンテーションを実施する。そのためのより効果的に伝えるプレゼンテーションスキルも同時に養成していく。</p> <p>(9 西尾吉男) コンピュータの仕組み、組み立て、ソフトのインストール、環境の設定を行う。さらに、コンピュータ言語(JAVA, C, VBなど)についての基本的な学習を行い、Flash、コンピュータミュージックなど卒論・卒制作に役立つであろうソフトを簡単に使用する。後半では卒論・卒制にむけての個々の指導を行う。また、街並み、歴史的な事物、文化などにコンピュータ技術、バーチャルリアリティ技術を用い紹介するなど、コンピュータの応用を行う。</p> <p>(13 後藤昌人) このゼミでは、はじめにITやWeb技術の基本や社会的応用例について詳しく学ぶ。その上で具体的なテーマについて調査・企画を行い、制作に向けた基本コンセプトを作る。また、社会での実践に必要な要素を知るため、関係者へのヒアリングや時には現場での撮影や打ち合わせに出席する。機器やソフトウェアの扱い方から制作のプランニングまでをトータル的に養成することを目的とする。</p>	
専門教育科目	演習科目	<p>(10 岩崎公美子) Webコンテンツ制作を中心に行うゼミである。前期にWeb制作技術、アニメーション制作技術などを習得する。後期は学んだスキルを活かしてチームでWeb制作の課題などに取り組む。科学館や小学校などとプロジェクトを組み、実践的なコンテンツ開発を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(14 小室達章) 企業経営に関する基礎的な知識、経営学を含む社会科学一般の方法論、環境問題や製品の安全性など企業をとりまくさまざまな社会問題について議論することにより、企業経営および経営学の専門的知識を醸成するとともに、自分なりの分析視点を構築し、企業経営を題材にした卒業論文の準備をおこなう。</p> <p>(1 磯野正典) 現代メディアが抱える様々な問題を取り上げ、議論や検証を行うことにより、専門知識や分析視点を涵養する。具体的には、ローカルメディアの現状について、文献研究や実地調査を行う。これらの積み重ねにより、問題発見・絞込み・課題解決にトライして、自己能力開発に結びつける。また、毎回各自の小テーマによるレポートを作成し発表する。これらを積み重ねて卒業論文の材料とする。合わせて、プレゼンテーション技能の習得に努める。</p> <p>(21 畠山正人) 本演習では、社会問題解決のアプローチとして近年注目を浴びるソーシャルビジネスを取り上げ、(1) ソーシャルビジネスに固有の制度環境、経営課題、経営手法についての基礎的な知識、理論を学ぶこと、(2) ソーシャルビジネスの実践現場に触れ、実践感覚と問題意識を育むこと、の2点を主な演習課題とする。そこで、演習内では主に、ソーシャルビジネスに係る学部生向けの専門書の輪読を行いその感想、論点を発表し合う他、実践家を招いての講演や実践現場でのフィールドワーク等を行っていくこととしたい。それらを通じて各自が、単に知識や理論を習得するだけでなく、それら既成の知識、理論に囚われない知や問いを現場から発見する感受性を養うことを目標に掲げる。</p>	
	国際情報演習 (4)	<p>(4 太田正登) まず、卒業論文のテーマの設定、資料の収集、論文の組み立て方などに關して検討する。 ここでは国際関係の問題についての個人研究が中心となるが、その検討は全員で行う。それによって、お互いに刺激しあい、相互の理解を深めた上で、卒業論文を完成していく。具体的には、まず書き方や(注)の付け方など共通する部分を学び、文献報告や構想報告での議論によって、内容を深めていく。</p> <p>(11 大橋陽) この演習はひとえに卒業論文の執筆を最終目標としている。学生は、アメリカもしくは経済に関する卒業論文テーマを設定し、執筆計画や文献のレビュー、中間報告について個別報告を行い、互いに討論し合う。書き上げた後は読み合わせを行い、提出後は発表会を開催する。この演習の到達目標は、アメリカもしくは経済に関するテーマについて、「問い」を作り、それに対する仮の「答え」つまり仮説を立て、その仮説の「根拠」を論理的に叙述できるようにすることである。</p> <p>(6 河野裕康) 国際社会とりわけヨーロッパと日本の社会生活から政治経済まで多面的に扱い、それらに関する諸問題について、各人が自主的にテーマを設定して、卒業論文を作成できるようにする。自らのテーマに関する重要な文献資料を探索し、その内容を正確に理解し、要点を適切に把握して論点を提示する。個人報告への質疑や意見交換、討論などを通じて、理解と関心を一層深め、よりよい卒業論文の完成をめざす。目次、文献目録、草稿の作成など、計画的に作業が進むようにする。なによりも各人の積極的な取り組みが求められる。</p> <p>(12 工藤多恵) この演習の最大の目標は卒業論文または卒業制作を完成することである。受講者は「自文化」からテーマを設定し、卒業研究の構成を検討し、必要な資料や情報を収集する。ゼミでは、進捗状況の発表を行い、効果的なプレゼンテーションの方法を模索しながら、より適切な英語表現や言い回しを全員で検討する。また、質疑討論を重ねることで、海外の人々にとってわかりやすく、興味深い内容となるように参加者全員で協力し合う。</p>	
専門教育科目	演習科目	<p>(15 斎藤民徒) この演習は、卒業論文の完成、すなわち卒業研究の成就に向かうプロセスの一環にある。演習参加者は、それぞれ取り組んでいるテーマについて、調査経過と調査結果とを報告する。それを全員による討論の素材とすることによって、あらたな問題点の発見等につなげ、卒業研究の深化をめざすとともに、計画的に卒業論文が執筆できるようにする。全体を通して、テーマの設定、文献資料の収集、レジュメの作成、個人報告での質疑討論など、各人の積極的な取り組みが求められる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(19 齊藤由香) 卒業論文の執筆に向けて、各自が設定したテーマに基づき調査研究を進め、毎回のゼミではその進捗状況報告とこれに関する討論を行う。年間を通じて、①仮題目発表(4月)、②論文構想発表(5月)、③既存研究レビューの発表(6~7月)、④中間報告(9月)、⑤最終報告(10~12月)の計5回の発表機会を設定するので、受講者はこれに標準を合わせて各自調査研究を進めていく。発表担当者は、各回ともに報告用資料(レジュメ)を作成し、全員に配布する。報告内容やレジュメに対して、受講者全員で議論し、問題点・疑問点を洗い出すことで、より完成度の高い卒業論文の作成を目指す。</p> <p>(16 時岡新) 卒業論文の完成を目標に、各自のテーマ設定、調査と分析、論考の作成に資する演習をおこなう。おもに日本の社会と文化を対象とした、実査による情報収集にもとづく研究と論文作成を支援する。論文作成の基本的な流れ、執筆に際しての要項を全体で確認したのち、毎回の演習では受講者が年間スケジュールに沿って研究の進捗状況を報告、討論をくり返す。作業の過程では研究それ自体の手法のみならず、レジュメの作成、発表とディスカッションなどプレゼンテーション・スキルの向上にも努める</p> <p>(20 中村岳穂) 卒業論文完成に向けて、構想や草稿についての口頭発表を絶えず行い、他のゼミ参加者との討論を重ねる。論文執筆は、大学生活の知的活動の集大成である。構想を固めるまでには、授業時間外に図書館などに行き、静かな内省的作業(課題についての「自問自答」)を行ってもらおう。良い準備はよい発表につながる。発表の場では、説得力のある議論を展開したり、建設的な批判したりしながら、広義の「共同作業」を体験してもらおう。卒業論文は一朝一夕で完成しない。教員が指示する年間スケジュールを厳しく守り、着実に作業を進めていくことが最も重要である。</p> <p>(17 長谷川元洋) 教育工学、情報教育に関するゼミである。各自が設定した卒論のテーマについて調査、研究を行う。主として、ネット利用実態調査とその分析、情報モラル教育の教育方法の研究などを行う。なお、卒論のテーマは、教育工学、情報教育に関するテーマであれば自由に設定することを認める。</p> <p>(5 小野知洋) それぞれの卒業研究を行うのに必要な過去の研究を理解し、自分の調査や実験実施のために必要な情報を集める。対象とする課題は、自然環境の保全や自然と人との関わりに関するものを中心とする。各個人の調査や実験が進行していく過程で中間報告を行い、卒業論文の作成に向けて相互に議論する。</p> <p>(2 牛田博英) 国際情報演習(3)で修得した知識・技術をもとに卒業制作・卒業論文に取り組む。卒業制作の対象としてはロボット制御またはスマートフォン(iPhone, Android)・タブレット端末(iPad, iPod touch)のアプリ開発などのプログラミングを扱い、卒業論文の対象としては人工知能を扱うが、それ以外にも履修者の知識・技術・関心に応じて卒業制作・卒業論文のテーマを決定する。その中で研究事例を紹介したり、テーマの選び方・進め方、論文の書き方、プログラミング技術、およびプレゼンテーション技法などについて指導する。</p>	
専門演習科目	演習科目	<p>(8 出町克人) 卒業制作に向けた表現の知識と技術を養う。 ・制作指導として授業時に使うコンピュータの機種は、MACであるが、Windowsとのデータ互換は、可能なかぎり努力する。 ・受講学生のテーマに沿って、共通に扱える内容と個別的な内容とを区別しながら、演習を進める。 ・前期は、できるだけ共通する内容のCG技術を扱うが、後期からは個別に対応する予定。</p> <p>(7 庫元正博) 国際情報演習(3)で獲得した知識とスキルを活かして、マスコミ・広告にかかわる企業事例研究、消費者心理・行動研究などをテーマにして理論研究、実証研究を行い卒業論文を作成する。テーマは比較的自由であり、メディア、広告表現・クリエイティブ分析、ブランド動向、消費者行動・心理などからテーマを選定する。なるべく実証的なレポートを作成するため、消費者調査や企業ヒヤリングをすることが望ましい。授業はゼミ生に対する全体授業と、論文への個別指導からなる。適宜アドバイスを実施していく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(9 西尾吉男) 今までに学んだプログラミング、コンピュータ・グラフィックスの理論と技術を応用し、アニメーションによる可視化の手法を駆使し卒業制作を行なう。また、Web3D 応用、プログラミング技術などによる、卒業論文も選択できる。個々の履修者が望む卒業制作・卒業論文のテーマに基づき、個別指導を行う</p> <p>(13 後藤昌人) 各自が持つテーマに沿って、調査、分析、コンセプト設計を行う。その上でソフトや技術を活用してシステムやコンテンツを具体的に表現する。全ての過程においてそれぞれの進捗にあった個別指導とゼミ生全員でのディスカッションを繰り返し作品や論文を作り上げていく。加えて随時卒業制作や論文の作成に向けた研究のまとめ方、プレゼンテーション方法を学習する。</p> <p>(10 岩崎公美子) 国際情報演習（3）で獲得した知識とスキルを活かして、プロジェクト単位でコンテンツ開発を行う。プロジェクトの過程のなかで、コンテンツ制作技術を養成するとともに、デザイン技術、自己表現技術なども同時に習得する。また、授業のなかで、ユーザビリティ、アクセシビリティの調査を行い、実際に社会で役立つコンテンツについてディスカッションを深めていく。</p> <p>(14 小室達章) 現代社会における企業経営に直面する様々な問題の中で、特に、社会的関心の高い問題について研究する。特に、企業経営に直面する問題がどのようなメカニズムの中で発生するのか、また、企業経営としてどのように対応するのかなどを論理的に考察し、自分なりの考察結果を表明する</p> <p>(1 磯野正典) 卒業論文指導とメディア業界研究を行う。実証的研究につながるローカルメディア企業の調査・ヒアリング、メディアコンテンツに関する問題等、変化の現場に自ら飛び込み、実体験からの気づきが研究テーマにつながることから、名古屋・北海道・沖縄等のローカルメディア企業へのアプローチを奨励する。尚、論文は秋までに最低2万字を脱稿、そこを出発点に指導する。</p> <p>(21 畠山正人) 本演習では、社会問題解決のアプローチとして近年注目を浴びるソーシャルビジネスを取り上げ、（1）その基礎知識を習得しつつ、各自が特に関心を抱く専門領域を見出すこと、（2）当該専門領域に係る問題意識を醸成し、そこに根づく課題を自らの視点で発見し、説得力をもってそれを主張すること、の2点を演習課題とする。また、本演習では同時に、その結果をまとめた卒業論文の作成を目指す。そこで、年度当初に学生各自（またはグループ）に大まかな研究テーマの選択と、テーマに沿った調査活動を実施してもらう。また各自が進捗状況を発表し合い、教官の助言および学友どうしの意見交換を行うことで、研究テーマの深化とより質の高い卒業論文の作成をナビゲートしていく。以上を通じて、一社会人としてのコミュニケーション能力を形成するとともに、自らの主張を整理し、的確な結論を見出す能力を養成することを目標に掲げる。</p>	
卒業論文	卒業論文・卒業制作	4年間の大学での学びおよび国際情報演習（3）（4）の集大成を、卒業論文・卒業制作という形で結実させる。各自の関心にもとづきテーマを選び、それぞれ関連する専門分野の教員の指導のもとで学習成果を卒業論文・卒業制作としてまとめる。	
教職に関する科目	教職入門	教師のあり方について、多様な視点から捉える。教師に必要な資質・能力、教育現場の現状、教育基本法や学習指導要領の改訂についての理解を深める。そのため、教職の意義および教師の役割について考察する。また、教員の職務内容として、学習指導、生徒指導、教育相談、進路相談、学級経営、研修、サービスおよび身分保障等を理解する。進路選択に資する各種の機会の提供を行い、教職志望の意志や教師としての資質を確認する。なお、教育現場の現状については、調査レポートの課題を出す。	
	学校と教育の歴史	先ず「教育の理念」について考える。続いて、西洋の古代ギリシア・ローマ時代から現代、及び、日本の近世から現代に至る教育の歴史・教育思想の歴史について講述する（西洋についてはドイツ教育史を中心とする）。最後に、教育において何が「時代によって変わるもの」であり、何が「時代を超えて変わらぬもの」なのかについて考える。授業では、各時代の子どもたちや教育に関する写真や図像資料、ビデオ映像などをスクリーンに映し出し、できるだけビジュアルに理解できるように話を進めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育制度論	最近の教育改革の動向を紹介し、諸君の関心のあるところを中心に、その理解を深める。主に、これから予定されるゆとり教育後の最初の学習指導要領の特徴と学力問題を扱う。次に、教育と教育制度の関係から始め、教育制度の主な分野である学校教育、社会教育・生涯学習の制度を概説する。同時に、教育制度の基礎となる教育関係法規の理解に進む。憲法、教育基本法、学校教育法、地方教育行政法、生涯学習振興法などを取り上げる。現在、教育関係法律の改正がほぼ終了した段階にあるので、教育法の最新の動向が、この講義によって正しく理解されるようにする。	
	障害者教育論	本講義では、我が国やアメリカ合衆国を中心として、障害児者教育の歴史、立法、行政制度、特色、教育内容、教師教育、テクノロジーの利用などの歴史的な経過や理論的根拠などを考察する。さらに、情報化社会における障害者の学習や余暇、遠隔での学習や在宅での就労におけるネットワークの活用などを実習をとおして学び、新しい特別支援教育の在り方と展望を考える。	
	教育課程論	教育課程は、学習者に獲得が期待される力や知識・技能とそのための教育計画である。教育課程は、学校が編成することを基本としているが、国家レベルのものもあれば、教師個人のレベルまでである。各レベルの区別と関連、教育課程編成の考え方、ここの教師が教育課程を編成し、それらを実践を含んで評価できるようになるための基本的知見と技法を講義する。	
	社会科・地理歴史科教育の研究A	小学校低学年の社会科の廃止と生活科新設、中学の公民への分野名の変化、地歴並行学習、高校社会科で地歴科・公民科の分離があり、今日「社会科」の名称が残っているのは中学校の社会だけである。社会科が廃止して60年余り、社会科は変わらないように思っているかもしれない。しかし、社会科の名称の変更とともに社会科のあり方も変わった。そもそも、「社会科」とは何か。「社会科」学習の目的は何か。中等教育の社会科学習に何が求められているのであろうか。地歴科の教科書を使って実際の授業を行うことを想定した社会科の学びを考えていく。	
	社会科・地理歴史科教育の研究B	「社会化・地理歴史科教育の研究A」で学んだことを基盤に、引き続き、社会科で何を学ぶのか、何を教えるのか、を考えていく。教育実習の授業に当惑しないよう、15回の授業を通して、社会科の学びについて、実践的に考えていきたい。地歴科の教科書を使って授業計画を立て指導案（授業案）を作る。具体的に教材を検討する中で社会科を考える。	
	社会科・公民科教育の研究A	小学校低学年の社会科の廃止と生活科新設、中学の公民への分野名の変化、地歴並行学習、高校社会科で地歴科・公民科の分離があり、今日「社会科」の名称が残っているのは中学校の社会だけである。社会科が廃止して60年余り、社会科は変わらないように思っているかもしれない。しかし、社会科の名称の変更とともに社会科のあり方も変わった。そもそも、「社会科」とは何か。「社会科」学習の目的は何か。中等教育の社会科学習に何が求められているのであろうか。公民科の教科書を使って実際の授業を行うことを想定した社会科の学びを考えていく。	
教職に関する科目	社会科・公民科教育の研究B	「社会化・公民科教育の研究A」で学んだことを基盤に、引き続き、社会科で何を学ぶのか、何を教えるのか、を考えていく。教育実習の授業に当惑しないよう、15回の授業を通して、社会科の学びについて、実践的に考えていきたい。公民科の教科書を使って授業計画を立て指導案（授業案）を作る。具体的に教材を検討する中で社会科を考える。	
	情報科教育の研究	普通教科「情報」及び専門教科「情報」の各科目について、教育課程編成のあり方を検討する。また、情報科の授業実践や関連する授業実践の事例について、学生たちが自らコンピュータなどを用いた体験的な活動を行うことなどを通して理解を深める。そして、指導案の作成や模擬授業の実施を通して、情報科の授業実践を計画し実施するために必要な力量の形成を図る。	
	道徳教育の理論と方法	日本や諸外国の道徳教育の歴史、現状、動向を概観した上で、「道徳の本質」について考える。さらに、子どもに「人間としての生き方についての自覚を深め」させ、その本来の「生きる力」をよみがえらせる方法について、学習指導要領を参考にし、種々の具体例に即しつつ考える。また、モラルジレンマを扱ったビデオ教材を視聴した後、各自道徳授業の学習指導案を作成・提出する。その中から代表者3名に模擬授業を実施してもらい、その授業及び指導案について相互にコメントを述べあうことにより、出席者各自が道徳の授業について具体的なイメージを持つことができるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別活動の指導法	本講義において、学生は運動会、遠足、児童・生徒会活動など特別活動の歴史的展開と教育課程における意味および戦後学習指導要領における特別活動の位置を学習し、特別活動の歴史的展開に関する知識を習得する。そして、小学校、中学校、高等学校における特別活動の具体的な実践展開を分析的に探求することによって、特別活動の教育課程設計と具体的な授業計画の基礎的知識を習得し、指導法の1つとして授業計画を作成する。第3に、特別活動の指導法のための子どもも理解、特別活動の有する人間形成の意味を学習し、教育学の視点から特別活動の指導法の基礎理論を学習する。	
	教育の方法の理論と実践	1) 教育内容・教材・教授行為・学習者という4つの次元を授業づくりの基本的なパラダイムとし、具体的な授業事例に即して、授業づくりの方法を講義する。 2) 学生諸君に期待することは、講義を記憶しようとせず、私の講義を素材に自分の頭で授業というものを考えるようにしてほしい。 3) 毎時間、コメント・カードを配布する。講義に対する意見や感想を率直に記してほしい。次の授業で私が「コメントのコメント」を行うが、これは講義の最重要の内容と位置づける。	
	教育方法と技術 (情報機器及び教材の活用を含む)	教育の情報化に対応した授業を実践するための資質・能力を討論や指導案作成等を通じて身につける。また個人やグループで課題に取り組む際にインターネットに接続されたコンピュータ (ICT (Information & Communication Technology)) を1人1台使用し実際にインターネットでさまざまな情報収集を行い、その検討を行うことで情報批判力を養う。同時に ICT を有効に活用するためのスキルも身につける。	
	生徒指導の理論と方法	生徒指導ならびに進路指導とはどのような教育活動で、教育課程上どのような位置づけに (あるいは意味が) あるのかを学ぶ。生徒指導とは「人格の形成を目的とし、学校教育のすべての機会、すべての教師によって行われる統合的な指導・援助であり、教育課程に基づく指導と相互に補完し合う性格をもつ」ものである。本講義では、講義者の教育経験を含め、できるだけ事例に触れ、生徒指導ならびに進路指導の現状とその可能性・限界を学ぶ。	
	教育相談	学校における子どものこころの問題への対処としてスクールカウンセラー制度が本格的に導入されてきた。しかし、依然として教師が子どものこころの問題に対して果たす役割は少なくない。本講義では教師が教育相談を行う際に理解しておくことよい事柄を学ぶことを目的とし、「学校における教育相談の概要」「問題行動の理解と対応」「学級経営に生かすカウンセリング技法」の3つの柱を軸に進めていく。また、受講生の人数によっては講義の中で実習・討論等も取り入れていきたいと考えている。なお、教職専門科目を兼ねるため、内容は主に中・高の教員免許状取得希望者を対象として構成している。	
教職に関する科目	教育実習A	「教育実習A」は、事前指導・実習・事後指導からなる3年次開講の3単位科目である。大学でおこなう「事前・事後指導」は3単位のうちの1単位分に当たる。「事前・事後指導」によって、実習生が実習にスムーズに入り、そこで充実した実習をし、その振り返りを通して多くのことが修得できるようにする。教育実習では、教科や特別活動、総合的な学習の時間 (中学校の場合はさらに道徳の時間) の指導を行う。教科の指導に関しては、授業観察・参加、授業担当ののち、研究授業を実施する。	
	教育実習B	「教育実習B」は、事前指導・実習・事後指導からなる4年次開講の3単位科目である。大学でおこなう「事前・事後指導」は3単位のうちの1単位分に当たる。「事前・事後指導」によって、実習生が実習にスムーズに入り、そこで充実した実習をし、その振り返りを通して多くのことが修得できるようにする。教育実習では、教科や特別活動、総合的な学習の時間 (中学校の場合はさらに道徳の時間) の指導を行う。教科の指導に関しては、授業観察・参加、授業担当ののち、研究授業を実施する。	
	教育実習C	「教育実習C」は、事前指導・実習・事後指導からなる4年次開講の5単位科目である。大学でおこなう「事前・事後指導」は5単位のうちの1単位分に当たる。「事前・事後指導」によって、実習生が実習にスムーズに入り、そこで充実した実習をし、その振り返りを通して多くのことが修得できるようにする。教育実習では、教科や特別活動、総合的な学習の時間 (中学校の場合はさらに道徳の時間) の指導を行う。教科の指導に関しては、授業観察・参加、授業担当ののち、研究授業を実施する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教職実践演習（中高）	<p>教員として必要な資質・能力を、講義、演習、課題（教育現場の調査等）の中で養成することをめざす。学内で学んできたこと学外での教育実習等で学んだことを基に、主体的に自分の資質・能力をさらに向上させていけるよう、自己を振り返らせたり、学生同士で議論させたりする場を複数回設定する。意見の発表やロールプレイ、模擬授業等を行い、その都度、学生間の相互評価と指導者からの評価の両方を行って指導する。また、特色ある教育活動や学校が直面している問題等を取り上げ、それを調査し、考察する課題を課す。</p>	